

平成 23 年度
牧之原市市民意識調査
～ 報 告 書 ～

平成 23 年 9 月
牧 之 原 市

目次

1	調査の概要.....	1
	1) 調査の目的	1
	2) 調査項目	1
	3) 調査の設計	1
	4) 回収状況	1
2	調査結果	2
	1) 調査結果の要約	2
	2) 調査結果の詳細	8
	< 牧之原市に居住することについて >	8
	< 合併後のまちづくりについて >	19
	< 市からの情報提供について >	21
	< 牧之原市の協働の取り組みについて >	25
	< 毎日の暮らしについて >	30
	< 子育てについて >	34
	< まちの活性化について >	36
	< 地場産業等の活性化について >	38
	< 環境に配慮した暮らしについて >	41
	< 原子力発電について >	44
	< 牧之原市の行政サービスについて >	45
	< 回答者の属性 >	63
3	調査票	65

1 調査の概要

1) 調査の目的

この調査は、「第1次牧之原市総合計画」の「後期基本計画(平成23～27年度)」及び「実施計画」(戦略プラン)に基づいた様々な取り組みに対し、市民の生活環境やまちづくりの進め方についての評価・意見を把握し、今後の市政に反映させることを目的に実施する。

2) 調査項目

- ・ 牧之原市に居住することについて
- ・ 市からの情報提供について
- ・ 毎日の暮らしについて
- ・ まちの活性化について
- ・ 環境に配慮した暮らしについて
- ・ 牧之原市の行政サービスについて
- ・ 合併後のまちづくりについて
- ・ 牧之原市の協働の取り組みについて
- ・ 子育てについて
- ・ 地場産業等の活性化について
- ・ 原子力発電について
- ・ 回答者の属性

3) 調査の設計

- ・ 調査対象：牧之原市在住（市内に住民票がある人）の20歳以上の男女 1,300人
- ・ 調査方法：無作為抽出による郵送配布・郵送回収
- ・ 調査期間：平成23年6月29日～平成23年7月19日
- ・ 発送数：1,296通（1,300人抽出のうち死亡・転居等で4通は未発送）

4) 回収状況

対象者数	有効回収数	有効回収率
1,296人	605人	46.7%

抽出数は1,300人であるが、発送前に死亡・転居等により市内の居住が認められない4人については対象外とした。
回収数607人のうち無効票2人

報告書を見る際の注意事項

回答は各質問の回答者数（N）を基数とした百分率（%）で示してある。

百分率は小数点以下第2位を四捨五入して算出した。このため、百分率の合計が100%にならないことがある。

1つの質問に2つ以上答えられる“複数回答可能”の場合は、回答比率の合計が100%を超える場合がある。

1) 調査結果の要約

牧之原市に居住することについて

牧之原市に「住み続けたい」は6割強

今の住まいの場所での定住意向は、「住み続けたい」が64.6%で最も多く、前回の平成21年度結果よりもやや減少している。一方、「市外へ移りたい」は15.5%で、前回結果とほぼ同じ割合となっている。

住み続けたい理由のトップは、「生まれ故郷だから」で約6割

住み続けたい理由は、「生まれ故郷だから」が61.9%で最も多く、次いで「自然環境が豊かだから」が55.2%、「知人や親戚が住んでいるから」が48.8%の順で、順位に差がみられるが、毎回、この3項目が上位を占めている。

他の地域へ移りたい理由のトップは、「公共施設や商店がなく生活に不便だから」で約5割

他の地域へ移りたい理由は、「公共施設や商店がなく生活に不便だから」が48.1%で最も多く、次いで「通勤・通学などに交通が不便だから」が45.1%、「人間関係やしきたり等が煩わしいから」が22.6%の順となっている。特に、「通勤・通学などに交通が不便だから」については、その割合が毎回増加している。

交通が不便と回答した理由のトップは、「電車が通っていないから」で6割以上

“通勤・通学などに交通が不便”と回答した人の主な理由は、「電車が通っていないから」が63.3%で最も多く、次いで「電車の駅が近くにないから」が60.0%、「バスの本数が少ないから」が45.0%の順で、バスよりも電車に関する理由が上位を占めている。

あれば良いと思う施設のトップは、「駅」で約6割

“公共施設や商店がなく生活に不便”と回答した人の欲しい主な施設は、「駅」が59.4%で最も多く、次いで「大型ショッピングセンター」が42.2%、「病院・診療所」が39.1%の順で、前問の交通環境に関する回答結果を反映しているものとなっている。

牧之原市に愛着を感じる人は5割強、感じない人は2割強

牧之原市に愛着を「感じる」と回答した人は54.4%で、前回結果よりもやや増加しているが、一方、「感じない」と回答した人は25.8%と、約4人に1人の割合となっており、前回結果よりも2割近く増加している。

合併後のまちづくりについて

牧之原市となって市政全般が『良くなった』は1割弱、『悪くなった』は約2割
合併後の市制全般については「変わらない」が48.9%と、ほぼ半数を占めており、良くなった（「大いに良くなった」+「ある程度良くなった」）と回答した人が8.3%に対して、悪くなった（「やや悪くなった」+「非常に悪くなった」）と回答した人は19.7%と、1割以上の差がみられる。悪くなったところとして、「合併しても一体感が感じられない」という意見を挙げている市民が多い。

市からの情報提供について

市からの情報発信に対して、満足派は約5割、不満派は約1割
市からいろいろな情報が発信されていると思う人（「大いに思う」+「ある程度思う」）は48.1%と、前回結果よりもやや増加している。一方、思わない人（「あまり思わない」+「まったく思わない」）は10.3%と、前回結果と大きな差はみられない。

市からの情報が役に立っている人は約4割、役に立っていない人は3割弱
市から発信している情報が役に立っていると思う人（「大いに思う」+「ある程度思う」）は39.3%で、前回結果よりもやや減少している。一方、役に立っていると思わない人（「あまり思わない」+「まったく思わない」）は27.5%で、やや増加している。

市の取り組みや行事に関する情報の入手手段は「広報紙」が圧倒的に多い
市の取り組みや行事の情報を知る手段は、「広報紙」が86.9%で圧倒的に多く、その割合は毎回増加している。2番目以降は「議会だより」が27.4%、「家族や知人、近所の人のお話」が27.3%、「区、町内会の会合」が26.1%と拮抗している。

牧之原市の協働の取り組みについて

協働の取り組みが大事と思う人は8割弱
協働の取り組みが大事だと思う（「大いに思う」+「ある程度思う」）と回答した人が76.9%と、8割近くを占めている。一方、大事だとは思わない（「あまり思わない」+「まったく思わない」）と回答した人は5.7%で、1割未満に留まっている。

協働の取り組みが進んでいると思う人はやや増加し、2割弱
協働の取り組みについては、進んでいない（「あまり進んでいるとは思わない」+「進んでいるとは思わない」）と回答した人が46.9%と、半数近くを占めているが、前回結果よりもやや減少している。一方、進んでいる（「進んでいると思う」+「以前に比べ進んでいると思う」）と回答した人は16.3%で、若干ではあるが、前回結果よりも増加している。また、協働での取り組みが進んでいる分野は、「防災対策への取り組み」が63.6%で最も多く、前回結果よりも1割近く多くなっている。

地域の困り事や不安を自分たちで解決できていると思う人は2割弱、思わない人は5割弱
地域の問題を自分たちで解決できていると思う（「大いに思う」+「ある程度思う」）と回答した人は16.3%で、2割を下回っている。一方、自分たちでは解決できているとは思わない（「あまり思わない」+「まったく思わない」）と回答した人は45.5%で半数近くを占め、3倍近いの差がみられる。

毎日の暮らしについて

心も体も健康で生活していると思う人は7割近くを占める

心も体も健康で生活していると思う(「大いに思う」+「ある程度思う」)と回答した人は66.4%で、7割近くを占めている。一方、健康で生活しているとは思わない(「あまり思わない」+「まったく思わない」)と回答した人は16.9%と、約4倍の差がみられる。

今現在、幸せだと思う人は7割以上を占める

今現在、幸せだと思う(「大いに思う」+「ある程度思う」)と回答した人は71.2%で、7割以上を占めている。一方、幸せだとは思わない(「あまり思わない」+「まったく思わない」)と回答した人は9.9%と、約1割に留まっており、幸福感は高いと思われる。また、幸せな生活のために必要なことは「健康であること」が92.2%と、圧倒的に多くなっている。

子育てについて

牧之原市が子どもを産み育てやすいところだと思う人は4割弱

子どもを産み育てやすいと思う(「大いに思う」+「ある程度思う」)と回答した人は36.0%、一方、子どもを産み育てやすいとは思わない(「あまり思わない」+「まったく思わない」)と回答した人は15.4%と、2倍以上の差がみられる。子どもを産み育てやすいとは思わない理由では「医療費の補助」や「市内に産婦人科の医療機関が少ない」といった意見が多く挙げられている。

まちの活性化について

市内で産業間交流が行われていると思う人は1割強、思わない人は3割強

市内で産業間交流が行われていると思う(「大いに思う」+「ある程度思う」)と回答した人は14.1%、一方、市内で産業間交流が行われているとは思わない(「あまり思わない」+「まったく思わない」)と回答した人は33.3%と、2倍以上の差がみられる。また、「わからない」と回答した人も約3割を占めている。

市外との交流が行われていると思う人は2割弱、思わない人は約4割

空港の就航先など、市外との交流が行われていると思う(「大いに思う」+「ある程度思う」)と回答した人は18.3%、一方、市外との交流が行われているとは思わない(「あまり思わない」+「まったく思わない」)と回答した人は39.4%と、2倍以上の差がみられる。

地場産業の活性化について

牧之原市の特産品(地場産品)は「茶」が約7割

ひとに自慢できる特産品(地場産品)を、自由意見の形式で記載してもらったところ、「茶」と回答した人が68.3%で、圧倒的に多くなっている。また、その特産品をひとで紹介したことがある人は82.3%と大半を占め、特産品に対する愛着度が高いことがうかがえる。

環境に配慮した暮らしについて

節電、節水、リサイクル活動を実践している人は6割弱

節電、節水、リサイクルなどの活動を実践している人（「大いに実践している」＋「ある程度実践している」）は56.9%で6割近くを占めており、資源の有効利用に対する意識が高いことがうかがえる。また、実践していることは「風呂水の再利用」、「ゴミの分別」、「太陽光パネルの設置」など、多岐に渡っている。

緑化、自然保護、環境美化活動を実践している人は約4割

緑化、自然保護、環境美化などの活動を実践している人（「大いに実践している」＋「ある程度実践している」）は40.4%で、前問の資源の有効利用の活動に比べると、実践している割合はやや低くなっている。

原子力発電について

浜岡原子力発電所の今後については「停止しておいたほうがよい」が過半数を占める

浜岡原子力発電所の今後については、「停止しておいたほうがよい」が53.6%で、過半数を占めている。一方、「安全が確認できれば、稼働したほうがよい」は19.8%で、約2割となっている。

牧之原市の行政サービスについて

行政サービスに対する考え方は、「市民生活に直接関係ない取り組みの経費を削除」が5割弱
財政状況が大変厳しい状況の中での行政サービスについては、「市民生活に直接関係のない取り組みの経費を削減」が46.0%で半数近くを占めて最も多く、次いで「一部のサービスは向上させるなど、メリハリをつけた取り組み」が26.4%の順となっている。

《自治体体質の強化》 「市の一体感の醸成を図る取り組み」の満足度が最も低い

自治体体質の強化分野では、「旧町間の格差を取り除く、市の一体感の醸成を図る取り組み」の満足度の評価点【-2点から2点の相対評価】が-0.81点で最も低く、合併後の取り組みの設問において、「合併しても一体感が感じられない」という自由意見が多くみられたことを反映している結果となっている。

《健康福祉》 「救急医療体制の整備、榛原総合病院の診療体制」の重要度が51項目の全ての取り組みの中で最も高い

「救急医療体制の整備、榛原総合病院の診療体制」の重要度の評価点は1.25点と、全ての取り組みの中で最も高くなっている。一方、満足度は-0.12点で、僅かにマイナス評価となっているが、前回結果（-1.30点）に比べると、かなり満足度は向上しているといえる。

《生涯学習》 「学校や地域で子どもを守る取り組み」の満足度が、51項目の全ての取り組みの中で最も高い

生涯学習分野では、「学校や地域で子どもを守る取り組み」の満足度の評価点が0.43点と、全ての取り組みの中で最も高く、また、「教養を高める機会、サークル活動への参加機会の提供」の満足度も0.39点で高くなっている。

《安全安心社会》 重要度が高い取り組みが多い

安全安心社会分野では、重要度の評価点が1点以上の取り組みが8項目中5項目（「自主防災組織の強化のための取り組み」「震災・火災・水害・浸水対策への取り組み」「消防体制の整備への取り組み」「幼稚園・保育園の整備」「小・中学校施設の整備」）となっており、分野としては、市政の中で最重要の分野といえる。

《生活環境》 「公共交通の充実」の満足度が低い

生活環境分野では、「公共交通の充実」の満足度の評価点が - 0.75 点でかなり低く、“大変不満”と回答した人が 25.8%と、全ての取り組みの中で最も高い割合となっている。一方、重要度の評価点では「ゴミの収集回数や処理方法」が 0.98 点で高くなっている。

《まちの活性化》 分野では、満足度が低い取り組みが多い

まちの活性化分野では、6項目中5項目において、満足度の評価点がマイナス値となっており、市民があまり満足していない分野といえる。特に「観光誘客促進のための取り組み」「企業誘致の取り組み」「空港を活用するための取り組み」「道路や河川の補修や道路や河川の整備」の4項目は - 0.5 点以下となっている。

《地場産業等の活性化》 分野の全取り組みにおいて、満足度がマイナス、重要度がプラス

地場産業等の活性化分野では、7項目全ての取り組みにおいて、満足度の評価点がマイナス値となっている。特に、「荒地となった農地の対策や利活用の取り組み」は - 0.97 点で、全ての取り組みの中で最も低い満足度となっている。さらに、重要度の評価点は全てプラス値となっている。

～ 全ての取り組みの満足度・重要度の評価点順位 ～

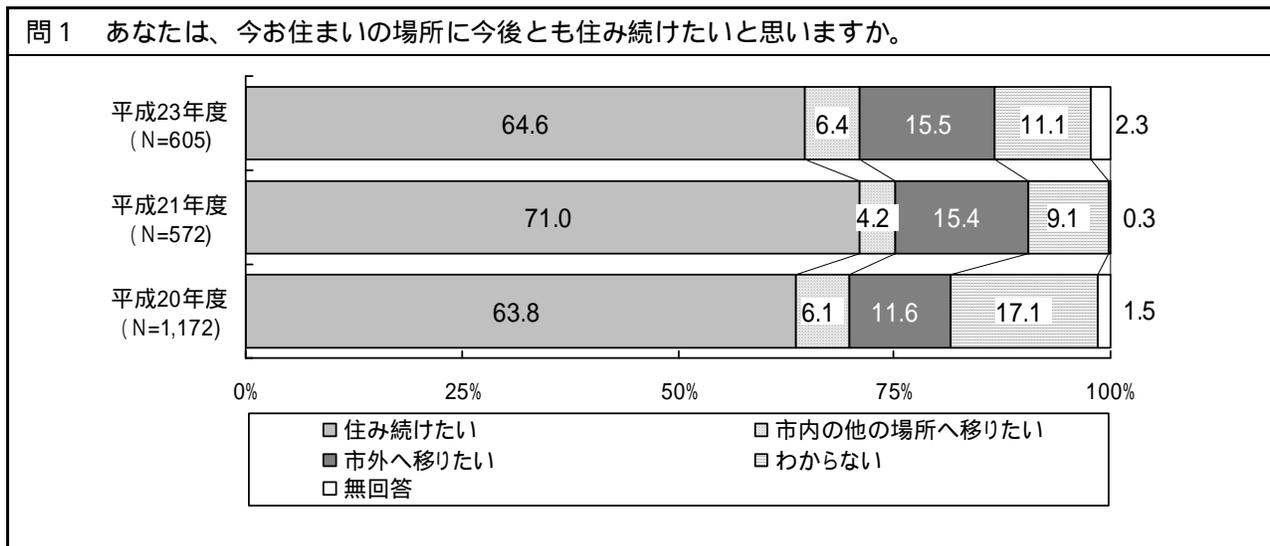
満足度				重要度			
順位	取り組み	分野	評価点	順位	取り組み	分野	評価点
1	学校や地域で子どもを守る取り組み		0.43	1	救急医療体制の整備、榛原総合病院の診療体制		1.25
2	教養を高める機会、サークル活動への参加機会の提供		0.39	2	震災・火災・水害・浸水対策への取り組み		1.21
3	乳幼児医療費制度		0.34	3	自主防災組織の強化のための取り組み		1.14
4	ゴミの収集回数や処理方法		0.32	4	小・中学校施設の整備		1.12
5	上水道施設整備の取り組み		0.32	5	幼稚園・保育園の整備		1.09
6	健康相談などの日常的な保健活動		0.30	6	消防体制の整備への取り組み		1.06
7	幼稚園・保育園の整備		0.30	7	乳幼児医療費制度		1.02
8	健康づくりサービスの推進		0.25	8	学校や地域で子どもを守る取り組み		1.00
9	小・中学校施設の整備		0.24	9	ゴミの収集回数や処理方法		0.98
10	市の情報などについて、広報紙などによる十分な情報発信		0.22	10	高齢者への福祉サービスの取り組み		0.94
11	高齢者への福祉サービスの取り組み		0.11	11	家具等の転倒防止などの防災対策への取り組み		0.89
12	障がい者への福祉サービスの取り組み		0.10	12	福祉施設などの整備		0.88
13	各種イベントの開催		0.06	13	障がい者への福祉サービスの取り組み		0.85
14	悩みごと相談など各種相談窓口の充実		0.05	14	夜道、盗難などの犯罪防止に対する取り組み		0.80
15	地区公民館などの活動拠点の施設整備		0.03	15	生活環境対策などへの取り組み		0.78
16	自然環境の保全への取り組み		0.02	16	道路交通の安全対策		0.78
17	公害防止対策への取り組み		0.00	17	上水道施設整備の取り組み		0.75
18	子育て支援の取り組み		-0.02	18	家庭や地域での子どもたちへの教育力向上への取り組み		0.72
19	文化や歴史の活用などの取り組み		-0.03	19	市の情報などについて、広報紙などによる十分な情報発信		0.71
20	生活環境対策などへの取り組み		-0.03	20	子育て支援の取り組み		0.71
21	公共スポーツ施設の整備		-0.06	21	行政改革の取り組み		0.64
22	消防体制の整備への取り組み		-0.07	22	健康づくりサービスの推進		0.64
23	家庭や地域での子どもたちへの教育力向上への取り組み		-0.10	23	道路や河川の補修や道路や河川の整備		0.63
24	救急医療体制の整備、榛原総合病院の診療体制		-0.12	24	茶業安定のための施策の取り組み		0.61
25	福祉施設などの整備		-0.13	25	特産品の消費推進の取り組み		0.56
26	自主防災組織の強化のための取り組み		-0.13	26	企業誘致の取り組み		0.52
27	行政と一緒に、課題解決やイベントなどの事業への取り組み		-0.17	27	健康相談などの日常的な保健活動		0.50
28	街並みや周辺の景観・美観への取り組み		-0.18	28	公共交通の充実		0.49
29	公園・緑地の管理や整備の取り組み		-0.21	29	旧町間の格差を取り除く、市の一体感の醸成を図る取り組み		0.47
30	情報通信技術の環境整備の取り組み		-0.22	30	荒地となった農地の対策や利活用の取り組み		0.43
31	茶業安定のための施策の取り組み		-0.28	31	公害防止対策への取り組み		0.40
32	自治会の住民自治活動への支援		-0.34	32	商工業の振興施策の取り組み		0.39
33	音楽や演劇などの接する機会の提供		-0.35	33	自治会の住民自治活動への支援		0.37
34	特産品の消費推進の取り組み		-0.36	34	商店街の魅力向上の取り組み		0.37
35	家具等の転倒防止などの防災対策への取り組み		-0.37	35	農漁業の担い手への支援の取り組み		0.37
36	商工業の振興施策の取り組み		-0.41	36	地区公民館などの活動拠点の施設整備		0.35
37	図書館の機能充実や図書館整備に関する取り組み		-0.45	37	行政と一緒に、課題解決やイベントなどの事業への取り組み		0.34
38	道路交通の安全対策		-0.46	38	自然環境の保全への取り組み		0.34
39	空港を活用するための取り組みの推進		-0.50	39	悩みごと相談など各種相談窓口の充実		0.33
40	道路や河川の補修や道路や河川の整備		-0.50	40	街並みや周辺の景観・美観への取り組み		0.33
41	夜道、盗難などの犯罪防止に対する取り組み		-0.61	41	情報通信技術の環境整備の取り組み		0.33
42	サガラメなどの繁殖する藻場の復元への取り組み		-0.61	42	公園・緑地の管理や整備の取り組み		0.31
43	震災・火災・水害・浸水対策への取り組み		-0.62	43	観光誘客促進のための取り組み		0.27
44	観光誘客促進のための取り組み		-0.67	44	図書館の機能充実や図書館整備に関する取り組み		0.25
45	企業誘致の取り組み		-0.67	45	空港を活用するための取り組みの推進		0.19
46	行政改革の取り組み		-0.70	46	教養を高める機会、サークル活動への参加機会の提供		0.13
47	商店街の魅力向上の取り組み		-0.70	47	サガラメなどの繁殖する藻場の復元への取り組み		0.13
48	公共交通の充実		-0.75	48	公共スポーツ施設の整備		0.09
49	旧町間の格差を取り除く、市の一体感の醸成を図る取り組み		-0.81	49	文化や歴史の活用などの取り組み		0.01
50	農漁業の担い手への支援の取り組み		-0.85	50	各種イベントの開催		0.00
51	荒地となった農地の対策や利活用の取り組み		-0.97	51	音楽や演劇などの接する機会の提供		-0.06

* 分野の凡例

 自治体体質の強化	 健康福祉	 生涯学習	 安全安心社会
 生活環境	 まちの活性化	 地場産業等の活性化	

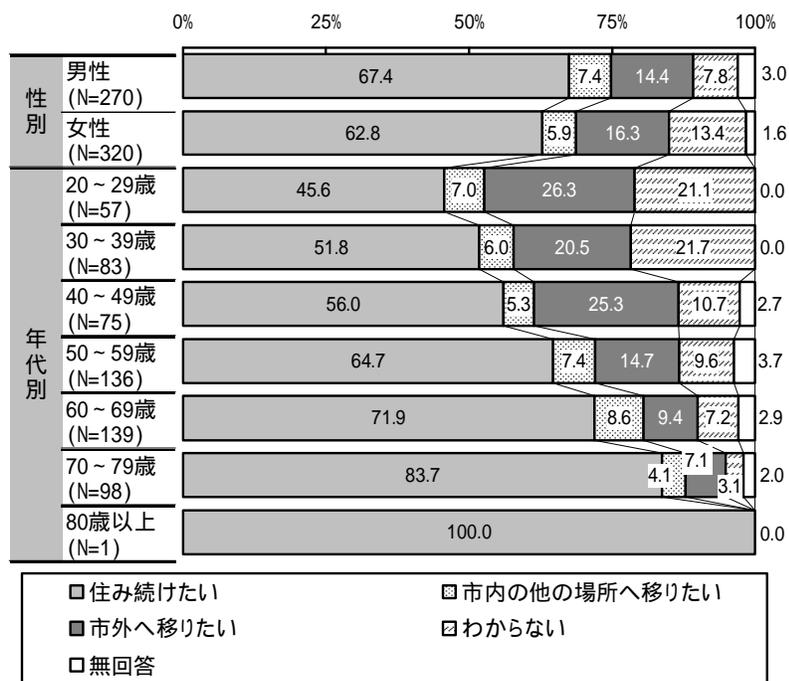
2) 調査結果の詳細

< 牧之原市に居住することについて >



今回も「住み続けたい」が最も高い割合を占めているが、「市内の他の場所へ移りたい」が前回より増加しており、「わからない」も増加となっていることから、「住み続けたい」が前回より6.4ポイント減少している。平成20年度と類似の傾向になっている。

クロス集計



【性別】

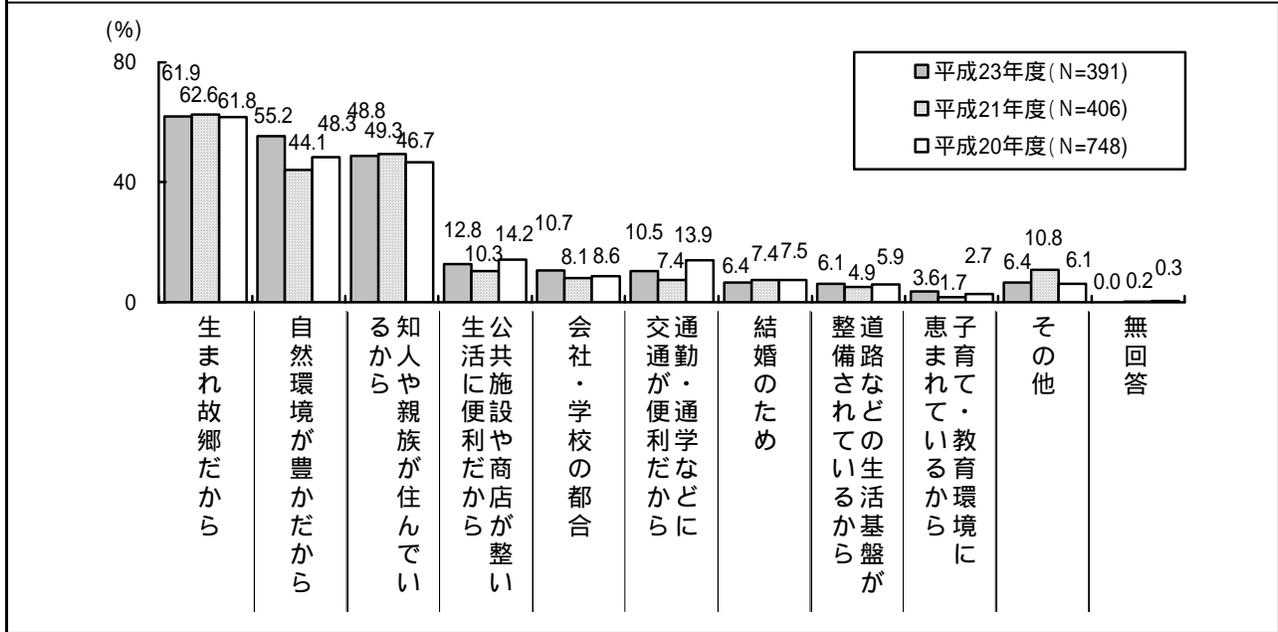
「住み続けたい」は男性が67.4%で、女性よりも4.6ポイント高くなっている。

【年代別】

年代が上がるほど「住み続けたい」が高くなっている。40代以下では「市外へ移りたい」という回答が2割を超え、居住地に対してこだわりのない人が少ない。

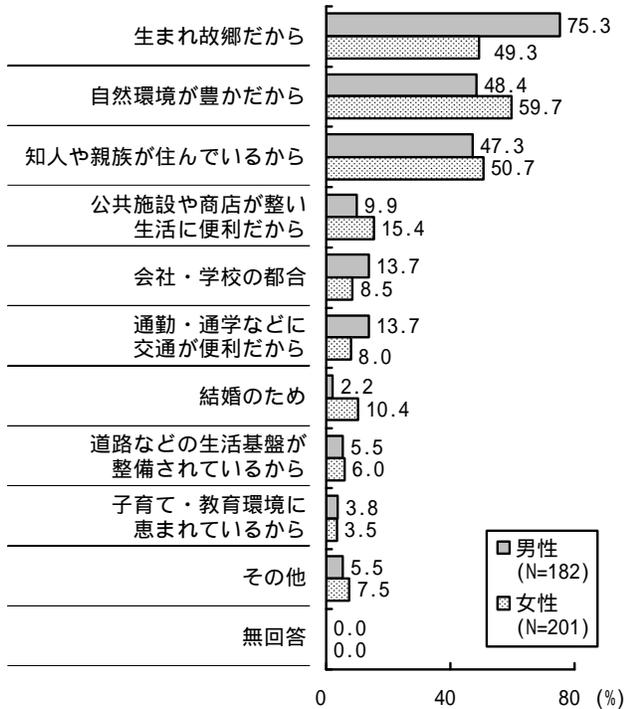
(問1で「1 住み続けたい」と答えた方にお聞きします)

問2 - 1 住み続けたい理由を、次の中から3つ以内で選んで 印をつけてください。



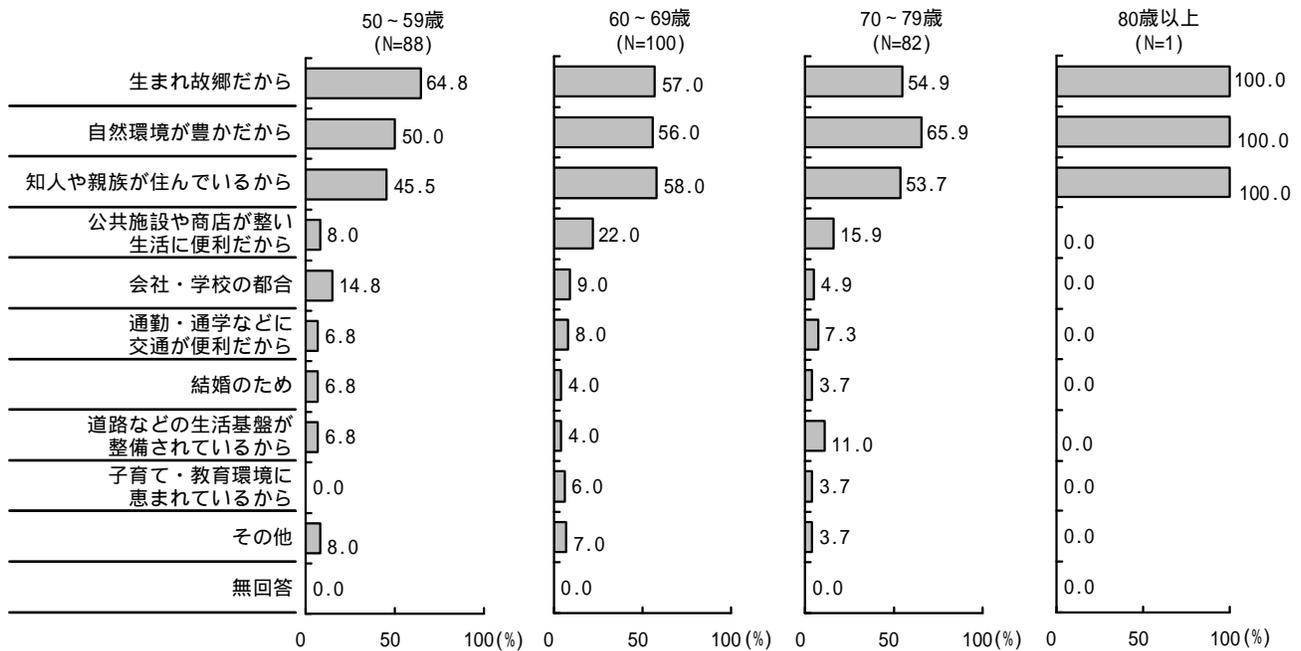
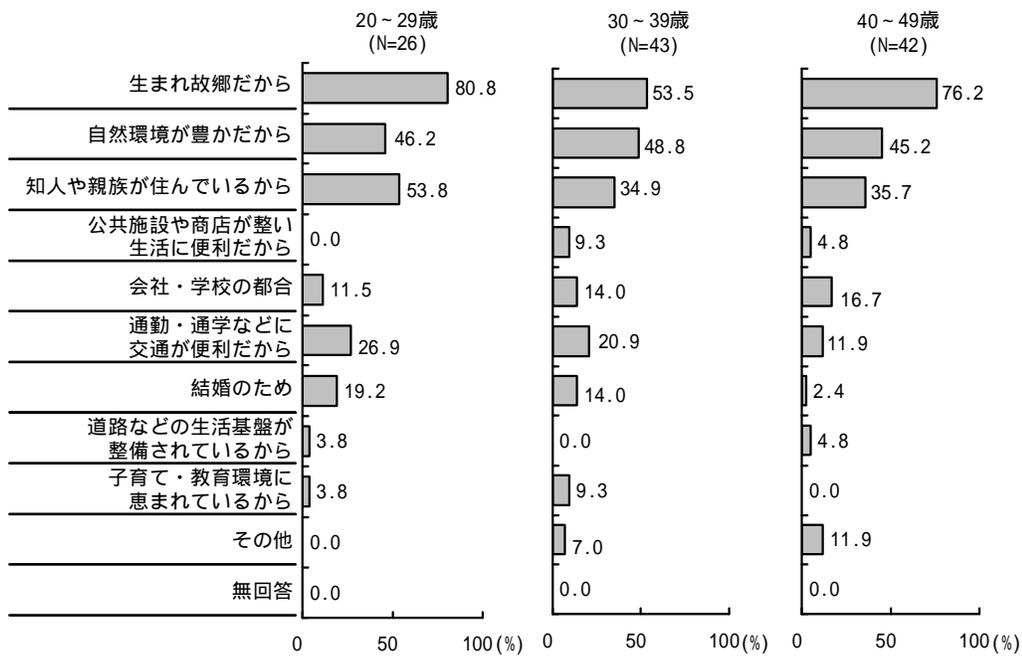
問1で牧之原市に「住み続けたい」と回答した 391 人の理由は、「生まれ故郷だから」が 61.9%で最も多く、次いで「自然環境が豊かだから」が多く、前回までとは、3番目の「知人や親族が住んでいるから」と入れ替わる形になっている。このため、「自然環境が豊かだから」は、前回までから大きく上昇し、過半数の回答になっている。

クロス集計



【性別】

男性は「生まれ故郷だから」が 75.3%と圧倒的に多くなっている。また、女性では「自然が豊かだから」が 59.7%と過半数を超え、男性より 10 ポイント以上多く、「生まれ故郷だから」を上回っている。

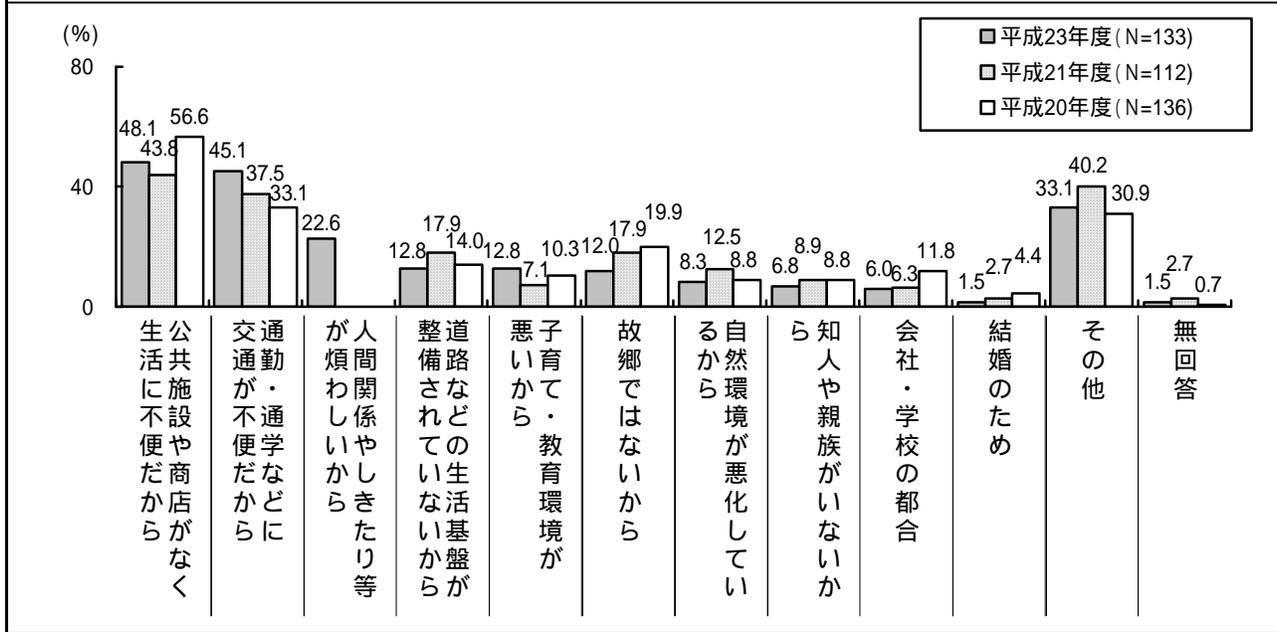


【年代別】

「生まれ故郷だから」は全ての年代で過半数を占めているが、特に20代は80.8%と高い割合になっている。また、60代以上は上位3項目で過半数の回答になっており、70代は「自然環境が豊かだから」が上位他2項目から10ポイント以上多い。

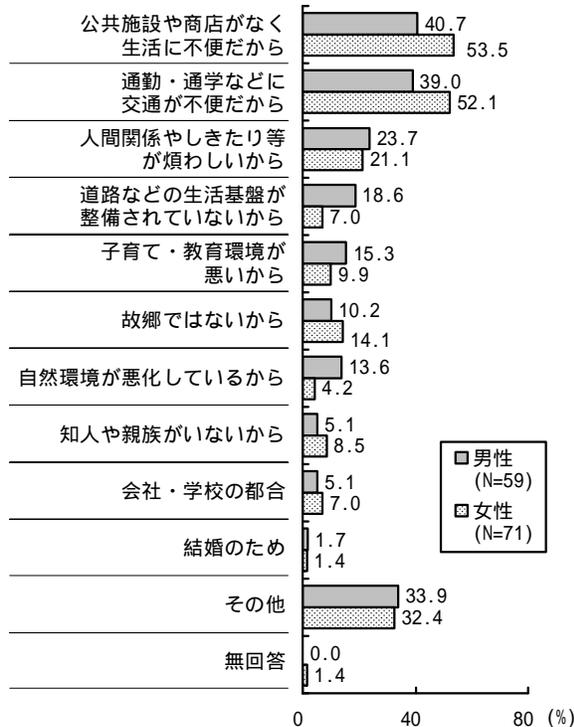
(問1で「2 市内の他の場所へ移りたい」または「3 市外へ移りたい」と答えた方にお聞きします。)

問2 - 2 他の地域へ移りたい理由を、次の中から3つ以内で選んで 印をつけてください。



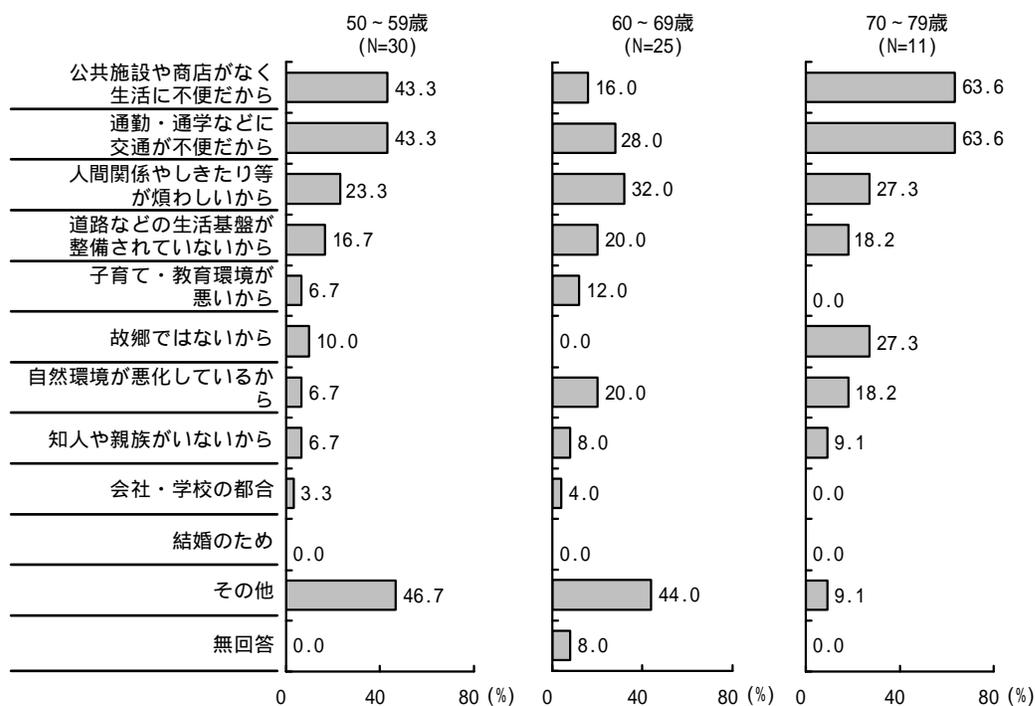
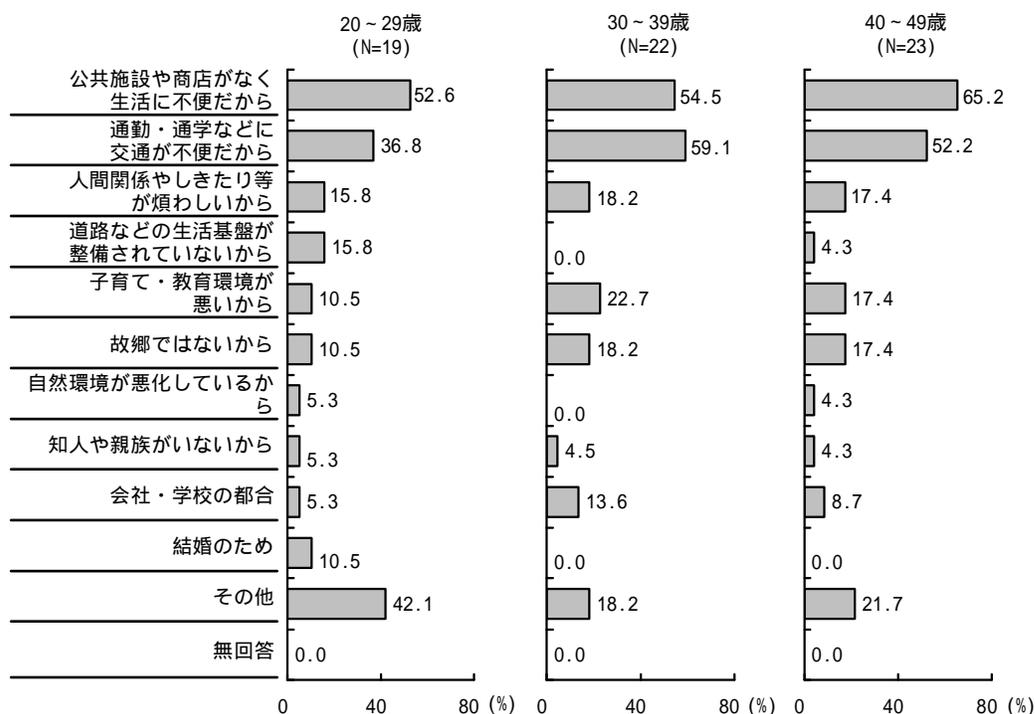
問1で「市内の外の場所へ移りたい」「市外へ移りたい」と回答した133人の他の地域へ移りたい理由は、過去2回の調査と同様、「公共施設や商店がなく生活に不便だから」が48.1%で最も多く、次いで「通勤・通学などに交通が不便だから」が続いており、前回までから大きく上回っている。また、前回までにはなかった「人間関係やしきたり等が煩わしいから」という新しい選択肢への回答が多く、22.6%で、3番目となっている。

クロス集計



【性別】

「公共施設や商店がなく生活に不便だから」「通勤・通学などに交通が不便だから」の上位2項目は、女性の方が男性よりも10ポイント以上多くなっている。

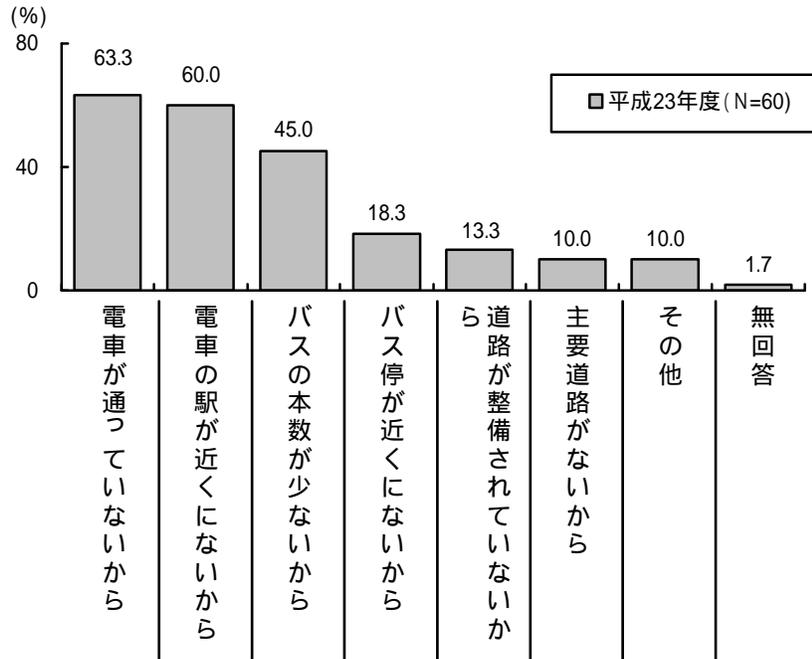


【年代別】

「公共施設や商店がなく生活に不便だから」「通勤・通学などに交通が不便だから」の上位2項目は、ほとんどの年代で多い傾向であるが、特に30～40代の壮年代と、70代が多い。60代は他の年代と傾向が異なり、最も多い回答は「人間関係やしきたり等が煩わしいから」で、32.0%となっている。(80歳以上は、問1で「市内の外の場所へ移りたい」「市外へ移りたい」と回答した人がいないため、割愛している。)

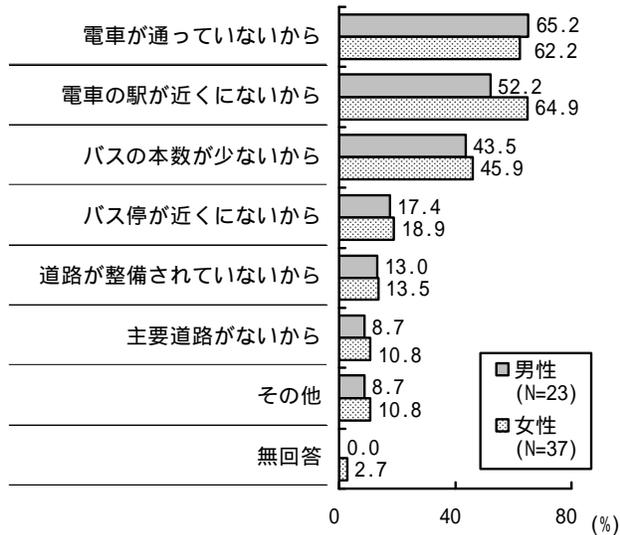
(問2-2で「3 通勤・通学などに交通が不便だから」と答えた方にお聞きします。)

問3 どのように不便ですか？ 次の中から3つ以内で選んで 印をつけてください。



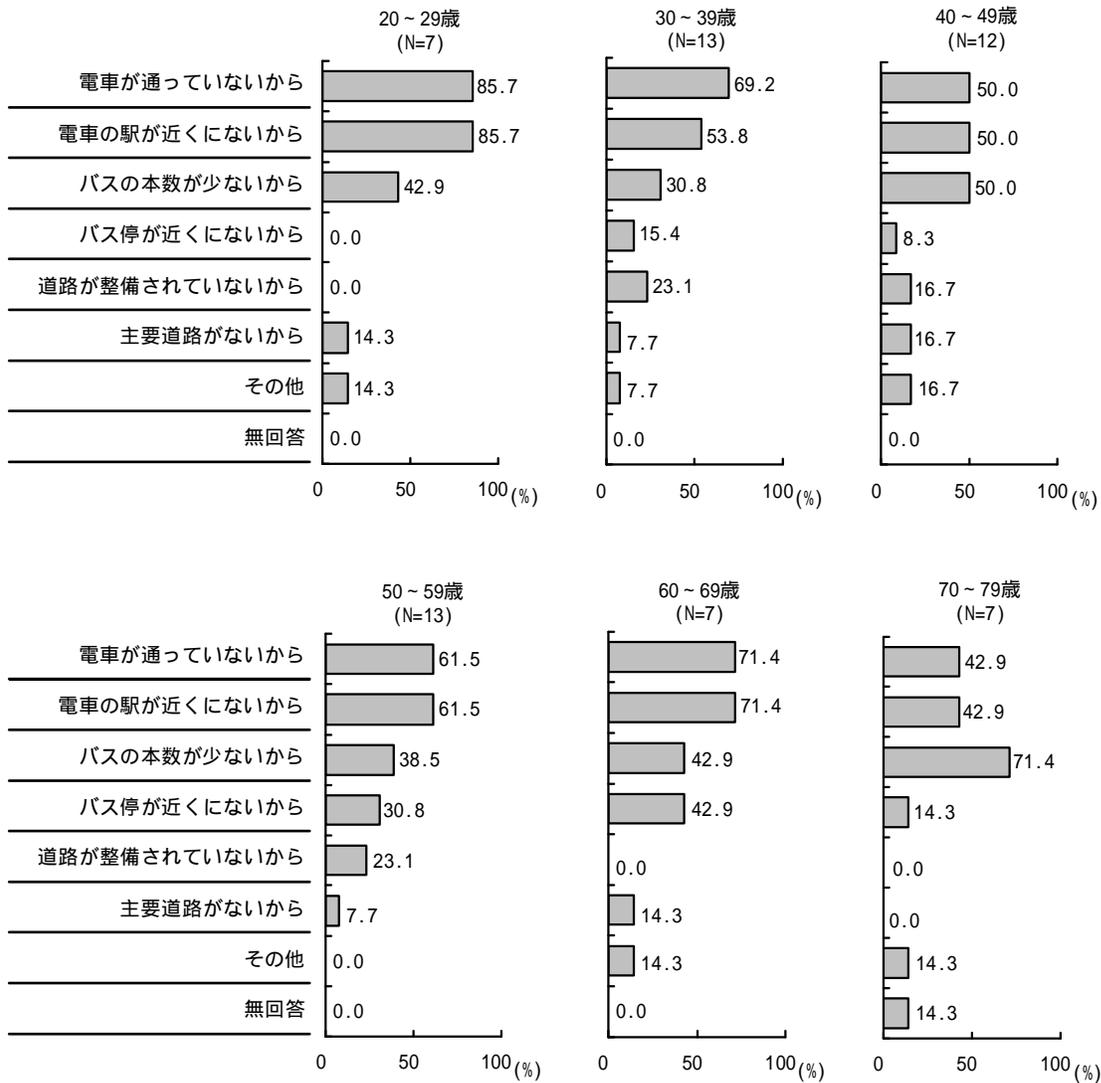
問2-2で「3 通勤・通学などに交通が不便だから」と回答した60人の主な理由は、「電車が通っていないから」が63.3%で最も多くなっている。次いで「電車の駅が近くにないから」が60.0%と多く、僅差である。さらに「バスの本数が少ないから」が続くが、公共交通機関でも“電車”がないことが、“不便を感じる”主な原因と言える。

クロス集計



【性別】

最も多い「電車が通っていないから」は、ほとんど差はみられないが、「電車の駅が近くにないから」は女性が男性を10ポイント以上上回っている。

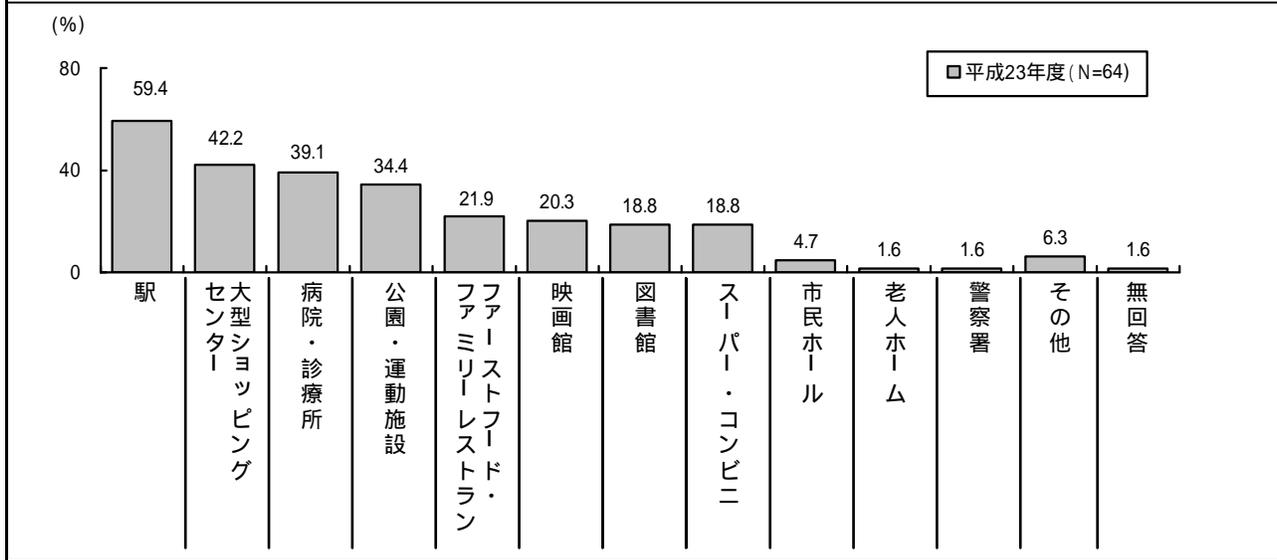


【年代別】

年代別では、いずれも回答母数が少ないため、傾向がばらついている。回答母数が 10 件を超える 30～50 代までには、「道路が整備されていないから」への回答がみられるが、他では皆無である。70 代では“電車”への回答が半数を割り、「バスの本数が少ないから」に 7 割を超える回答になっている。（80 歳以上は、問 2 - 2 で「3 通勤・通学などに交通が不便だから」と回答した人がいないため、割愛している。）

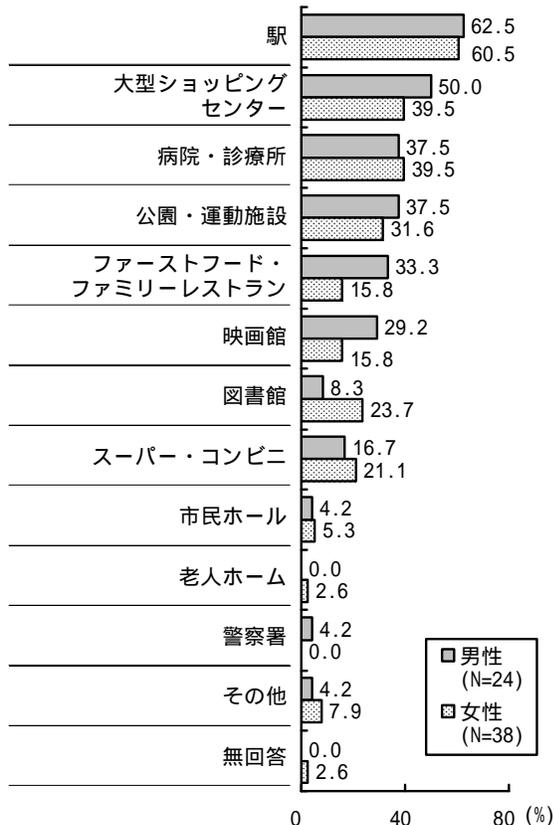
(問2-2で「7 公共施設や商店がなく生活に不便だから」と答えた方にお聞きします。)

問4 どんな施設があれば良いとお考えですか？ 次の中から3つ以内で選んで 印をつけてください。



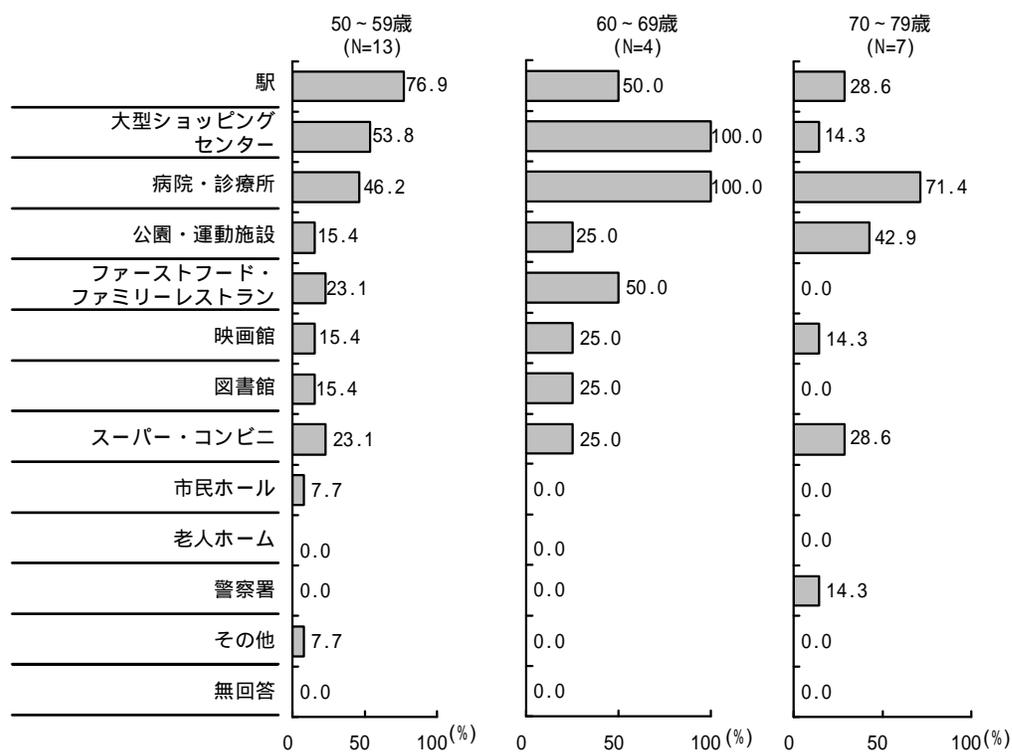
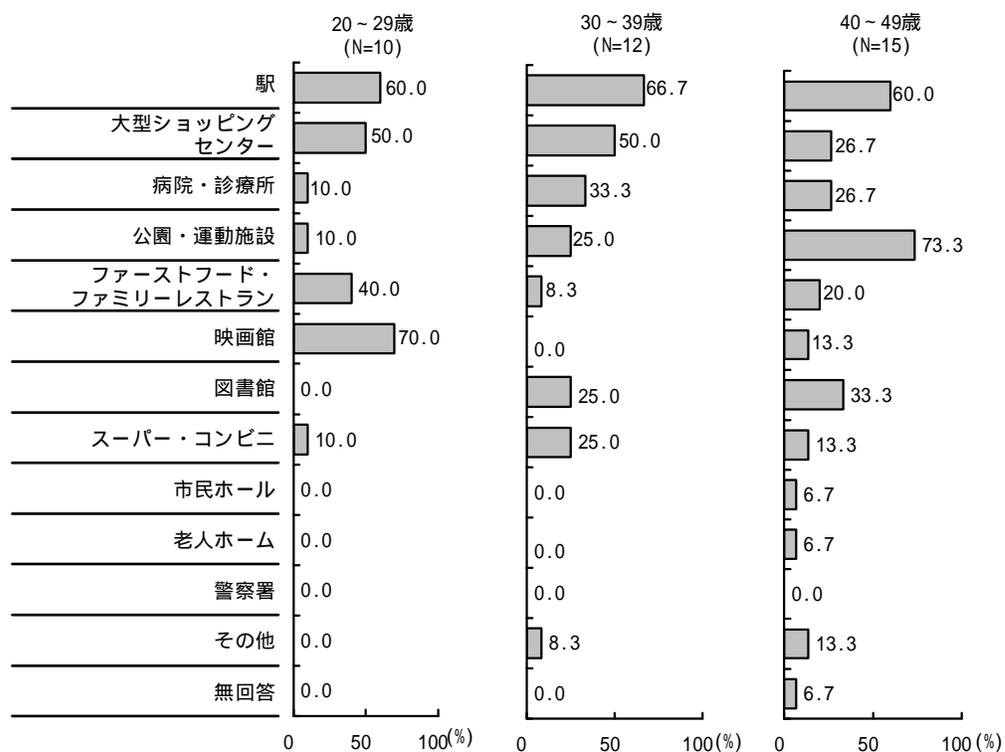
問2-2で「7 公共施設や商店がなく生活に不便だから」と回答した64人の欲しい主な施設は、「駅」が59.4%と過半数で、最も多い回答となっている。問3の回答と共通の点で不便を感じていることがあられており、「電車・駅」が一番の課題といえる。次いで「大型ショッピングセンター」が42.2%、「病院・診療所」が39.1%と続いている。

クロス集計



【性別】

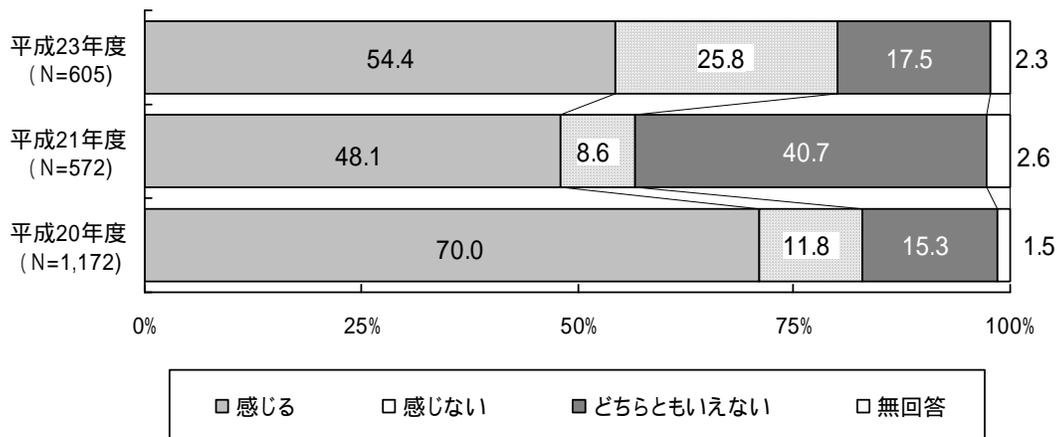
上位6項目中5項目で、男性の方が多くなっている。特に「ファーストフード・ファミリーレストラン」「映画館」は、いずれも2倍近い。女性は「図書館」「スーパー・コンビニ」で男性を大きく上回っている。



【年代別】

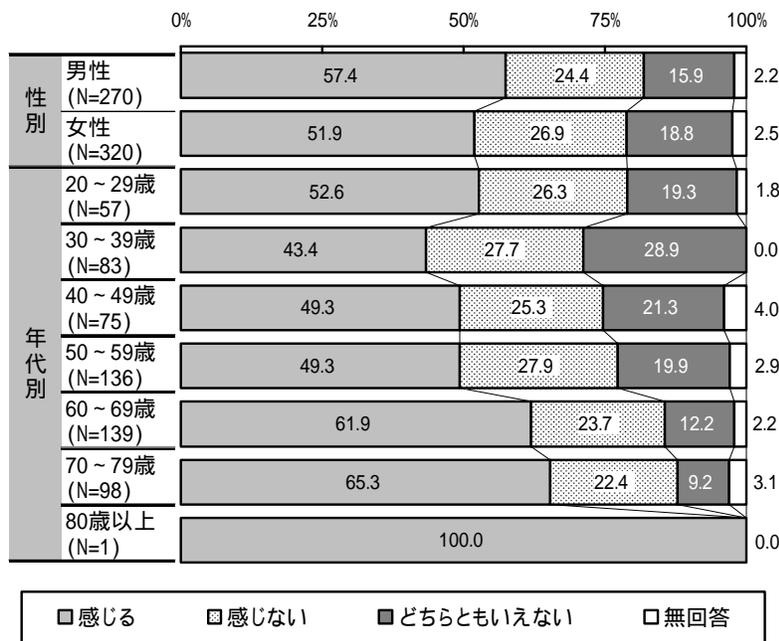
回答母数が10件に満たない60代以上は省いてみると、40代で「公園・運動施設」に7割を超える回答となっており、「駅」をも上回っている。子育て世代の悩みと考えられる。(80歳以上は、問2-2で「7 公共施設や商店がなく生活に不便だから」と回答した人がいないため、割愛している。)

問5 あなたは、牧之原市に愛着を感じていますか？あてはまるものに1つ 印をつけてください。
 「愛着」・・・牧之原市への思いを持ち続けていたいという気持ちなど



牧之原市に愛着を「感じる」が54.4%と過半数で、前回より6.3ポイント増加している。しかし、平成20年度の「感じる」には及ばない。前回は「どちらともいえない」が大きく増加していたが、今回は2回前の平成20年度に近い割合に戻り、「感じない」が前回までの2回の調査と比較すると大きく増加し、4人に1人の回答である。

クロス集計

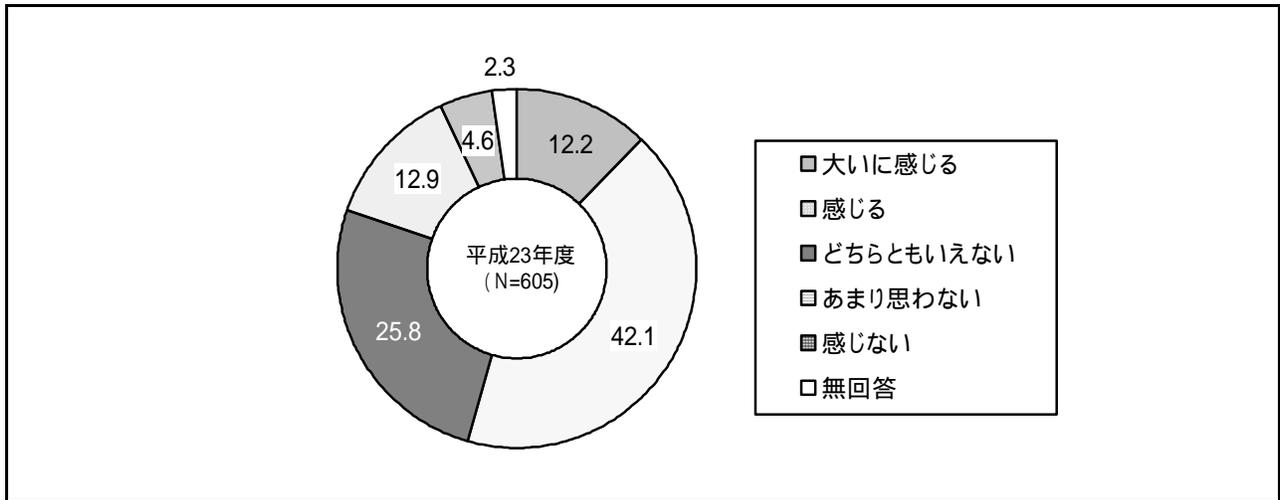


【性別】

さほど大きな差はみられないが、女性の方が男性よりもやや愛着を「感じない」回答が多くなっている。

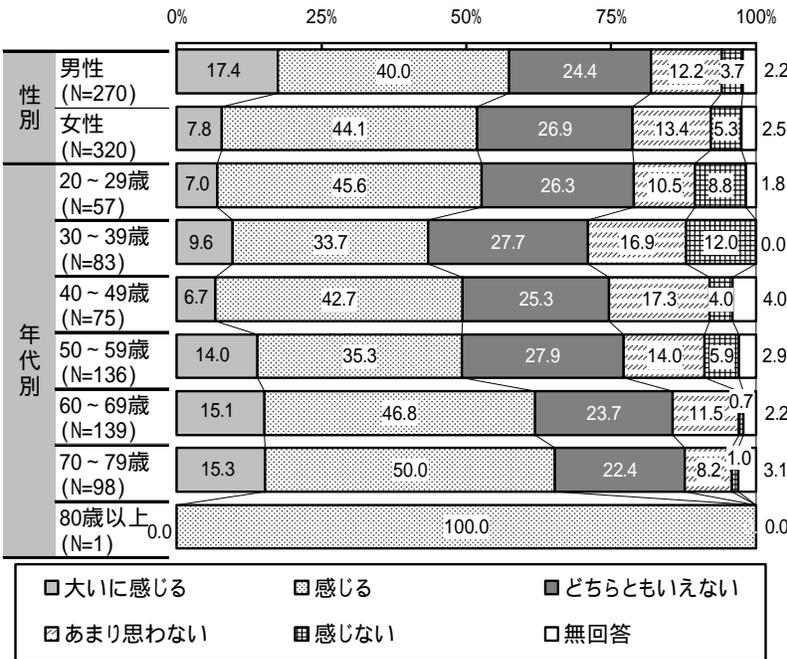
【年代別】

愛着を「感じない」は、ほとんどで25%前後を占めており、年代による差はほとんどみられないが、「感じる」は、30代以降、年代が高くなるほど割合も高くなる傾向がみられる。



今年度の調査では、選択肢が上記グラフの5つであるため、今年度の選択肢で結果をみると、愛着を「感じる」割合が最も高く、42.1%を占めている。次いで高いのは「どちらともいえない」で25.8%である。「大いに感じる」や「感じない」など、はっきりとした選択肢には回答が少なく、曖昧な意見にとどめる傾向がみられる。

クロス集計



【性別】

愛着を「大いに感じる」は、男性が女性を約 10 ポイント上回っている。

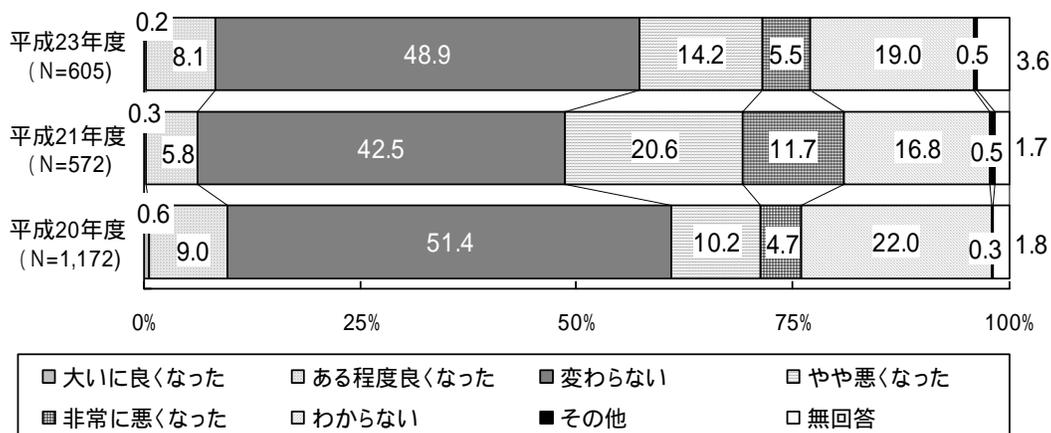
【年代別】

50代以上で、いずれも愛着を「大いに感じる」が1割以上を占めている。(回答者が1名の80歳以上を除く)

< 合併後のまちづくりについて >

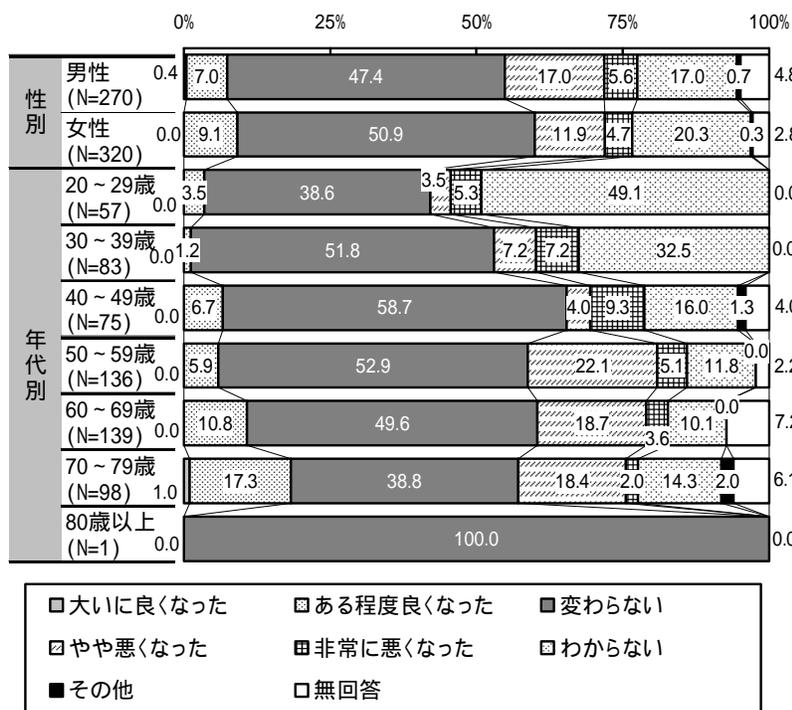
問6 あなたは牧之原市となって市政全般がどのように変化したと思いますか？

あてはまるものに1つ 印をつけてください。



牧之原市となってからの市政全般について、「変わらない」が48.9%で最も高い割合を占めているが、「ある程度良くなった」は、前回に比べて3ポイント近く増加している。「やや悪くなった」「非常に悪くなった」のマイナス評価は、前回に比べると大きく減少している。

クロス集計



【性別】

「やや悪くなった」「非常に悪くなった」というマイナスの評価は、男性が女性をやや上回っている。女性は「ある程度良くなった」が僅かに高い。

【年代別】

「ある程度良くなった」で、年代が高くなるほど、割合が高くなる傾向がみられる。

(問6で「1 大いに良くなった」「2 ある程度良くなった」または「4 やや悪くなった」「5 非常に悪くなった」と答えた方にお聞きします。)

問7 「良くなったところ」または「悪くなったところ」について、ご自由にお書きください。

* 良くなったところ (抜粋：ほぼ原文どおり)

- ・市役所の対応が良くなった。
- ・パスポート申請が楽になった(地元で対処できる)
- ・合併によって一つの活動をするのにも人との関係が広がり、多くのアイデアが出て良いと思います。
- ・人の交流が多くなったので、町全体がオープン化されてきている。
- ・大きい市になったこと。市で共通意識が住民の間で持てるようになった。

* 悪くなったところ (抜粋：ほぼ原文どおり)

- ・行政と住民との親近感がなくなった。
- ・市としてまとまりがなく、相良は相良、榛原は榛原という感じがする。負債が多くなった。
- ・町の一体化が進んでいない。生活環境が中心部と差ができてつある。
- ・二つの市役所に行かなくてはならない場合がある。
- ・行政サービスが悪くなって、税金が高くなった。
- ・市が大きくなって中心より外れていて、取り残されたような感じである。

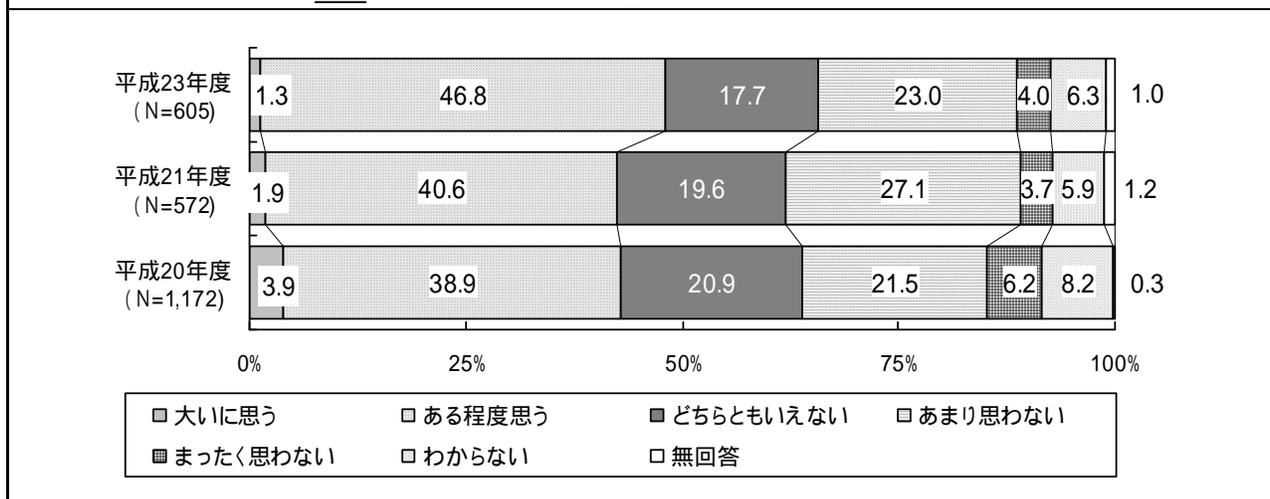
合併後の市政に関して、良くなったところの代表的な意見は、交流の機会が増加したことや役所の対応が良くなったことなどが挙げられている。

一方、合併後の市政について悪くなったところの代表的な意見は、まちの一体化が進んでいないこと、税金が高くなったと感じること、役所の存在が遠くなったなどの意見が挙げられている。

< 市からの情報提供について >

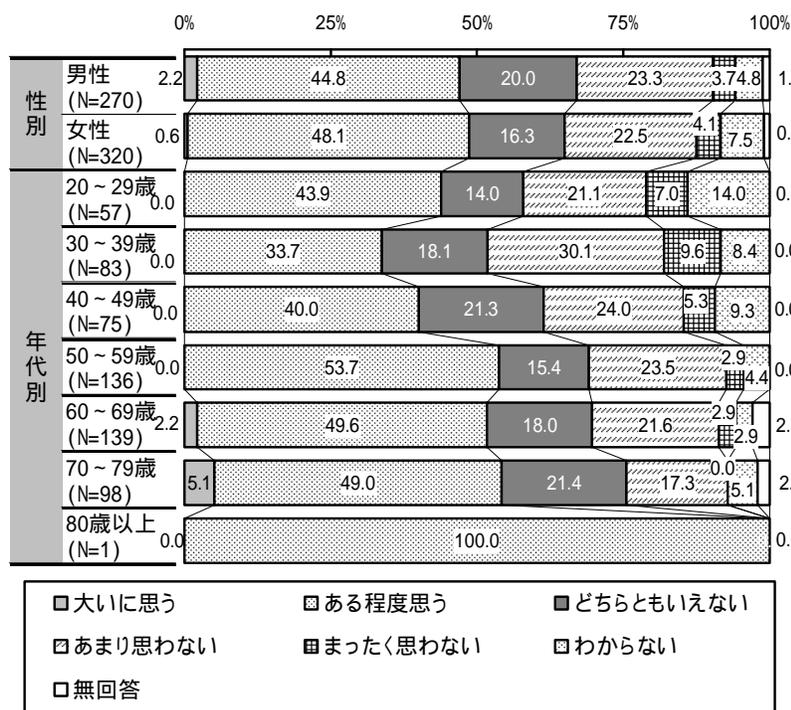
問8 あなたは、市の取り組みや行事などの情報が発信されていると思いますか？

あてはまるものに1印をつけてください。



市からの情報発信は、「情報発信されている」(「大いに思う」+「ある程度思う」の合計)は、48.1%と半数近くを占め、前回までに比べると情報発信に満足する割合が高くなっている。しかし、「大いに思う」は、回を重ねるごとに減少している。一方、「情報発信されていない」(「あまり思わない」「まったく思わない」の合計)が27.0%と、前回からは減少しているが、平成20年度からはほとんど差はない。

クロス集計



【性別】

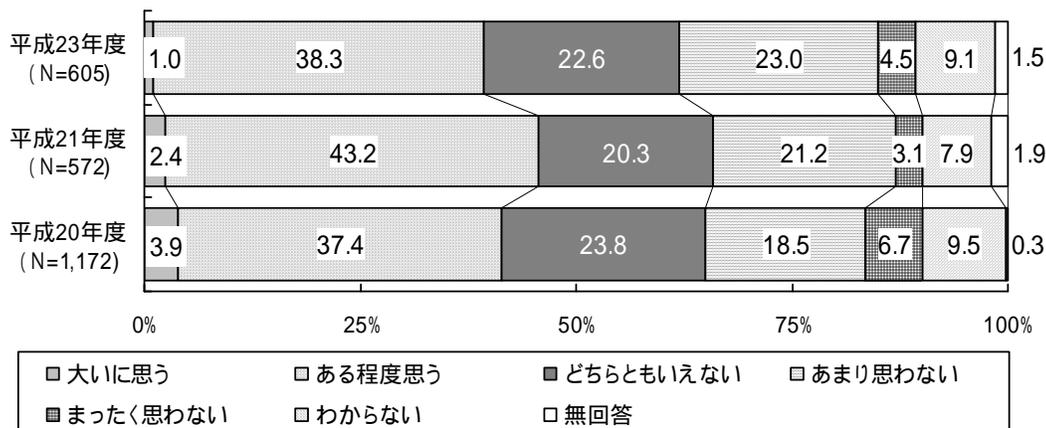
女性は「ある程度思う」が男性より高いが、男性は「大いに思う」が高く、「情報発信されている」割合は、女性が僅かに高い。

【年代別】

30代以降、年代が高い方が「情報発信されている」割合が高い傾向で、「情報発信されていない」は30代が最も高く、4割を占めている。

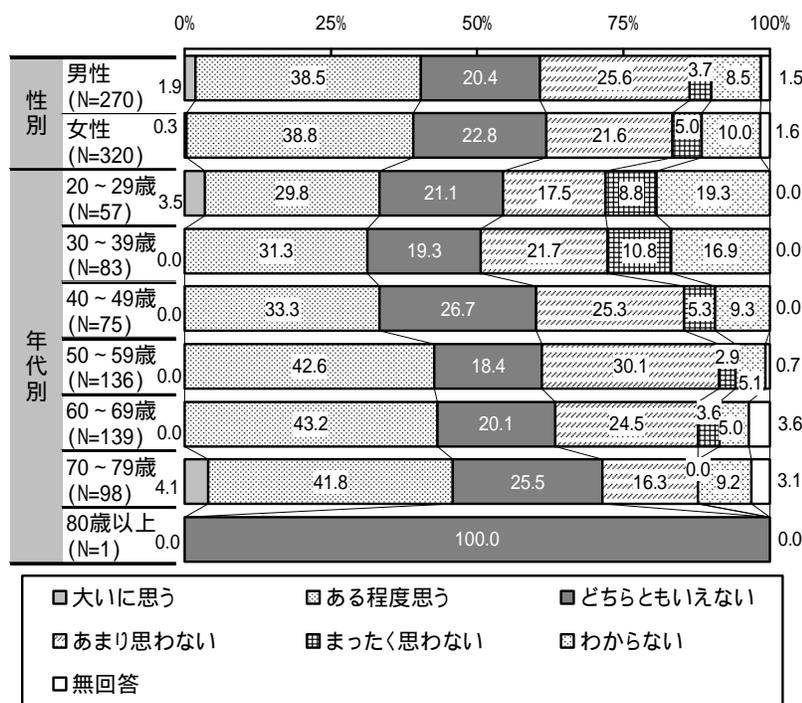
問9 あなたは、市の取り組みや行事などの情報が役に立っていると思いますか？

あてはまるものに1つ印をつけてください。



市から発信している情報については、“役に立っている”(「大いに思う」「ある程度思う」の合計)が39.3%と、前回と比べると、6.3ポイント減少しており、さらに前の平成20年度からもわずかに減少で、一方の“役に立っていない”(「あまり思わない」「まったく思わない」の合計)が27.5%と、前回までの調査から増加になっており、今回は厳しい評価である。

クロス集計



【性別】

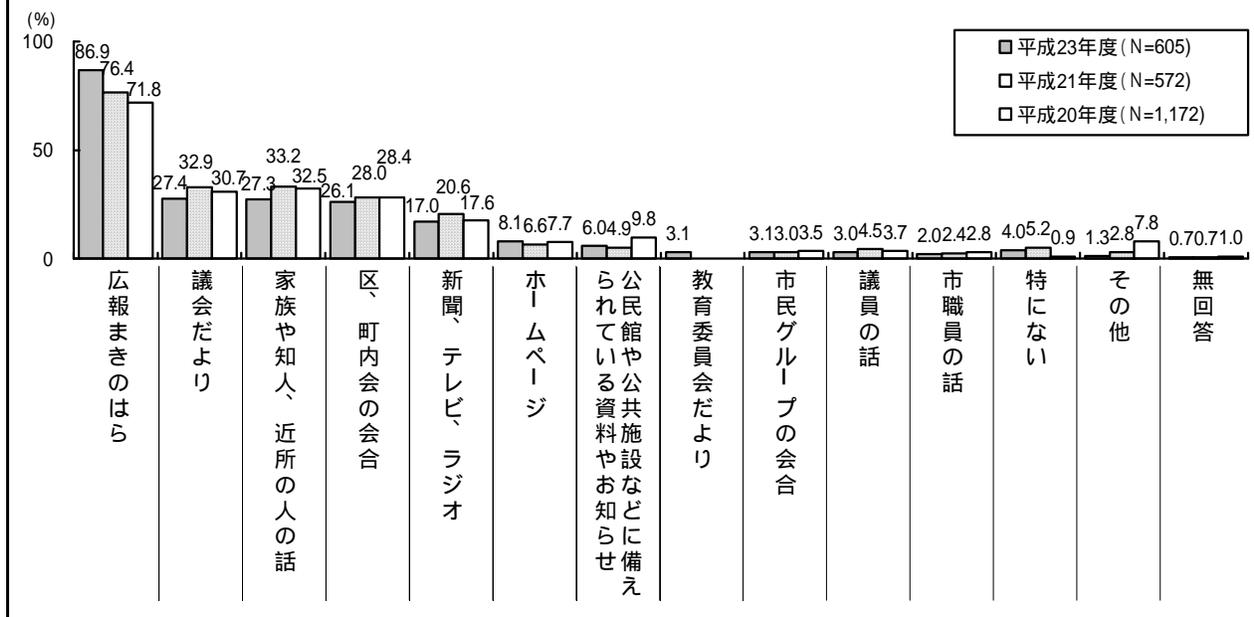
“役に立っている” “役に立っていない”のいずれも、男性の方がやや多くなっている。

【年代別】

30代以降で、年代が高いほど“役に立っている”が高くなる傾向がみられる。一方、「まったく思わない」は30代で1割、「あまり思わない」は50代で3割と目立っている。

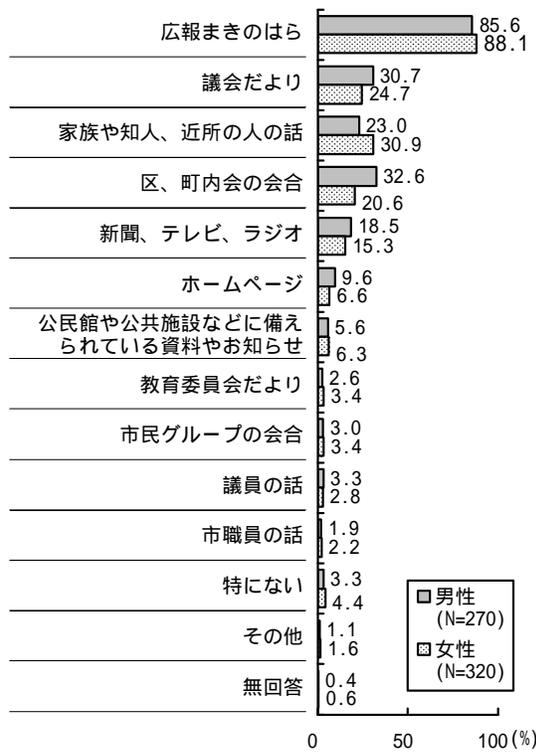
問10 あなたは市の取り組みや行事などの情報を何によって知ることが多いですか？

あてはまるもの全てに 印をつけてください。



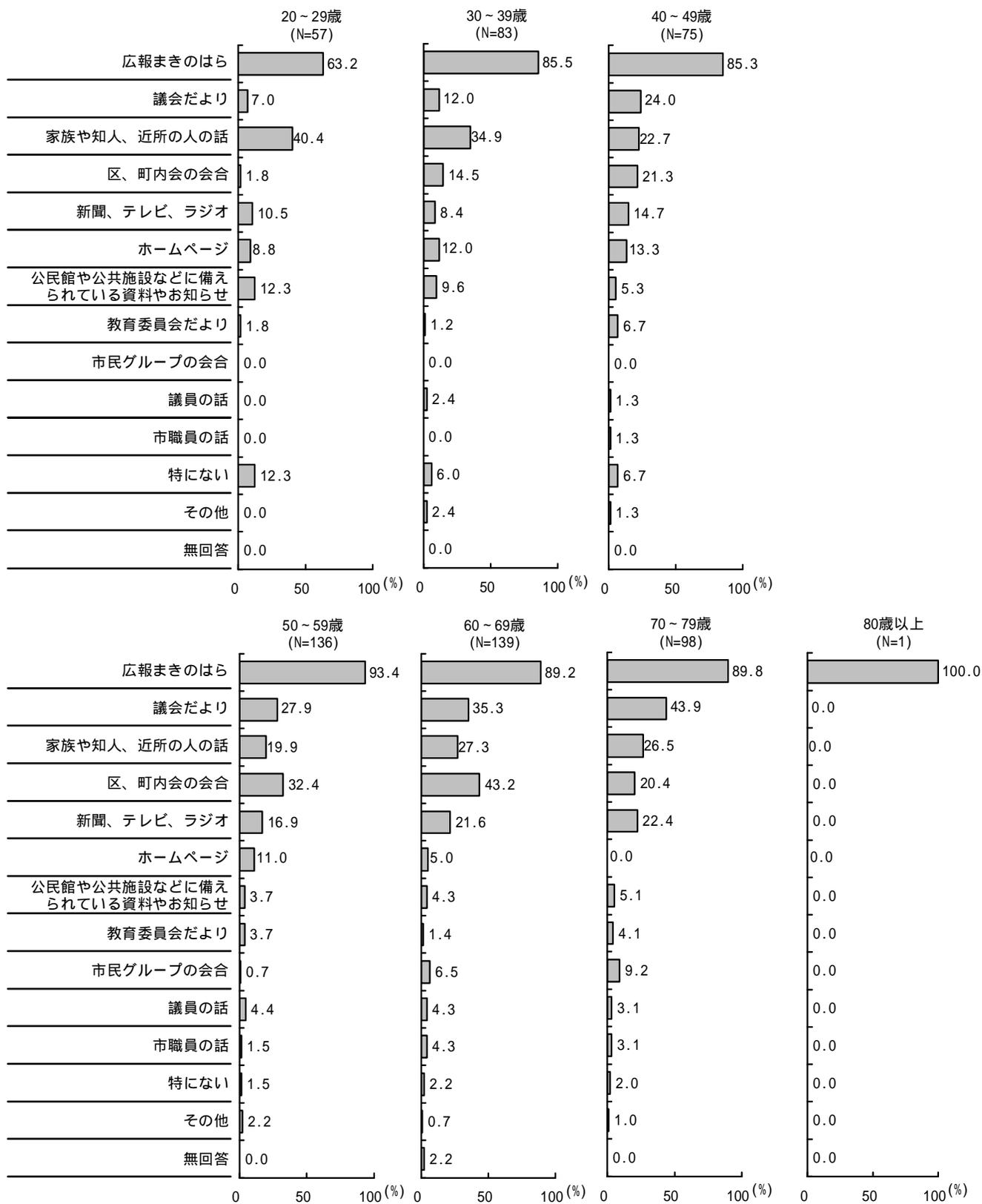
牧之原市の取り組みや行事などの情報の入手手段は、「広報まきのほら」が 86.9%と最も多く、次いで僅差であるが「議会だより」「家族や知人、近所の人の話」の順となっており、前回と順位は異なるものの、上位の傾向は同様といえる。しかし、2番目以降は前回までより減少している項目が多いが、「広報まきのほら」は前回までより 10 ポイント以上多く、回答が集中する結果となっている。

クロス集計



【性別】

最も多い「広報まきのほら」について大差はみられないが、「家族や知人、近所の人の話」は女性が、「区、町内会の会合」は男性が、それぞれ約7ポイント多く、日常生活における性別役割分担がうかがえる結果となっている。



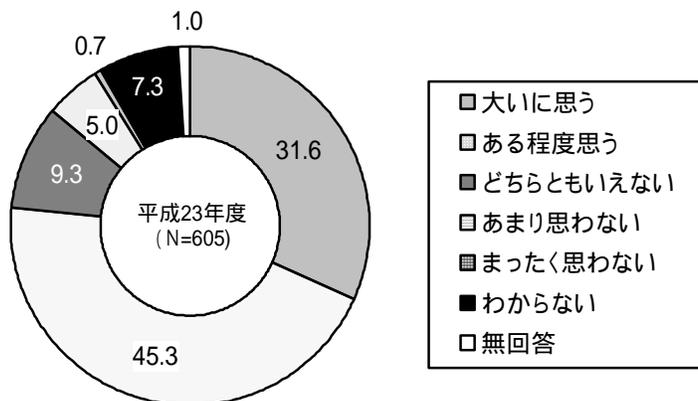
【年代別】

年代別にみると、いずれの年代層でも「広報まきのはら」が8～9割となっているが、20代のみ6割台にとどまり、「家族や知人、近所の人のお話」に4割の回答と、年代別中最も高い割合になっている。「区、町内会の会合」は、50代、6代の中高年代層で高い事が特徴的である。

< 牧之原市の協働の取り組みについて >

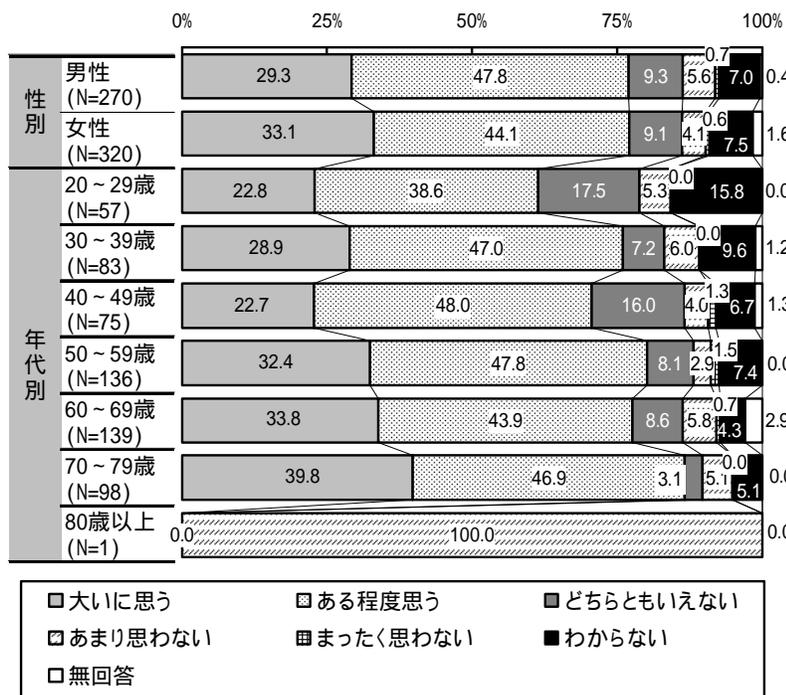
協働とは、市民の皆さま、市長や市の職員、議会が、自らの果たすべき役割や責務を自覚して、自主性を相互に尊重しながら、協力したり補い合ったりすることです。

問11 あなたは、協働の取り組みが大事だと思いますか？あてはまるものに1つ 印をつけてください。



協働の取り組みについては、“大事だと思う”(「大いに思う」「ある程度思う」の合計)が76.9%と大半を占め、一方の“大事だと思わない”(「あまり思わない」「まったく思わない」の合計)は1割に満たない状況で、協働の取り組みは重要視されているといえる。

クロス集計



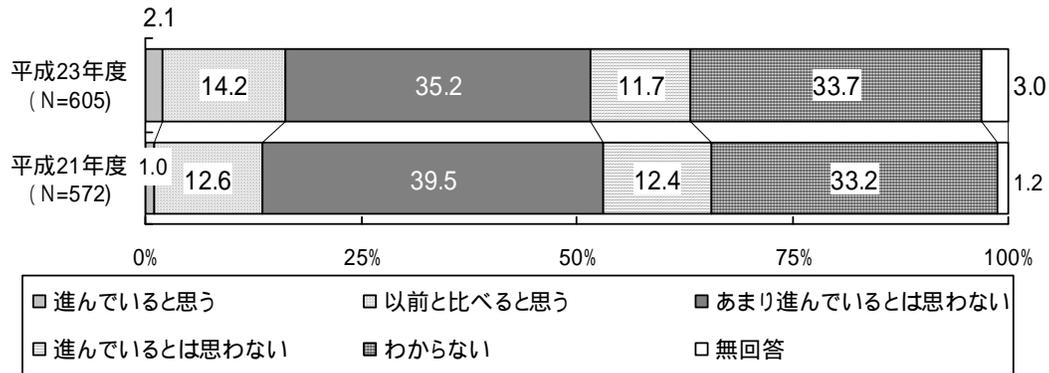
【性別】

“大事だと思う”でみると、男女ほぼ同率となっているが、「大いに思う」については、女性が男性を3.8ポイント上回っている。

【年代別】

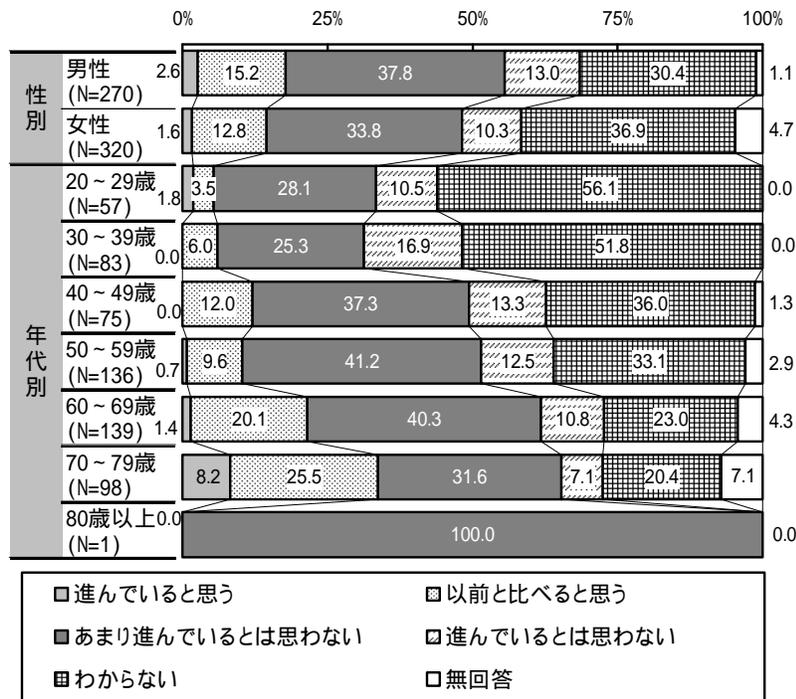
“大事だと思う”は、ほとんどの年代で7割以上を占めているが、20代は7割に満たない。しかし、“大事だと思わない”が高いわけではなく、「どちらともいえない」が高い。

問12 市の取り組みについて、協働の取り組みが進んでいると思いますか。



市の取り組みにおいて、協働の取り組みが進んでいると思うかについて「あまり進んでいるとは思わない」が35.2%で最も多く、今回は「協働」という表現での問ではなく、「行政と市民一緒での取り組み」となっていたものの、結果の傾向としては類似している。しかし、わずかに「進んでいると思う」「以前と比べると思う」にいずれも、前回より高く、やや評価が上がっている。

クロス集計



【性別】

女性よりも男性の方の評価が上がり、「進んでいると思う」「以前と比べると思う」のいずれも、わずかに女性を上回っている。

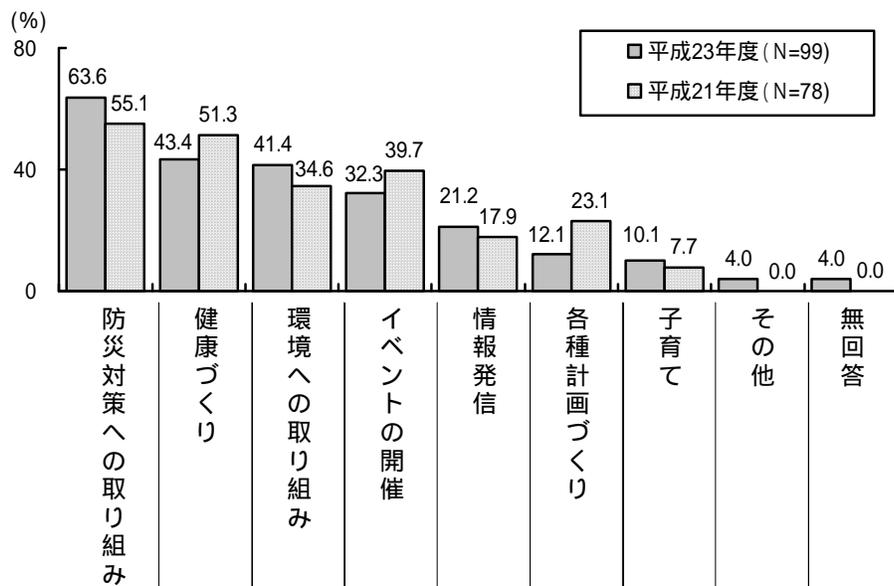
【年代別】

年代が低いほど「わからない」の占める割合が高く、特に20～30代では過半数を占めており、市の取り組みに対する関心が薄い傾向がみられる。

(問12で「1 進んでいると思う」と「2 以前と比べ進んでいると思う」と答えた方にお聞きます。)

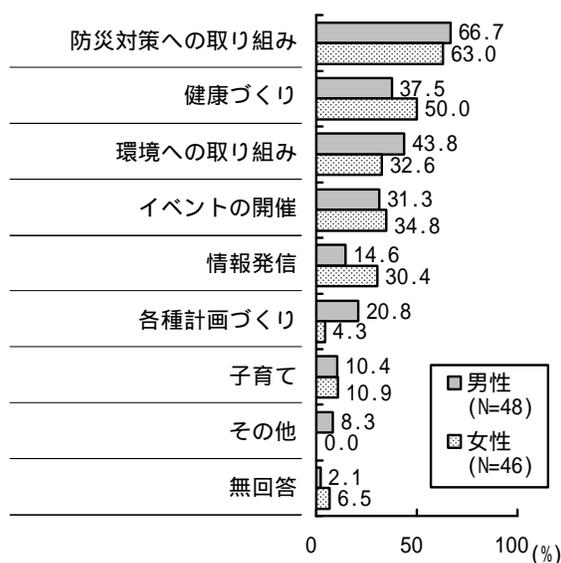
問13 協働の取り組みが進んでいると思う分野は次のうちのどの分野だと思いますか。

あてはまるもの全てに 印をつけてください。



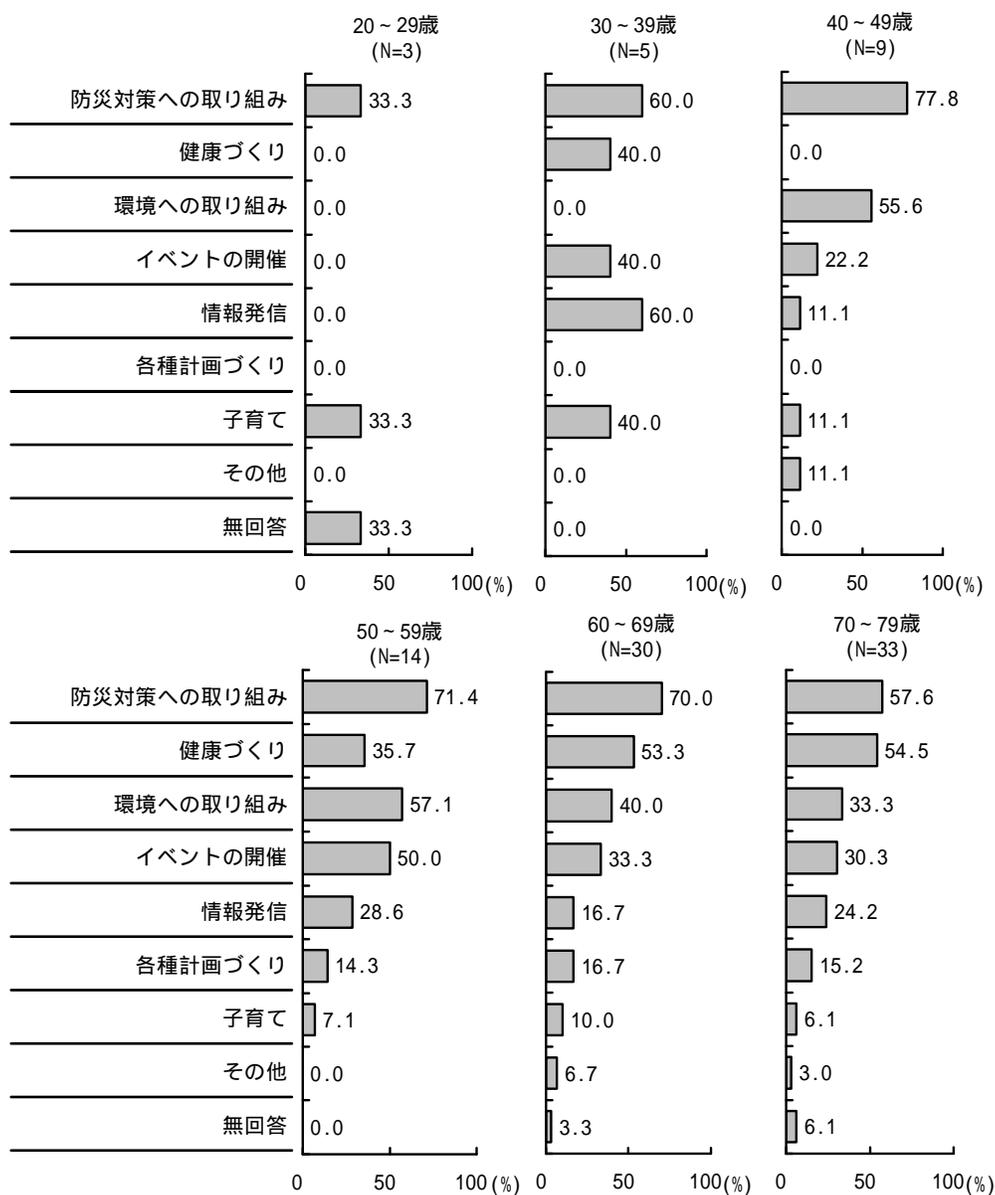
問12で協働の取り組みが進んでいると回答した99人の進んでいると思う分野は、「防災対策への取り組み」が63.6%で最も多く、前回は8.5ポイント上回っている。次いで「健康づくり」が43.4%で続くが、3番目の項目からは、前回と異なる。一方、最も低いのは「子育て」の10.1%で、前回と同様、最も評価を得ていない項目といえる。

クロス集計



【性別】

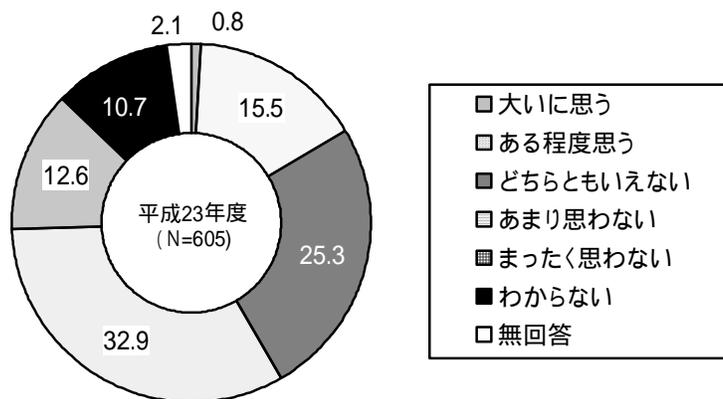
男女差の顕著な項目は「健康づくり」「情報発信」で、女性が男性より多く、取り組みに対する評価が高い。



【年代別】

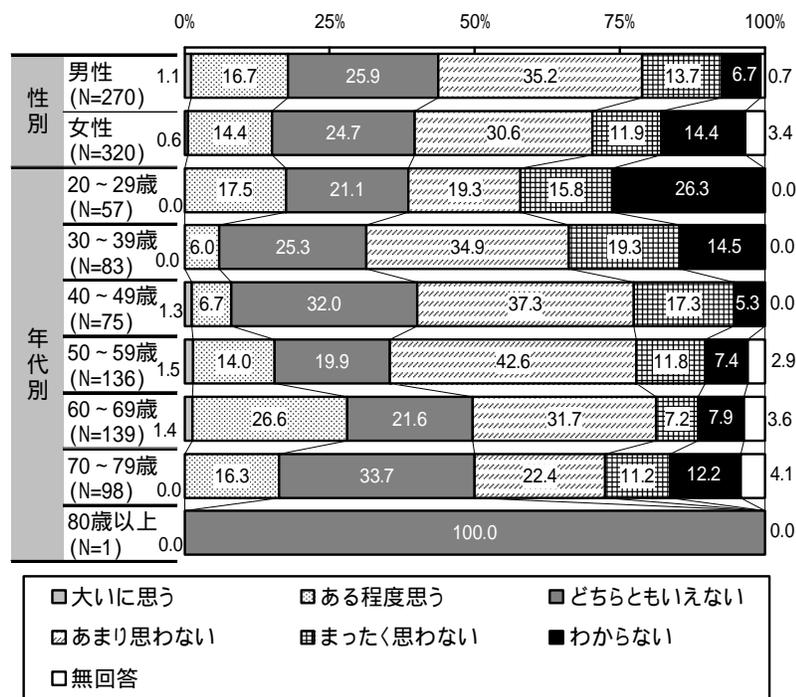
20代、30代は回答者数が少ないものの、全体では進んでいるとの評価が低い「子育て」で、回答が目立っている。「健康づくり」は、高年代で過半数の回答を得ている。また、「環境への取り組み」は50代で57.1%と過半数になっているなど、年代ごとに興味を持つ取り組みは異なり、興味を持つ取り組みを評価する傾向がみられる。(80歳以上は、問12で「1 進んでいると思う」と「2 以前と比べ進んでいると思う」と回答した人がいないため、割愛している。)

問14 あなたは、あなたがお住まいの地域で困っていることや不安を感じていることを自分たちで解決できていると思いますか？あてはまるものに1つ 印をつけてください。



居住地域で困っていることや不安を感じていることを自分たちで解決できているかについては、「あまり思わない」が 32.9%で最も高い割合を占めている。「まったく思わない」と合わせると、半数近くを占めており、地域内の協力体制は確立されていないことがうかがえる。

クロス集計



【性別】

男性は、「解決できていると思う」も、「思わない」も女性を上回っており、女性は「わからない」が男性の2倍以上になっていることから、地域参加の度合いに差があると考えられる。

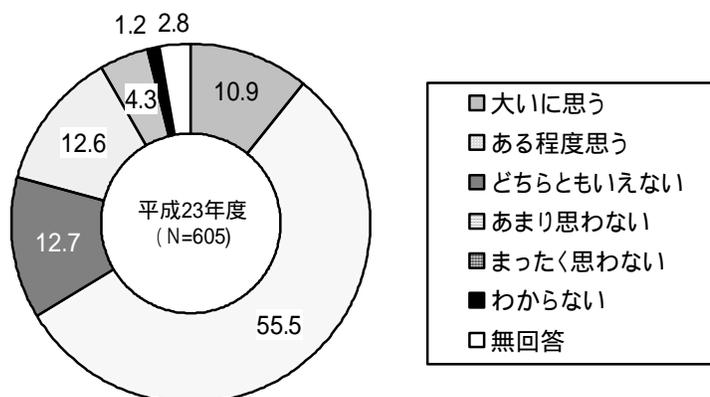
【年代別】

解決できていると「大いに思う」「ある程度思う」は、30代で最も低く、60代まで、年代が高いほど高くなっている。しかし一方で、「解決できていない」が30~50代で過半数を占めている。

<毎日の暮らしについて>

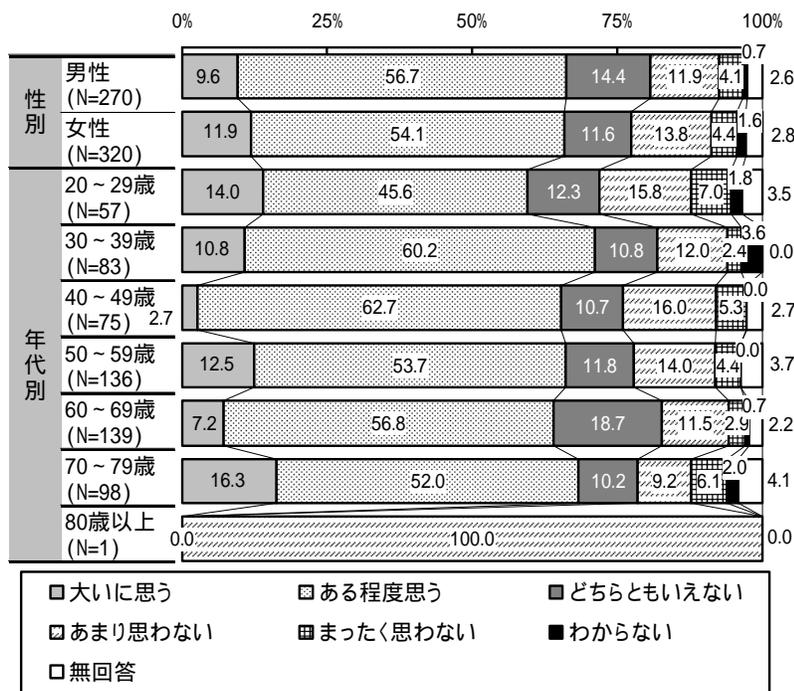
問15 あなたは、心も体も健康で生活していると思いますか？

あてはまるものに1つ 印をつけてください。



心も体も健康で生活していると思うかについては、「ある程度思う」が55.5%と過半数を占め、「大いに思う」を合わせた“健康で生活している”が“健康で生活できていない”(「あまり思わない」「まったく思わない」の合計)の4倍となっている。

クロス集計



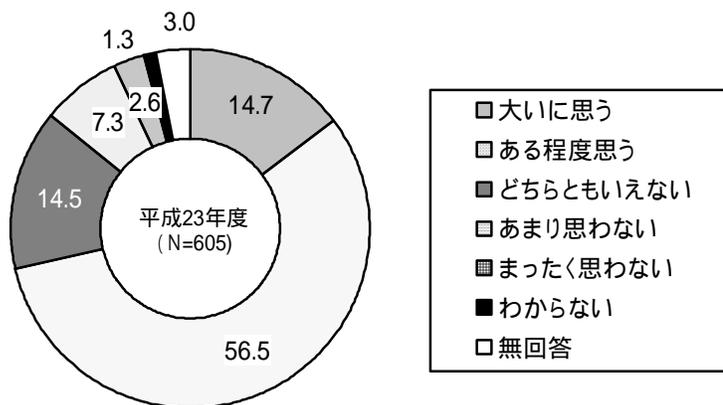
【性別】

男女での大きな差異はみられないが、「大いに思う」は、女性が男性を2.3ポイントと、僅かに上回っている。

【年代別】

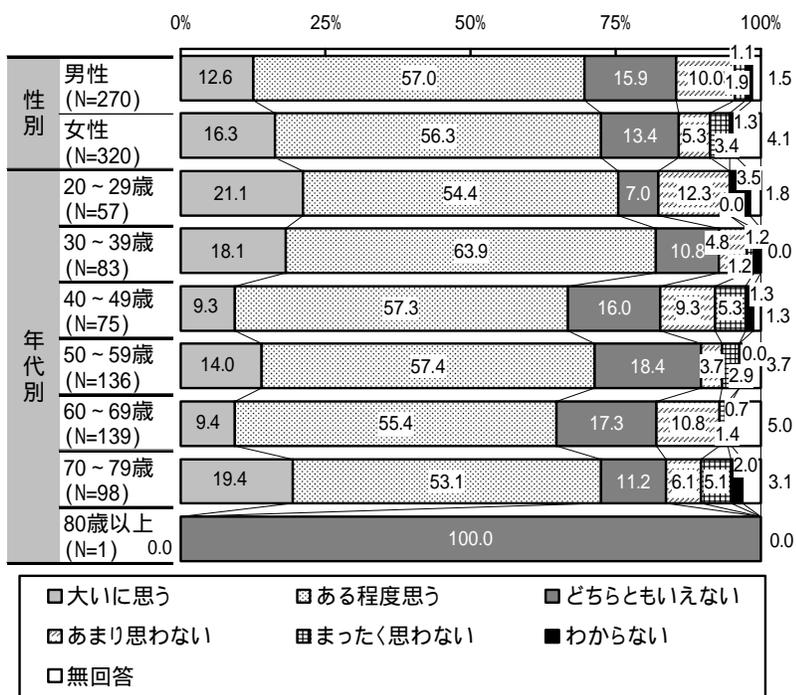
“健康で生活している”は30代で7割と高くなっている。20代の若年代は、「大いに思う」が14.0%で高いものの、“健康で生活できていない”年代別中最も高い22.8%となっている。

問16 あなたは、今現在、幸せだと思いますか？あてはまるものに1つ印をつけてください。



現在幸せだと思うかについては、「ある程度思う」が 56.5%と過半数を占めている。次いで「大いに思う」が 14.7%で、“幸せだと思う”は7割を占めている。一方“幸せだと思わない”(「あまり思わない」「まったく思わない」の合計)は約1割にとどまっている。

クロス集計



【性別】

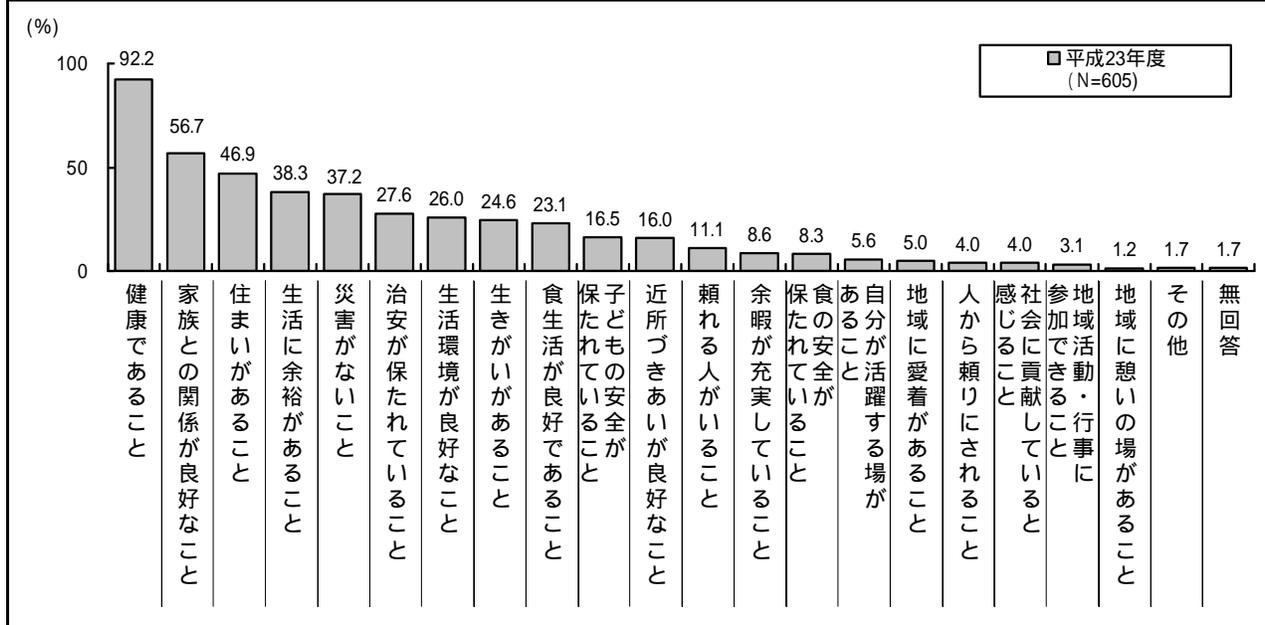
「大いに思う」は女性が男性を3.7ポイント上回り、男性は“幸せだと思わない”が1割を超えている。

【年代別】

「大いに思う」は20代で最も高い割合で、21.1%となっており、60代まで年代が高いほど低い傾向がみられる。「大いに思う」が1割に満たない40代、60代は“幸せだと思わない”が1割以上を占めている。

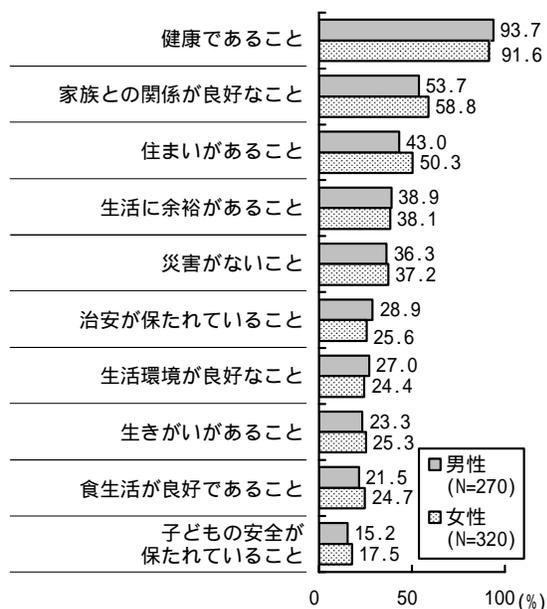
問17 あなたにとって、幸せな生活のために必要なことはどんなことだと思いますか？

次の中から5つ以内で選んで 印をつけてください。



幸せな生活のために必要なことは、「健康であること」が 92.2%で最も多く、ほとんどの人が回答している。2番目以降との差も大きい。次に「家族との関係が良好なこと」が 56.7%、「住まいがあること」が 46.9%、「生活に余裕があること」が 38.3%と続いている。地域・地域活動に関する事柄や、社会貢献などへの回答はわずかで、地域との関わり意識が希薄であることがうかがえる。

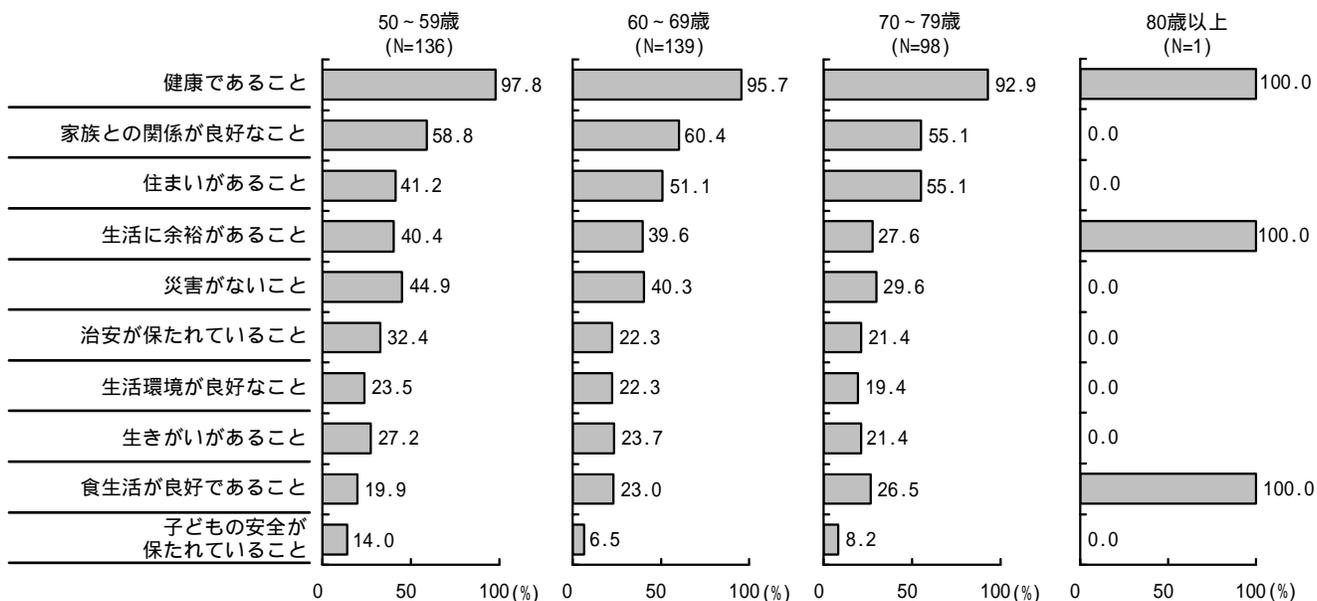
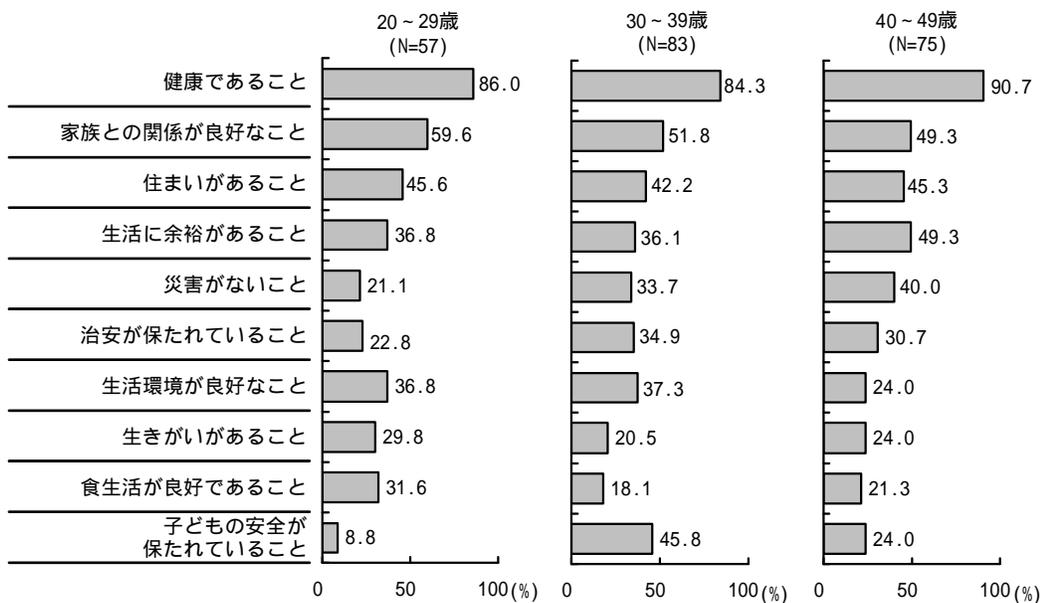
クロス集計



【性別】

上位 10 項目をみると、全体的に男女による大きな差異はみられないが、「家族との関係が良好なこと」「住まいがあること」は、いずれも女性が男性より 5 ポイント以上高い。

* 全体の回答の多い順上位 10 項目を表示



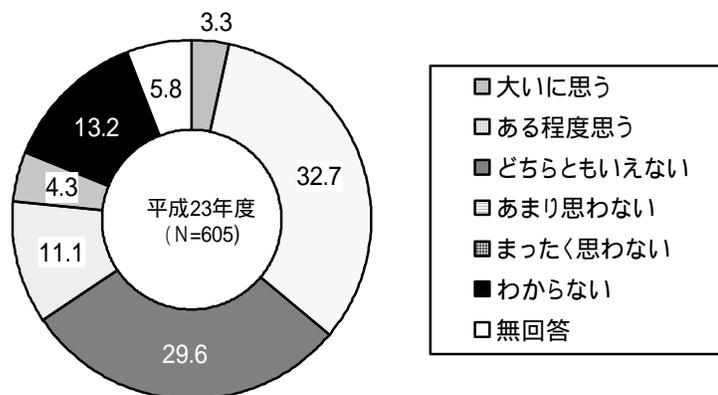
【年代別】

同じく上位 10 項目についてみると、最も多い「健康であること」は 40 代以上で 9 割以上の回答になっている。20 代は全体の傾向と異なり、「災害がないこと」「治安が保たれていること」などの安心を求める回答より、「生活環境が良好なこと」「食生活が良好であること」など日常生活について、良好であることを求める回答が多い。また、30 代は「子どもの安全が保たれていること」が 45.8% で目立って多くなっていることが、子育て年代として特徴的といえる。

<子育てについて>

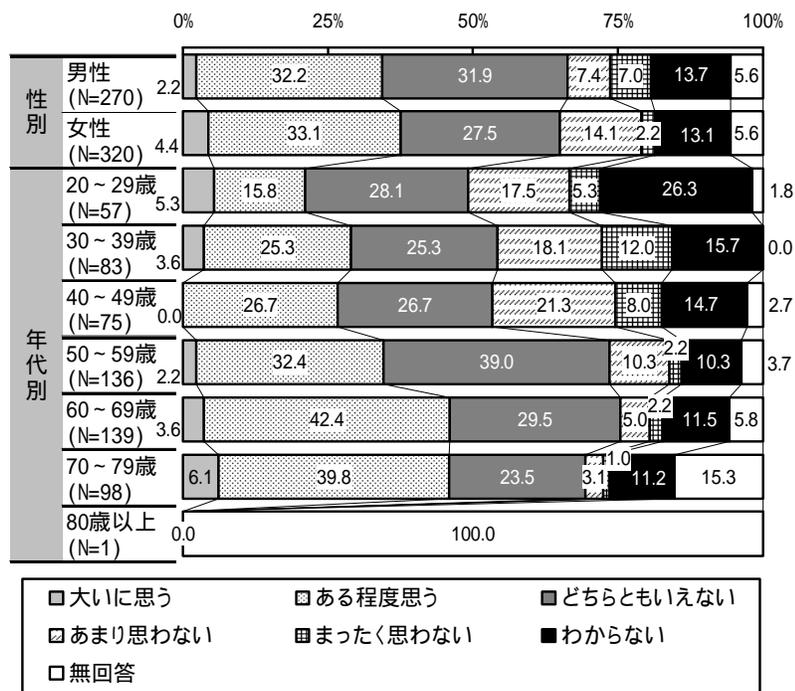
問18 あなたは、牧之原市は、子どもを産み育てやすいところだと思いますか？

あてはまるものに1つ 印をつけてください。



牧之原市が子どもを産み育てやすいところだと思うかについては、「ある程度思う」が 32.7%で最も高いが、次いで「どちらともいえない」が 29.6%と高いことから、子育て環境への評価は高いとはいえない。しかし、“子どもを産み育てやすい”(「大いに思う」「ある程度思う」の合計)は、“子どもを産み育てにくい”(「あまり思わない」「まったく思わない」の合計) 2倍以上になっている。

クロス集計



【性別】

男性は「どちらともいえない」「わからない」が女性を上回り、評価があいまいであるが、女性は「産み育てやすい」が男性より 3.1 ポイント高い。

【年代別】

“産み育てやすい”は、年代が高い方で高い割合を占め、一方、これから子どもを産む可能性の高い 20代や子育て年代の 30代、40代は“産み育てにくい”が 3割前後を占め、“産み育てやすい”を上回っている。

(問18で「4 あまり思わない」、「5 まったく思わない」と答えた方にお聞きします。)

問19 子どもを産み育てやすいと思わない理由をご自由にお書きください。

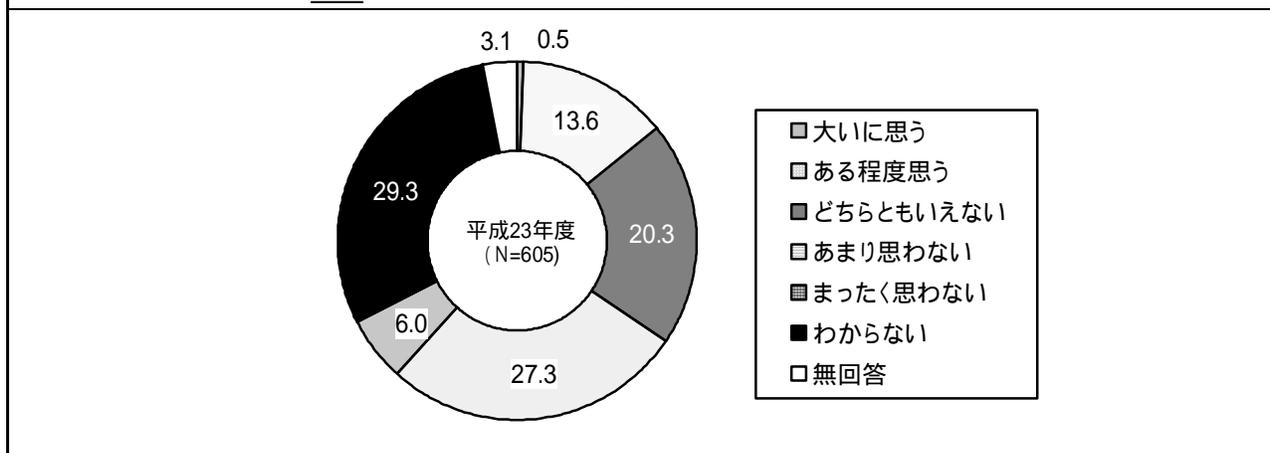
* 子どもを産み育てやすいと思わない理由(抜粋: ほぼ原文どおり)

- ・産婦人科が少ないこと。榛原病院の救急(夜間)が稼働していなく、突然の時に困る。
- ・娘が里帰り出産をしたが、牧之原市には受け入れる病院がない。
- ・子どもが楽しく体を動かせる児童館や公園が少ない。
- ・子どもの教育のことを考える進学校も少なく、不安もある。
- ・子育てに対する市の支援が少ない。医療費などの金銭的な支援が他の市町に比べると少な過ぎる。
- ・まわりの市みたいに子どもの医療費をもっと支援してほしい。少子化対策を充実させてほしい。
- ・他市に比べて助成が少ない。

子どもを産み育てやすいと思わない理由として、施設(特に医療機関)が少ないことや、医療費の補助が他市町と比べて不十分と感じていることなどが挙げられている。

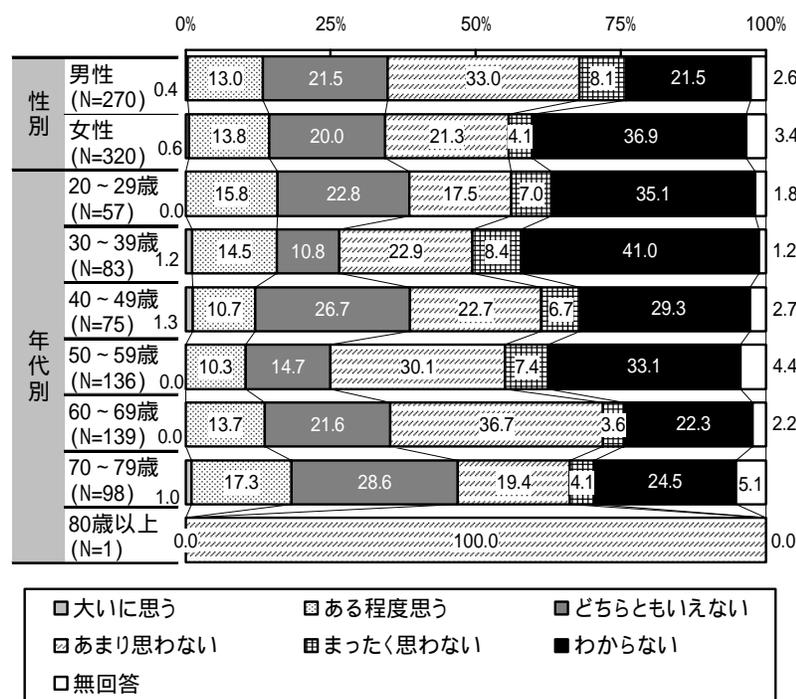
<まちの活性化について>

問20 あなたは、市内で産業間（農業や工業、商業など）の交流が行われていると思いますか？
あてはまるものに1つ印をつけてください。



市内の産業間の交流が行われているかについては、「わからない」が最も高く、関心度が低い事柄といえる。次いで「あまり思わない」が27.3%を占め、「まったく思わない」の6.0%を合わせると、3人に一人は“交流できていない”と感じている。一方“交流できている”(「大いに思う」「ある程度思う」の合計)と評価する割合は、約1割にとどまっている。

クロス集計



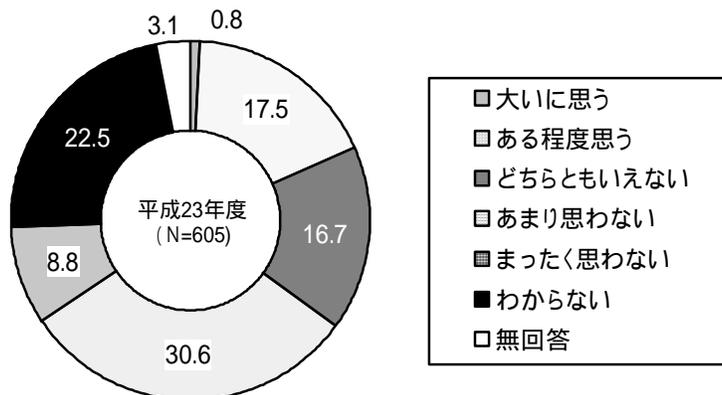
【性別】

女性よりも男性の方が評価は厳しく、「あまり思わない」は11.7ポイント、「まったく思わない」は4.0ポイント男性の方が高く、女性の関心が薄いことが顕著に現れている。

【年代別】

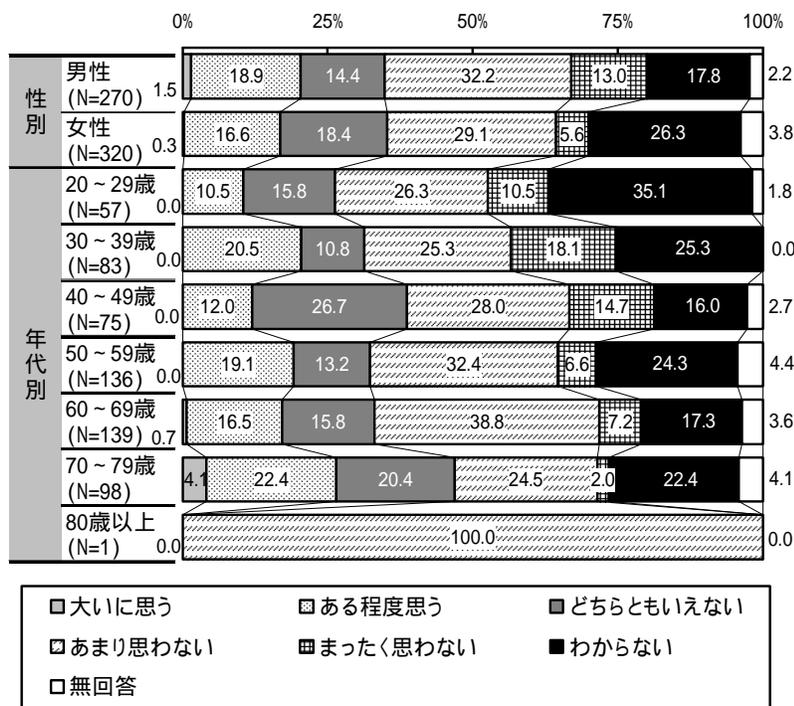
“交流できている”は、ほとんどが1割強にとどまっている中、70代は2割近く、やや高い。50代、60代の評価が厳しく、“交流できていない”が7割前後を占めている。

問21 あなたは、空港の航空先など市外との交流が行われていると思いますか？
 あてはまるものに1つ 印をつけてください。



市外との交流が行われていると思うかについては、「あまり思わない」が 30.6%で最も高い割合を占めており、「まったく思わない」を合わせた“交流できていない”は、“交流できている”(「大いに思う」「ある程度思う」の合計)より、2割以上高い。厳しい評価といえるが、「どちらともいえない」や「わからない」も高くなっており、関心の薄さにも着目できる。

クロス集計



【性別】

女性よりも男性の方が評価は厳しく、“交流できていない”は 10.5 ポイント高い。一方“交流できている”についても女性より高くなっており、男性の方が関心は高いといえる。

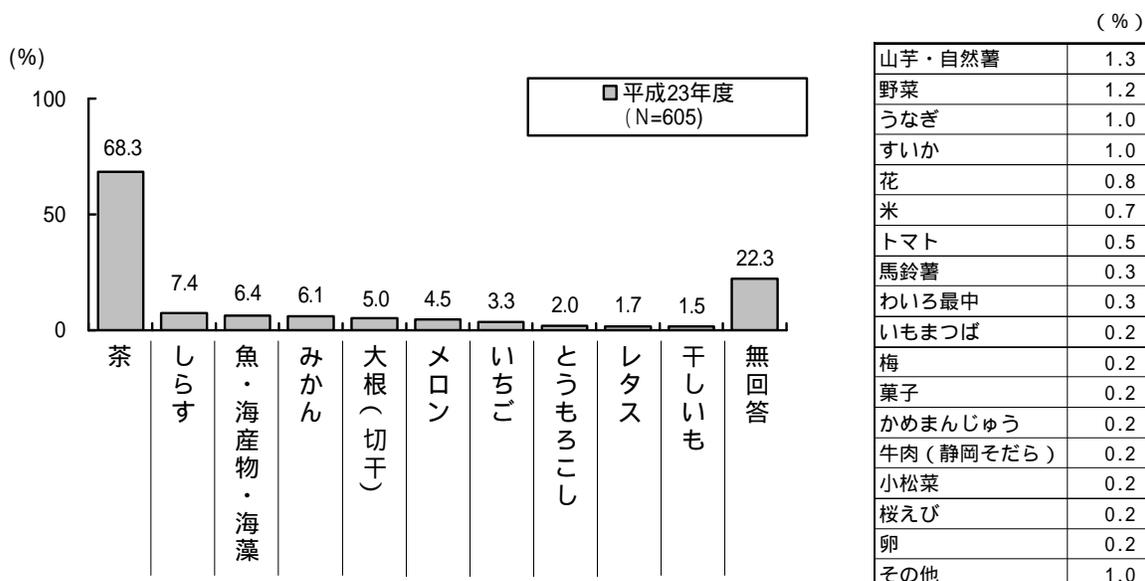
【年代別】

20～40代では評価が厳しく、「まったく思わない」がいずれも1割を超えている。特に30代は 18.1%と高い。一方で30代は「ある程度思う」が2割に達している。70代も“交流している”は高い。

< 地場産業等の活性化について >

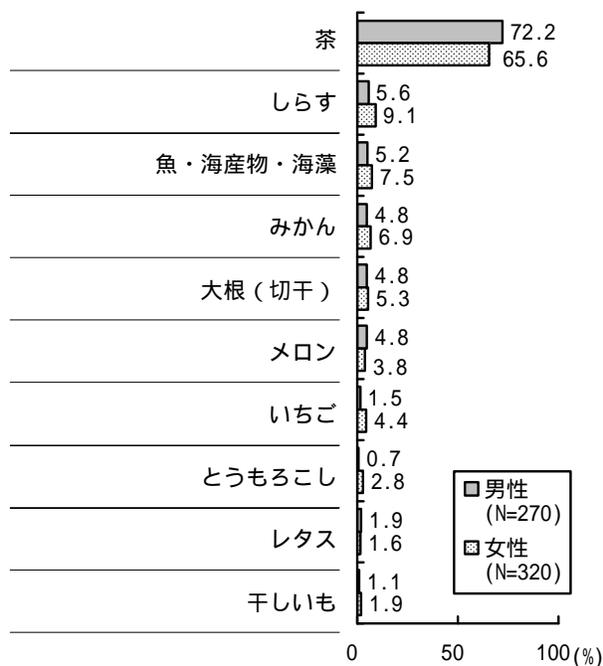
問22 あなたが、ひとに自慢できる特産品（地場産品）は、何ですか？

その特産品（地場産品）を教えてください。



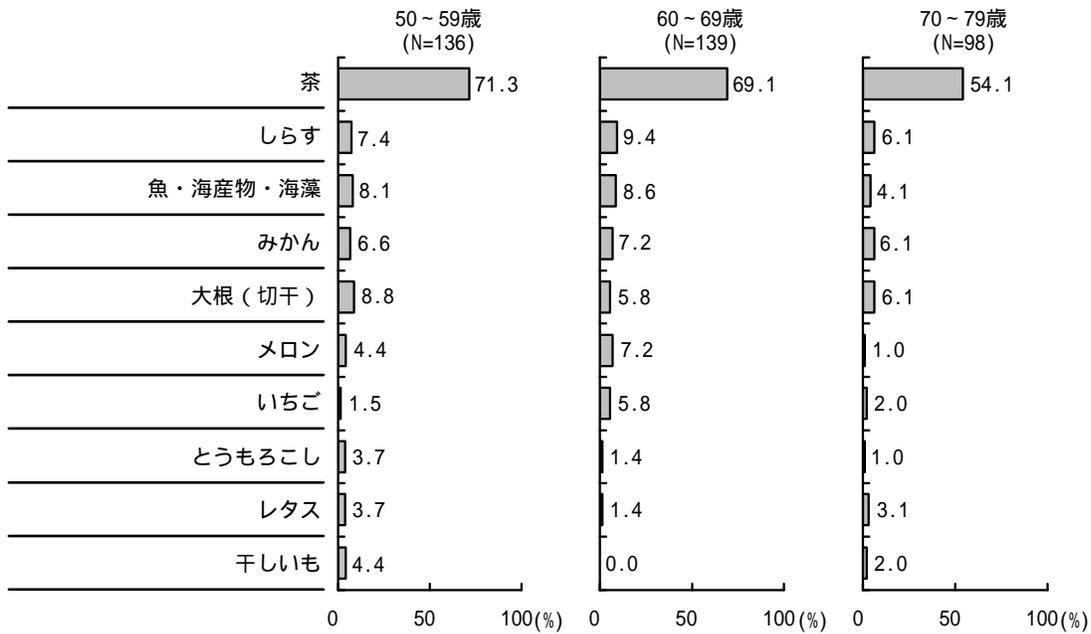
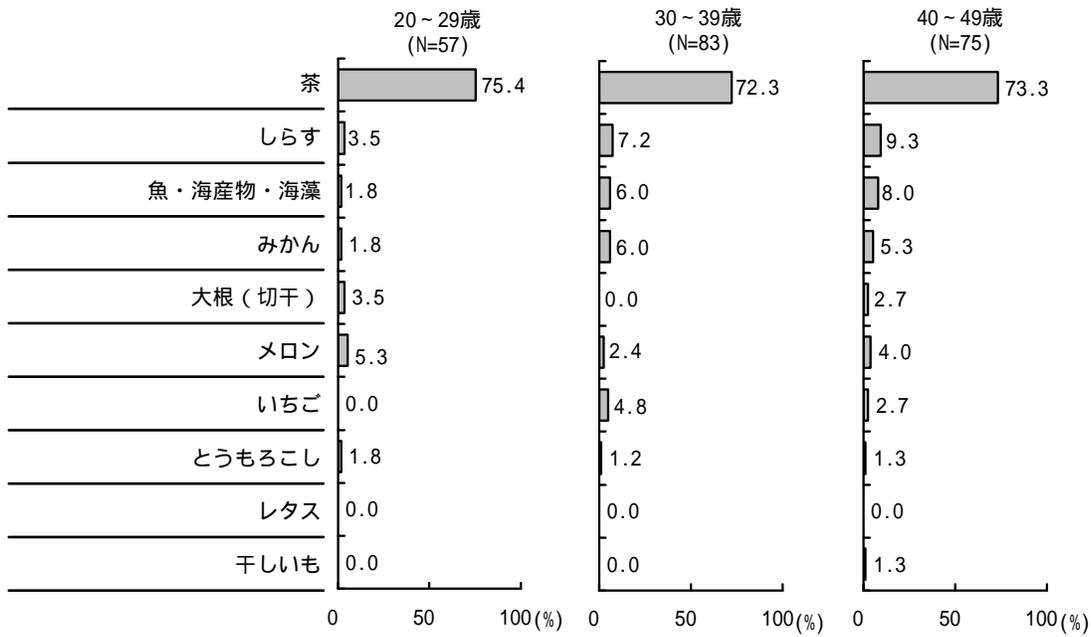
ひとに自慢できる特産品（地場産品）は、「茶」が 68.3%と、挙げられた回答の中で、群を抜いて多くなっている。以下はそれぞれ1割に満たない回答であるが、「しらす」「魚・海産物・海藻」「みかん」などの順となっている。回答の多い10項目についてグラフに示したが、以下は右表の通りである。

クロス集計



【性別】

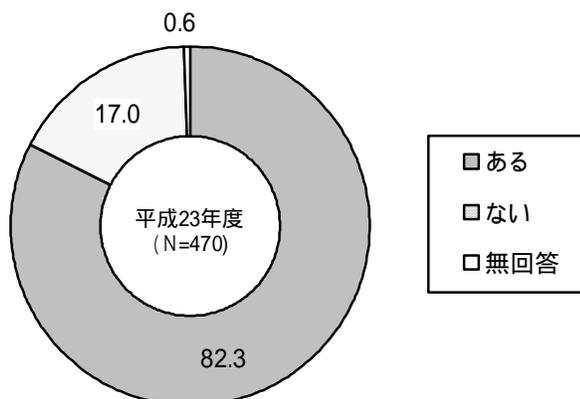
回答の多い10項目についてみると、男性の方が「茶」の回答に集中しており、2番目以降の回答は少ない。



【年代別】

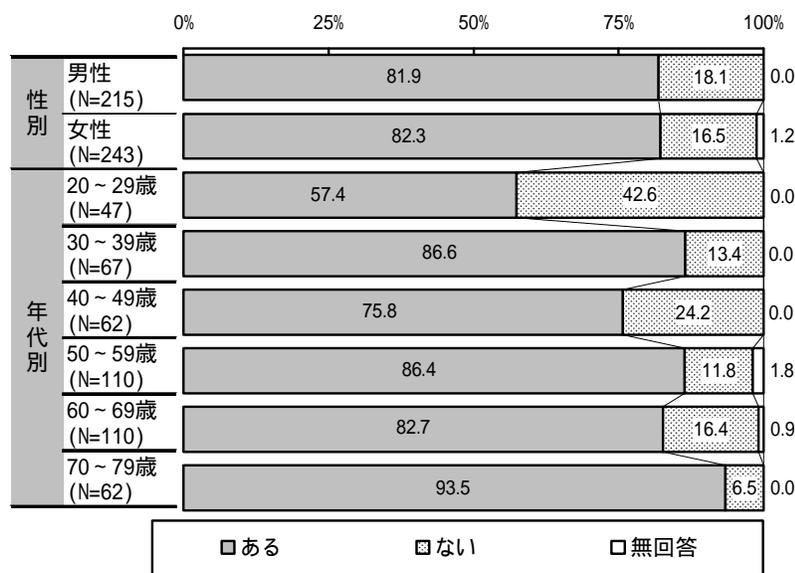
同じく回答の多い10項目をみると、「茶」は年代が高いほど回答が少なくなる傾向がみられる。50代は他の年代に比べると分散傾向で、「茶」以下の項目にも回答が近似値で並んでいる。また、80歳以上は回答がなかったので、グラフは割愛した。

問23 問22でお答えになった特産品（地場産品）をひとで紹介したことがありますか？
あてはまるものに 印をつけてください。



問22で回答した特産品（地場産品）をひとで紹介したことがあるかについては、「ある」が82.3%と大半を占めている。特産品に対する愛着度が高いことがうかがえる。

クロス集計



【性別】

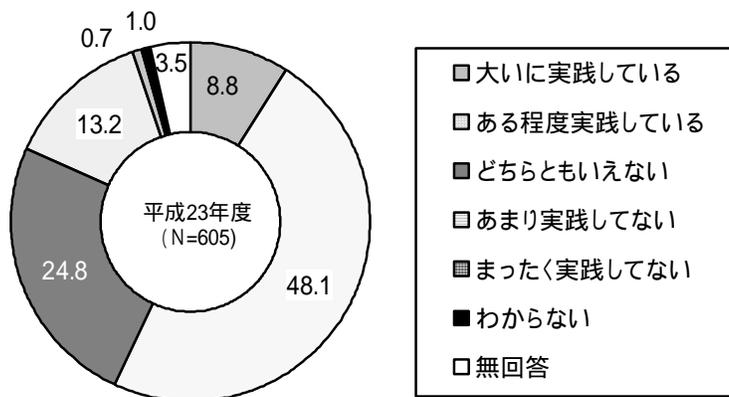
男女による差は、ほとんどみられない。

【年代別】

いずれの年代も「ある」は7～9割と大半を占めているが、20代は「ある」が6割に満たない状況で、「ない」が4割を占めている。70代は「ある」が9割に達している。

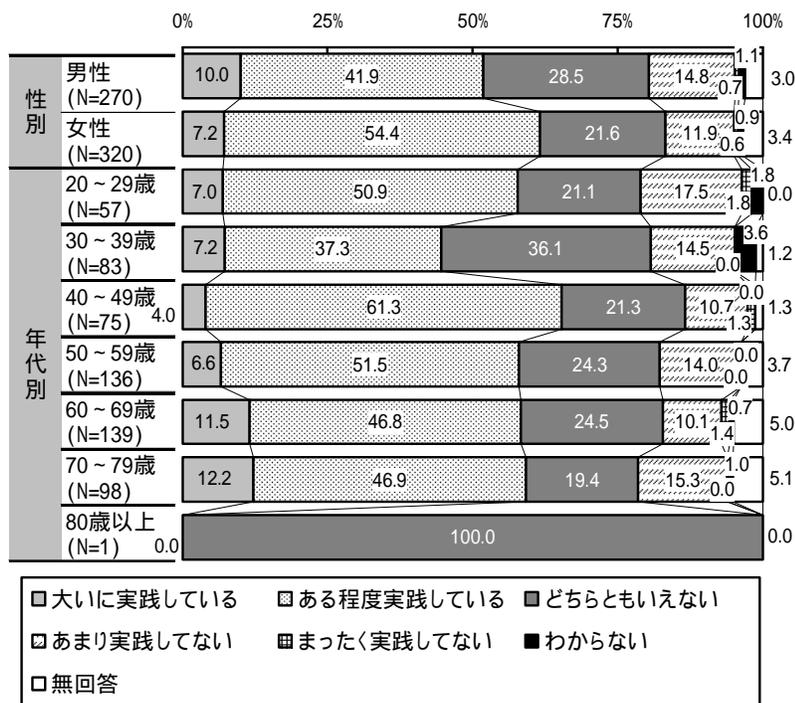
<環境に配慮した暮らしについて>

問24 あなたは、資源を節約し有効利用するための行動として、節電、節水、リサイクルなどの活動を実践していますか？あてはまるものに1つ 印をつけてください。



資源を節約し有効利用するために、節電、節水、リサイクルなどの活動を実践しているかについては、「ある程度実践している」が48.1%と半数近くを占め、「大いに実践している」と合わせると過半数になっている。一方、「実践していない」(「あまり実践していない」「まったく実践していない」の合計)は、13.9%と多くなく、資源の有効利用に対する意識は高い。

クロス集計



【性別】

「大いに実践している」は男性がやや女性を上回るものの、「ある程度実践している」は女性が54.4%で過半数を占め、「実践している」割合は、女性が約10ポイント高くなっている。

【年代別】

「大いに実践している」は60代以上の高齢者で高い割合であるが、「実践している」でみると40代が著しく高い。

(問24で「1 大いに実践している」「2 ある程度実践している」と答えた方にお聞きします。)

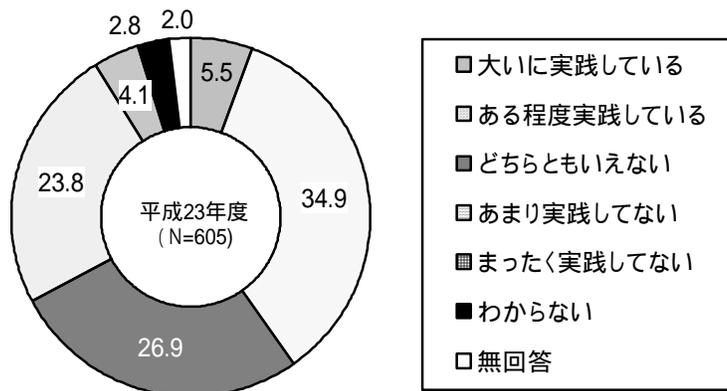
問25 実践していることについて、ご自由にお書きください。

* 実践していること (抜粋：ほぼ原文どおり)

- ・夜は家族が一つの部屋にいる。緑のカーテン。使っていない電気は消す。
- ・太陽光を近々設置、風呂の残り湯の再利用、エアコンの最小使用。
- ・徐々にLED電球化。省エネ家電化。
- ・ゴミの分別をきちんとし、リサイクルできるものは必ず実施している。昼間はまったくエアコンなどを使用しない。
- ・電源を切る。なるべく11時～翌朝7時までの使用とする。
- ・風呂水を野菜や外にまく。
- ・エアコンをできるだけ使わず扇風機で生活していること。

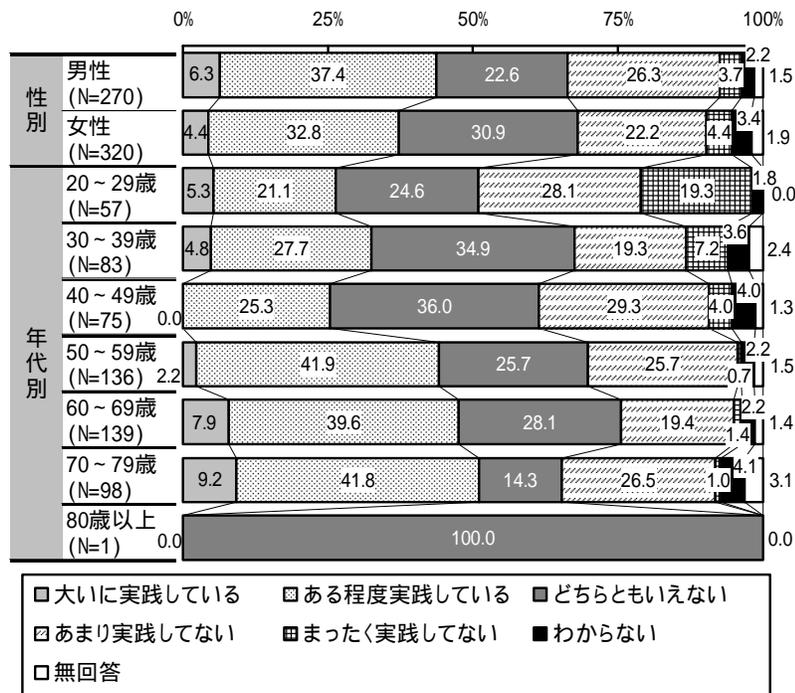
資源の有効利用で実践していることとして、風呂水の再利用、ゴミの分別、太陽光パネルの設置、LED電球化、緑のカーテン化など、多岐に渡って多くの実践事項が挙げられている。また、複数の実践事項を記載している回答者も多く、節減意識が高く、実際に実践していることがうかがえる。

問26 あなたは、自然環境を守るための行動として、緑化、自然保護、環境美化などの活動を実践していますか？あてはまるものに1つ 印をつけてください。



自然環境を守るための行動として、自然保護、環境美化などの活動を実践しているかについては、「ある程度実践している」が 34.9%で、最も高い割合を占めているが、「あまり実践していない」が次いで高く、“実践している”(「大いに実践している」「ある程度実践している」の合計)と、“実践していない”(「あまり実践していない」「まったく実践していない」の合計)の差は小さい。資源節約の活動に比べると、実践しにくい活動といえるが、3人に1人以上が実践していることが評価できる。

クロス集計



【性別】

男性は、“実践している”“実践していない”のいずれも女性を上回っており、女性は曖昧な回答が多くなっている。

【年代別】

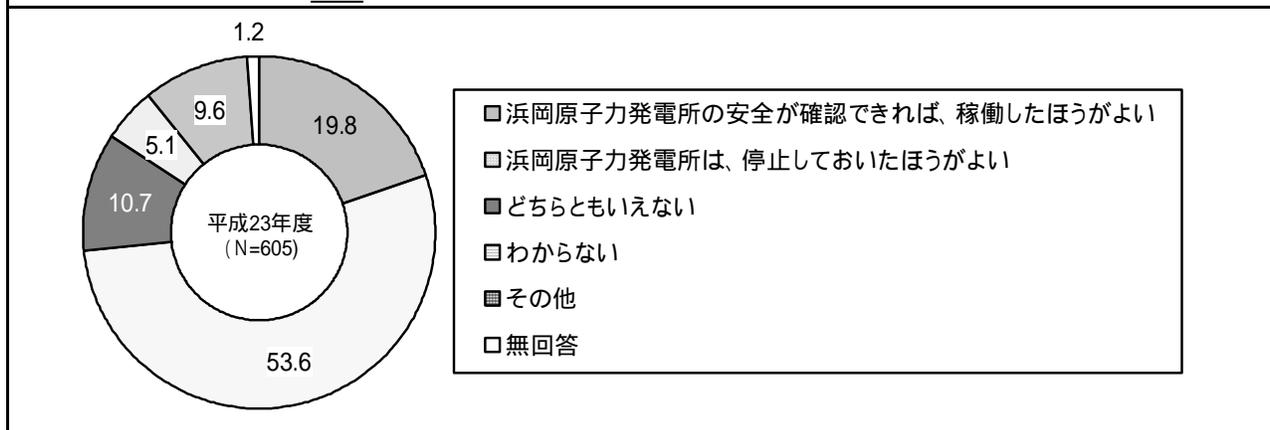
“実践している”は、年代が高いほど高い割合になる傾向がみられる。ただし、40代は低く、「大いに実践している」は皆無である。

<原子力発電について>

牧之原市は、東海地震が想定されている地域であり、隣接する御前崎市に中部電力の浜岡原子力発電所があります。現在、浜岡原子力発電所の各原子炉は、国の要請により、停止している状況です。

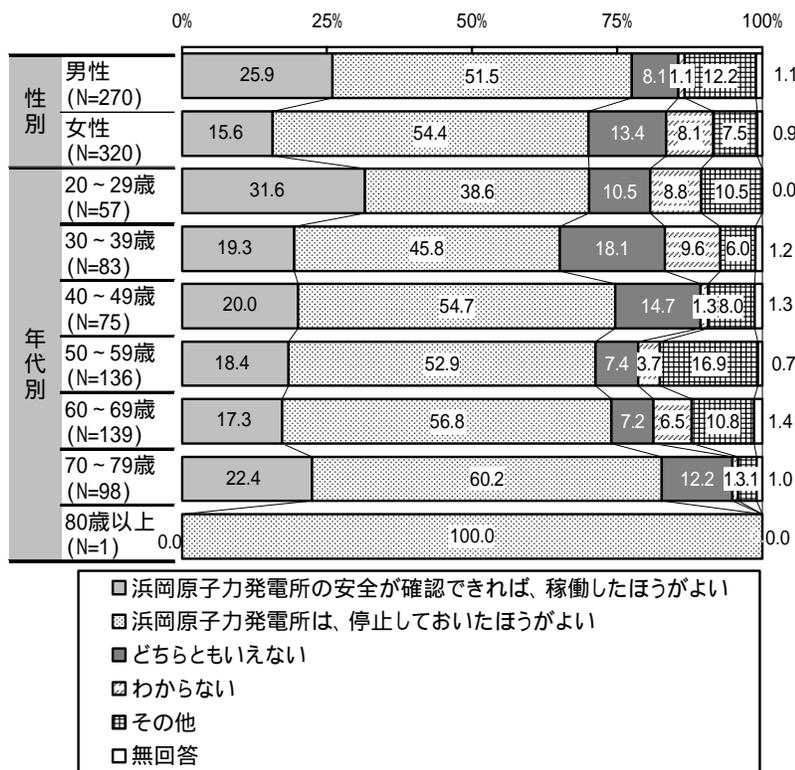
問27 あなたは、浜岡原子力発電所の今後についてどう思いますか？

あてはまるものに1つ 印をつけてください。



浜岡原子力発電所の今後については、「浜岡原子力発電所は、停止しておいたほうがよい」が53.6%で過半数を占めている。次いで「浜岡原子力発電所の安全が確認できれば、稼働したほうがよい」が19.8%で高いが、「浜岡原子力発電所は、停止しておいたほうがよい」の半分以下になっている。

クロス集計



【性別】

「浜岡原子力発電所の安全が確認できれば、稼働したほうがよい」は、男性の割合が高く、女性を約10ポイント上回り、4人に1人の回答となっている。

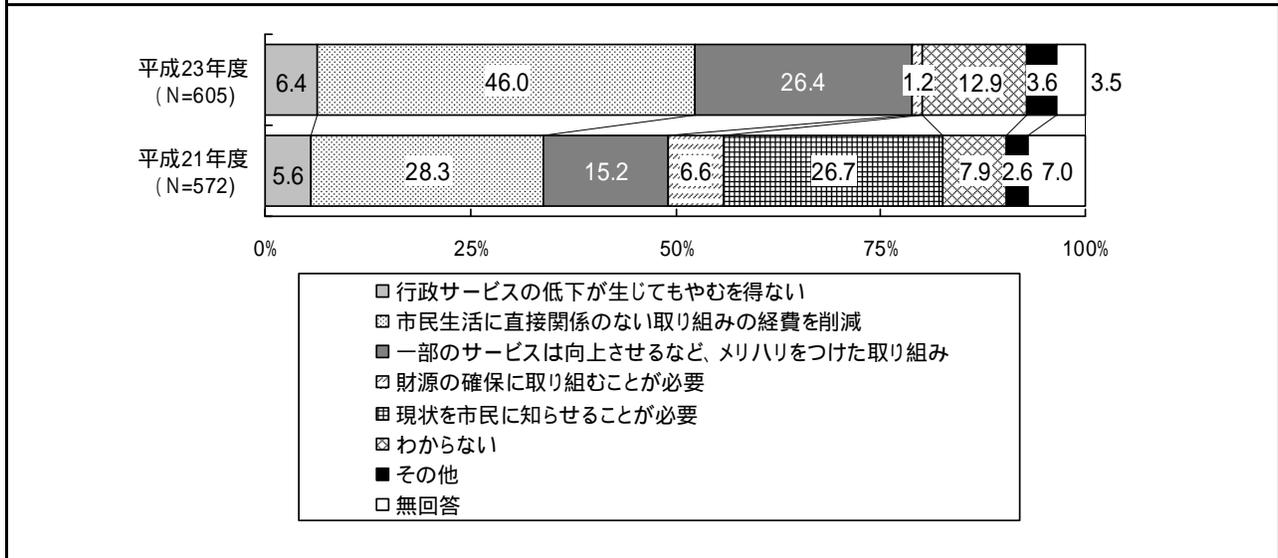
【年代別】

20代の稼働希望が最も高く、31.6%を占めている。停止継続を望む割合は、年代が上がるほど高くなる傾向がみられる。

< 牧之原市の行政サービスについて >

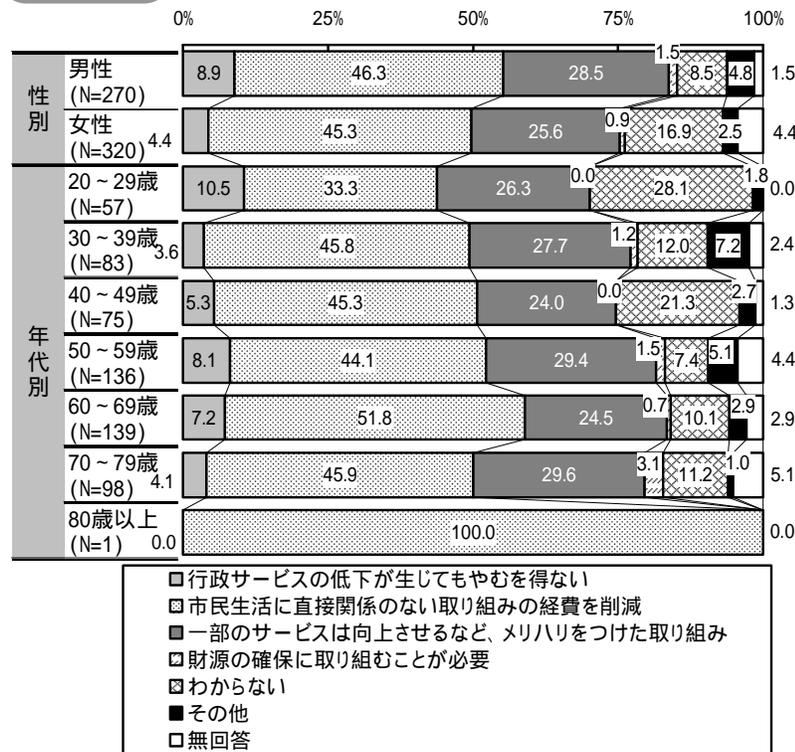
問28 市の財政状況が大変厳しい中、行政サービスなどについてどう考えますか？

次のうち該当する項目に を1つ付けてください。



行政サービスなどについての考えは、「市民生活に直接関係のない取り組みの経費を削減」が46.0%で最も高い割合を占めており、前回は17.7ポイント上回っている。また次いで高い「一部のサービスは向上させるなど、メリハリをつけた取り組み」も、前回から10ポイント以上高くなっているが、今回は「現状を市民に知らせることが必要」の選択肢がなかったことがこの結果に反映しているため、傾向としては、前回と類似しているといえる。

クロス集計



【性別】

女性は「わからない」が男性に比べて多く、関心度の差が現れている。男性は「行政サービスの低下が生じてもやむを得ない」で、女性を4.5ポイント上回っている。

【年代別】

各年代において最も多い項目が異なっており、20代では「一部のサービスは向上させるなど、メリハリをつけた取り組み」が、30代、60～70代では「市民生活に直接関係のない取り組みの経費を削減」が、最も多くなっている。

問29 あなたは、市の取り組みについて満足していますか？

また、その取り組みが重要であると考えますか？ 該当する欄に 印をお付けください。

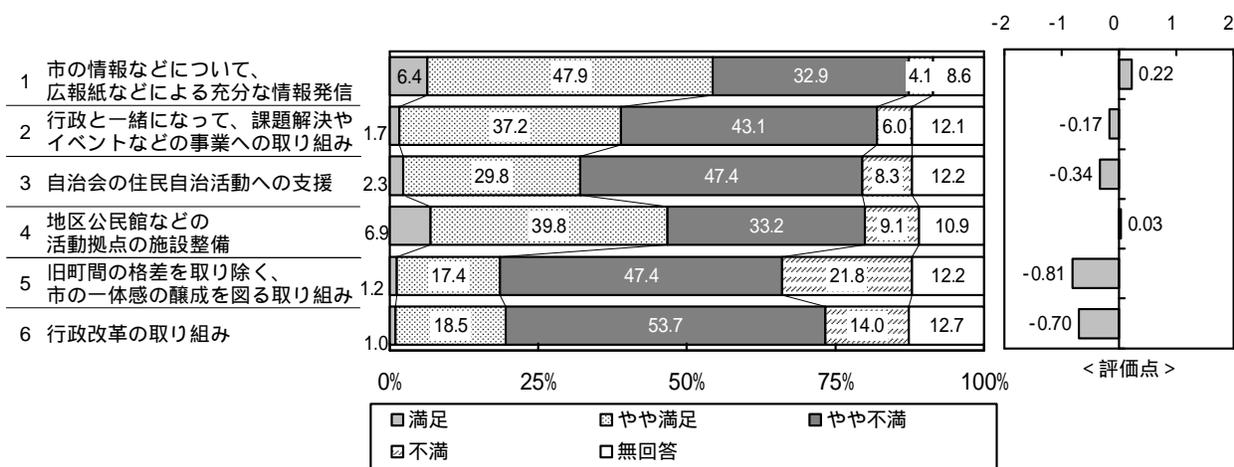
取り組みによっては、あなたに直接関係のない取り組みも含まれることと思いますが、ご家族や知人の状況、あるいは、あなたの思いや考えなどの中で、いずれかの欄に 印をつけてください。

評価点の算出方法

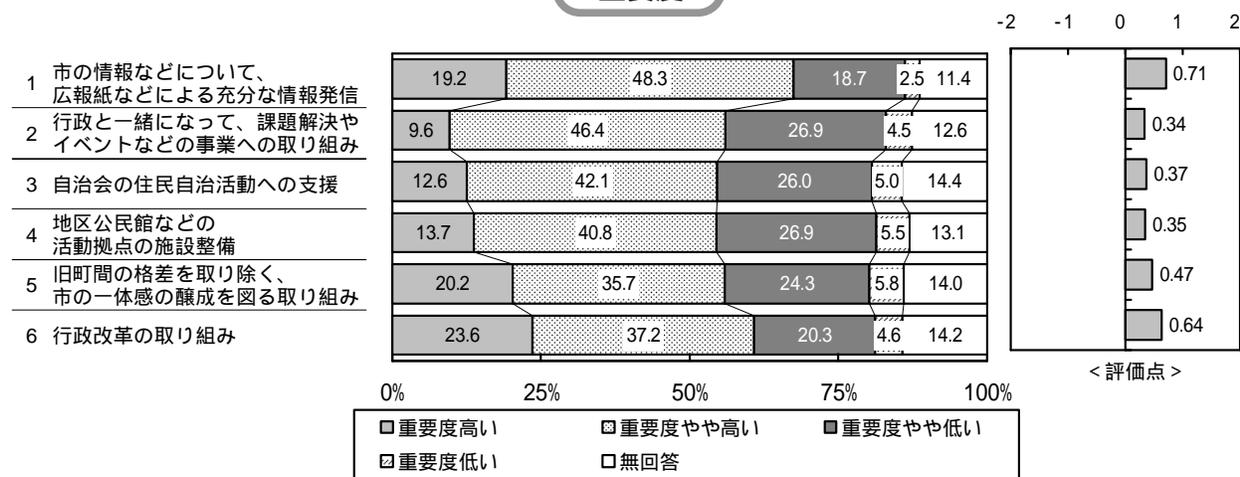
「満足」「重要度高い」と回答した人を+2点、「やや満足」「重要度やや高い」は+1点、「やや不満」「重要度やや低い」は-1点、「不満」「重要度低い」を-2点とし、それぞれの点数にそれぞれの回答者数を掛け、それらを合計した数字を回答者数（「無回答」は回答者数に含めない）で割り、算出している。評価点は、プラスの大きいものは評価が高く、マイナスは評価が低いことを表している。

【 自治体体質の強化 】

満足度



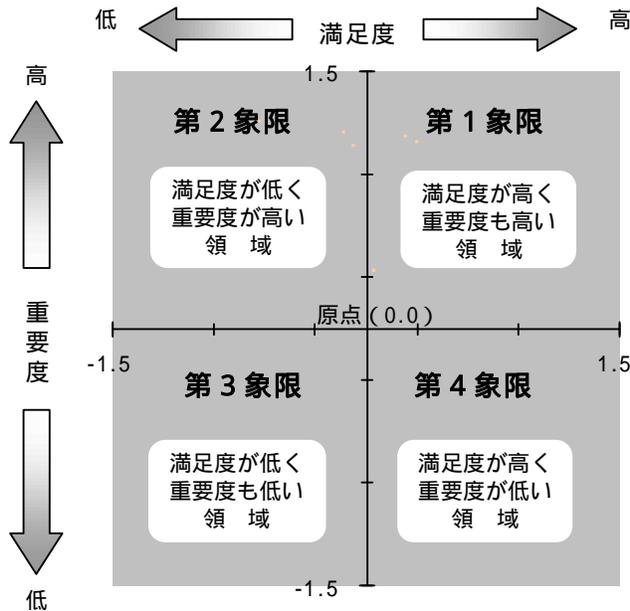
重要度



自治体体質の強化に関する取り組みで満足度が高いのは『1 市の情報などについて、広報紙などによる十分な情報発信』で、評価点が0.22となっており、次いで『4 地区公民館などの活動拠点の施設整備』

備』の 0.03 点が高く、プラスの評価点は、以上の2項目にとどまっている。一方、『5 旧町間の格差を取り除く、市の一体感の醸成を図る』と『6 行政改革の取り組み』では「不満」が半数前後を占めており、評価点も -0.81 点、-0.70 点と低くなっている。

重要度が最も高いのは『1 市の情報などについて、広報紙などによる十分な情報発信』で、評価点は 0.71 点となっており、満足度、重要度共に高い取り組みである。次いで『6 行政改革の取り組み』が 0.64 点と高く、この2項目において 0.5 点を超えている。

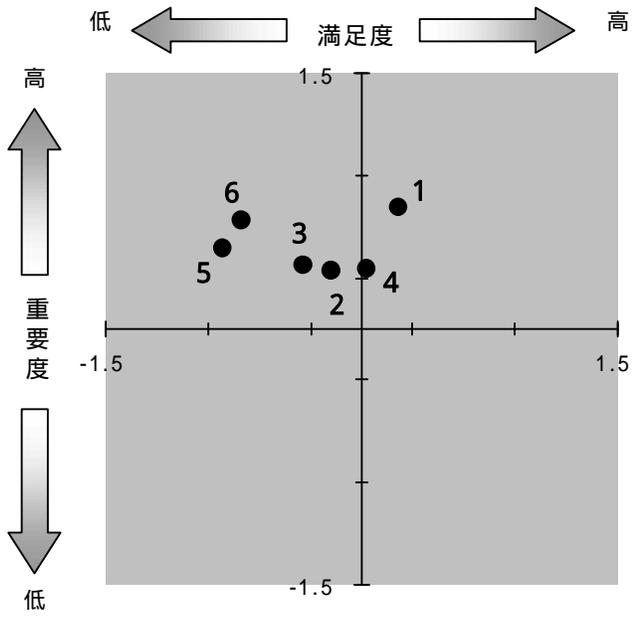


参考

各取り組みについて満足度、重要度の評価点を散布図にした場合、左のグラフのように、4つの象限に評価をみることができる

* 散布図中の番号は、各取り組みの通し番号であるため、各散布図上記表を参照

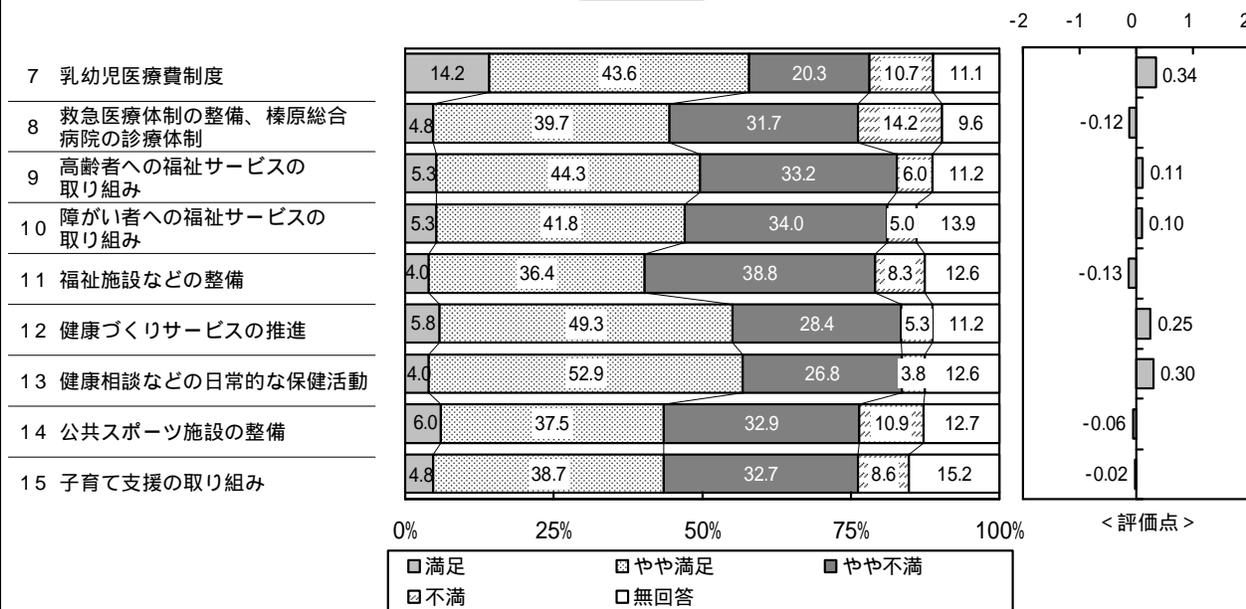
《自治体体質の強化》		満足度	重要度
1	市の情報などについて、広報紙などによる十分な情報発信	0.22	0.71
2	行政と一緒にあって、課題解決やイベントなどの事業への取り組み	-0.17	0.34
3	自治会の住民自治活動への支援	-0.34	0.37
4	地区公民館などの活動拠点の施設整備	0.03	0.35
5	旧町間の格差を取り除く、市の一体感の醸成を図る取り組み	-0.81	0.47
6	行政改革の取り組み	-0.70	0.64



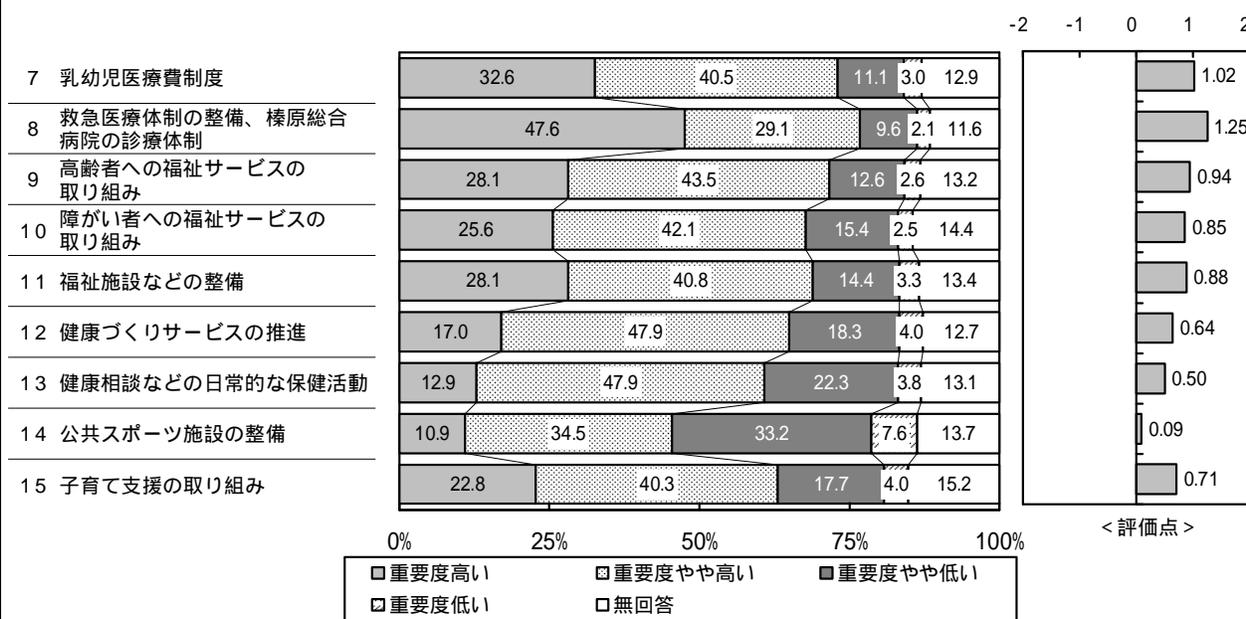
散布図でみると、『1 市の情報などについて、広報紙などによる十分な情報発信』と『4 地区公民館などの活動拠点の施設整備』の2項目が、満足度、重要度共に高い第1象限の領域にある。いずれも重要度は高く、マイナスの領域にはみられない。

【 健康福祉 】

満足度



重要度

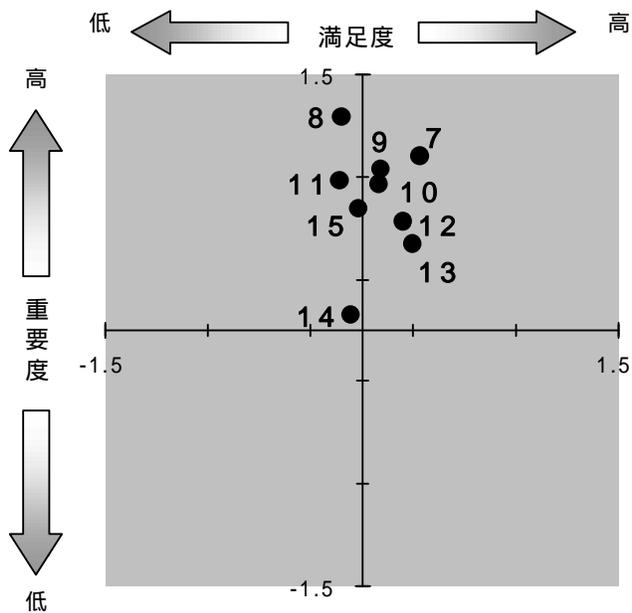


健康福祉に関する取り組みで満足度が高いのは『7 乳幼児医療費制度』で、「満足」が唯一1割を超えており、評価点が0.34点となっている。次いで『13 健康相談などの日常的な保健活動』が0.30点で続いている。一方、『8 救急医療体制の整備、榛原総合病院の診療体制』では、「大変不満」14.2%と高く、評価点も-0.12点と低い。しかし、健康福祉に関する取り組み中最も評価点が低いのは『11 福祉施設などの整備』で、-0.13点となっている。

重要度が最も高いのは、『8 救急医療体制の整備、榛原総合病院の診療体制』で、「重要度高い」が

47.6%と、半数近くを占めている。評価点は1.25点となっている。次いで『7 乳幼児医療費制度』が1.02点となっており、この2項目において1.0点以上となっている。

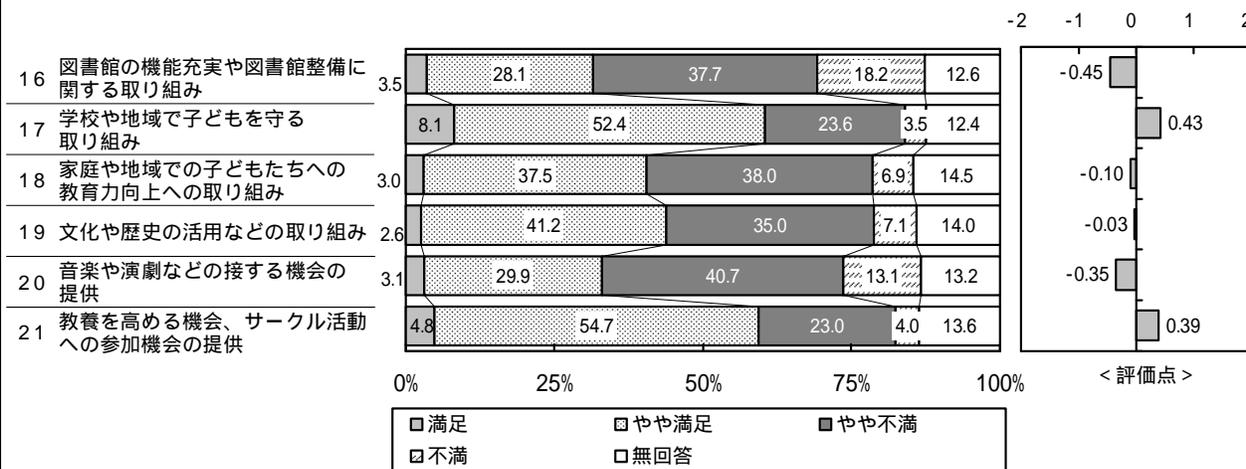
《健康福祉》		満足度	重要度
7	乳幼児医療費制度	0.34	1.02
8	救急医療体制の整備、榛原総合病院の診療体制	-0.12	1.25
9	高齢者への福祉サービスの取り組み	0.11	0.94
10	障がい者への福祉サービスの取り組み	0.10	0.85
11	福祉施設などの整備	-0.13	0.88
12	健康づくりサービスの推進	0.25	0.64
13	健康相談などの日常的な保健活動	0.30	0.50
14	公共スポーツ施設の整備	-0.06	0.09
15	子育て支援の取り組み	-0.02	0.71



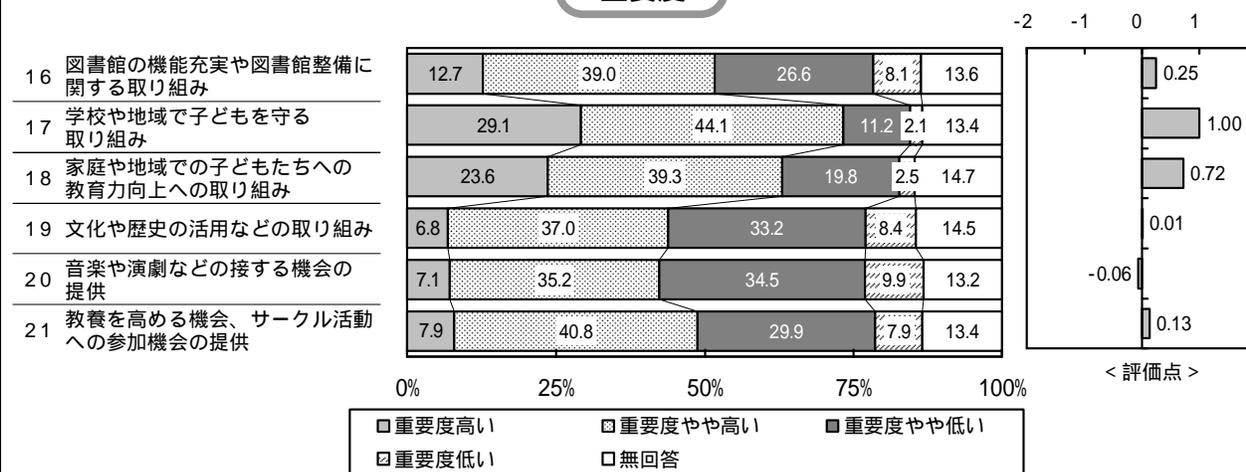
散布図で見ると、『8 救急医療体制の整備、榛原総合病院の診療体制』が、第2象限の右上に位置しており、特に重要度が高くなっていることがわかる。また、重要度はいずれも高く、マイナスの項目はみられない。

【生涯学習】

満足度



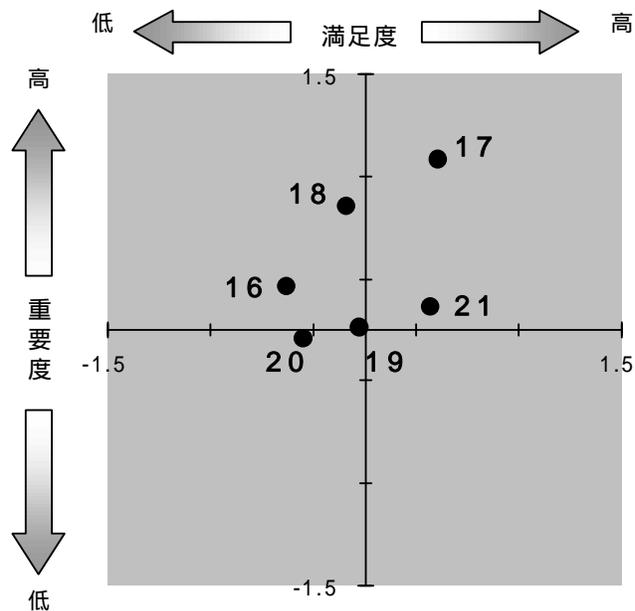
重要度



生涯学習に関する取り組みで満足度が高いのは『17 学校や地域で子どもを守る取り組み』と『21 教養を高める機会やサークル活動への参加機会の提供』の2項目で、いずれも「満足」が過半数を占めており、評価点はそれぞれ0.43点、0.39点となっている。一方、『16 図書館の機能充実や図書館整備に関する取り組み』と『20 音楽や演劇などの接する機会の提供』では「不満」が4割前後、「大変不満」が1割強を占めており、評価点も -0.45点、-0.35点とマイナスの方向に高くなっている。

重要度が最も高いのは、『17 学校や地域で子どもを守る取り組み』で、「重要度高い」が29.1%と、3割近くを占めている。また、『18 家庭や地域での子どもたちへの教育力向上への取り組み』も2割を超え、それぞれ評価点は1.00点、0.72点と高くなっている。一方、評価点をみると『20 音楽や演劇などの接する機会の提供』が最も低く、この分野の取り組みの中で唯一のマイナス評価となっている。

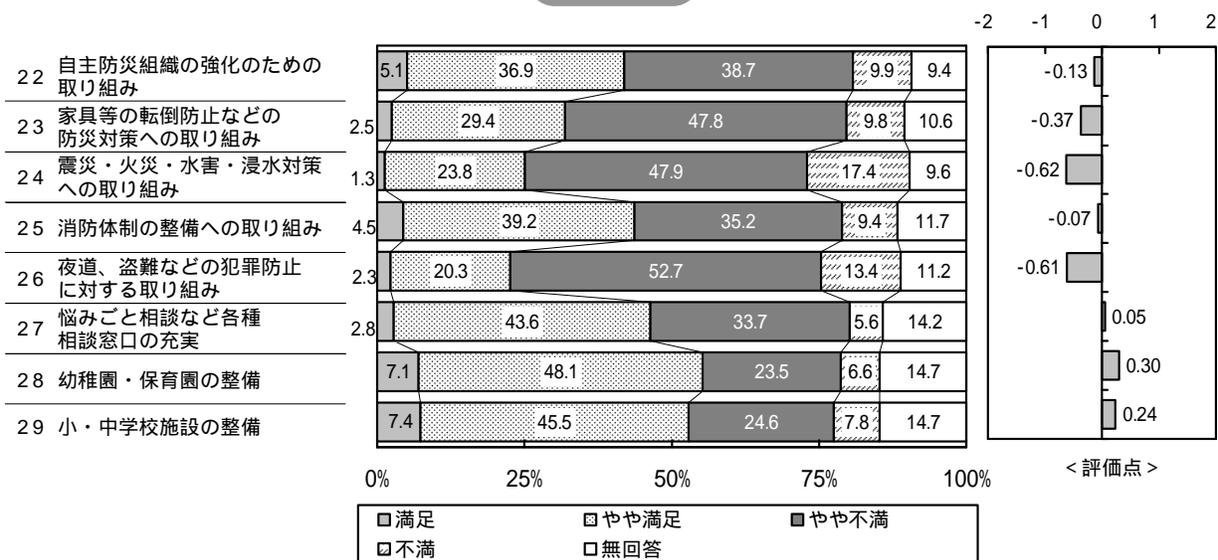
《生涯学習》		満足度	重要度
16	図書館の機能充実や図書館整備に関する取り組み	-0.45	0.25
17	学校や地域で子どもを守る取り組み	0.43	1.00
18	家庭や地域での子どもたちへの教育力向上への取り組み	-0.10	0.72
19	文化や歴史の活用などの取り組み	-0.03	0.01
20	音楽や演劇などの接する機会の提供	-0.35	-0.06
21	教養を高める機会、サークル活動への参加機会の提供	0.39	0.13



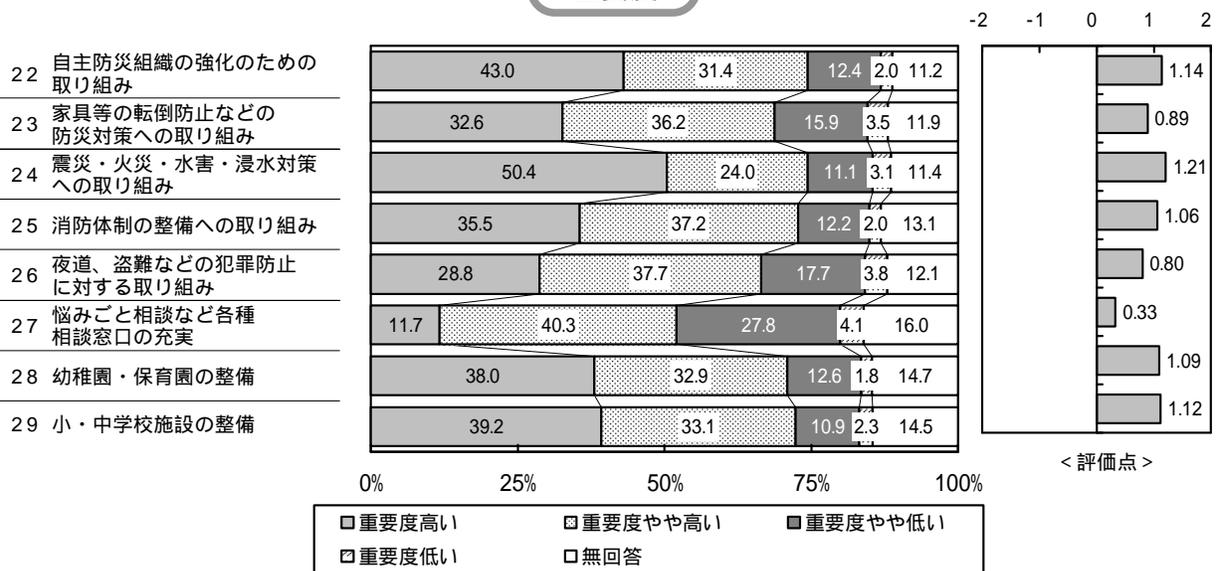
散布図をみると、この分野の取り組みは他の分野に比べて評価にばらつきがみられる。『17 学校や地域で子どもを守る取り組み』は、満足度、重要度いずれも高いことが一目で分かる。『20 音楽や演劇などの接する機会の提供』は、取り組み全 51 項目中、唯一のマイナス項目で、唯一の第 3 象限となっているが、原点からの距離はさほど離れていない。

【 安全安心社会 】

満足度



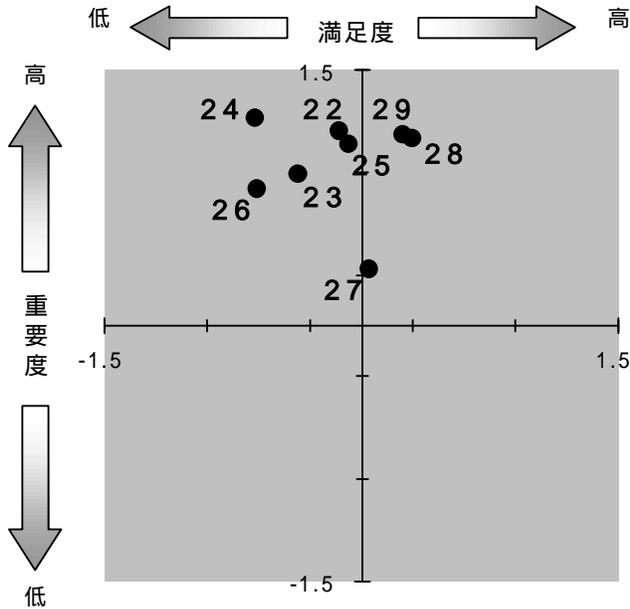
重要度



安全安心社会に関する取り組みで満足度が高いのは『28 幼稚園・保育園の整備』と『29 小・中学校施設の整備』の2項目で、「満足」と「やや満足」を合わせた“満足”は過半数を占めている。評価点もそれぞれ0.30点、0.24点とプラス評価になっている。一方、『24 震災・火災・水害・浸水対策への取り組み』と『26 夜道、盗難などの犯罪防止に対する取り組み』では「大変不満」が1割を超えており、評価点も -0.62点、-0.61点と低くなっている。

重要度が最も高いのは『24 震災・火災・水害・浸水対策への取り組み』で「重要度高い」が過半数を占めており、評価点も1.21点と高い。次いで、『22 自主防災組織の強化のための取り組み』が1.14点、『29 小・中学校施設の整備』が1.12点、『28 幼稚園・保育園の整備』が1.09点、『25 消防体制の整備への取り組み』が1.06点と続いており、いずれもさほど大きな差はみられない。

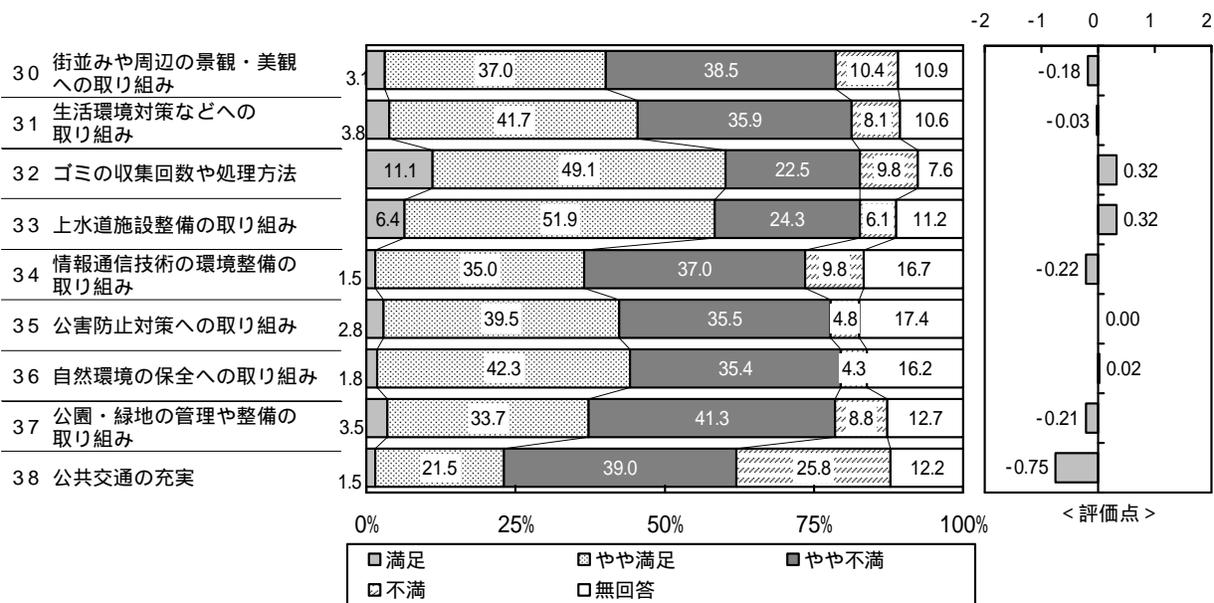
《安全安心社会》		満足度	重要度
22	自主防災組織の強化のための取り組み	-0.13	1.14
23	家具等の転倒防止などの防災対策への取り組み	-0.37	0.89
24	震災・火災・水害・浸水対策への取り組み	-0.62	1.21
25	消防体制の整備への取り組み	-0.07	1.06
26	夜道、盗難などの犯罪防止に対する取り組み	-0.61	0.80
27	悩みごと相談など各種相談窓口の充実	0.05	0.33
28	幼稚園・保育園の整備	0.30	1.09
29	小・中学校施設の整備	0.24	1.12



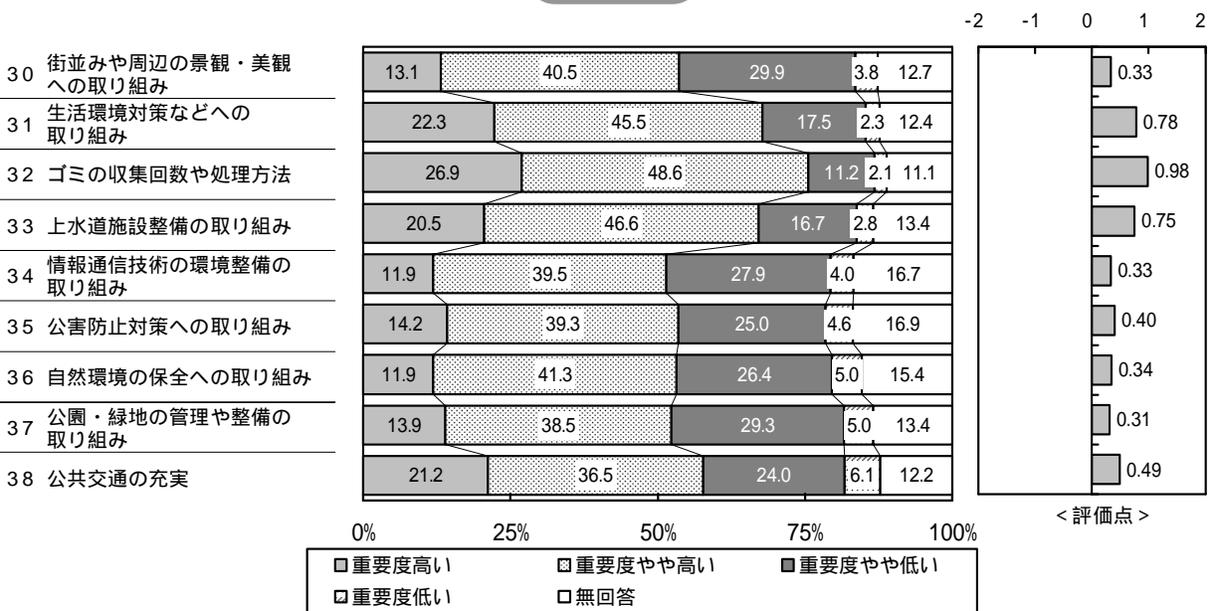
散布図をみると、この分野の取り組みは概ね第1象限に多くみられる。特に重要度は他の分野に比べて、『27 悩みごと相談など各種相談窓口の充実』を除いたいずれも高い傾向で、第1象限、第2象限の上の方に位置している。また、『22 自主防災組織の強化のための取り組み』『25 消防体制の整備への取り組み』や『28 幼稚園・保育園の整備』『29 小・中学校施設の整備』などは評価点が僅差で、類似の結果となっていることが一目瞭然である。

【 生活環境 】

満足度



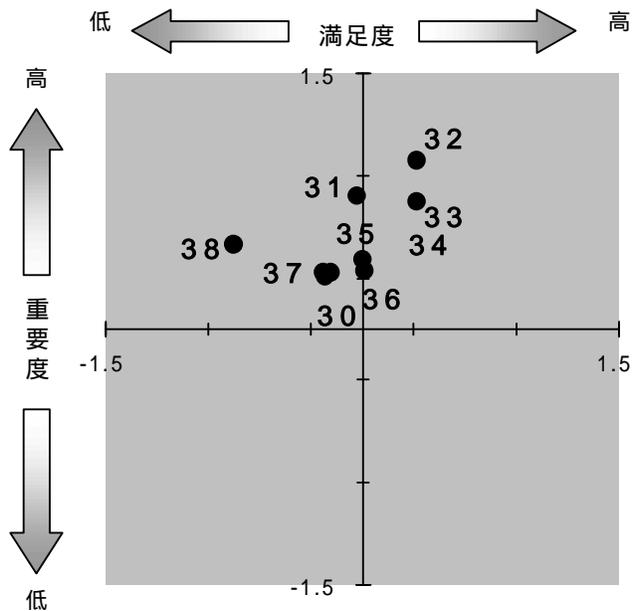
重要度



生活環境に関する取り組みの満足度では『32 ゴミの収集回数や処理方法』『33 上水道施設整備の取り組み』の2項目で、「満足」「やや満足」を合わせた“満足”が6割近くを占め、評価点が同点の0.32点となっている。一方評価点が最も低いのは、『38 公共交通の充実』で、-0.75点となっており、「不満」「大変不満」を合わせると6割を超えている。

重要度が最も高いのは『32 ゴみの収集回数や処理方法』で、「重要度高い」と「重要度やや高い」を合わせると7割を超えている。評価点をみると、『32 ゴみの収集回数や処理方法』が0.98点と最も高く、次いで『31 生活環境対策などへの取り組み』が0.78点、『33 上水道施設整備の取り組み』が0.75点となっており、この3項目において0.7点を超えている。

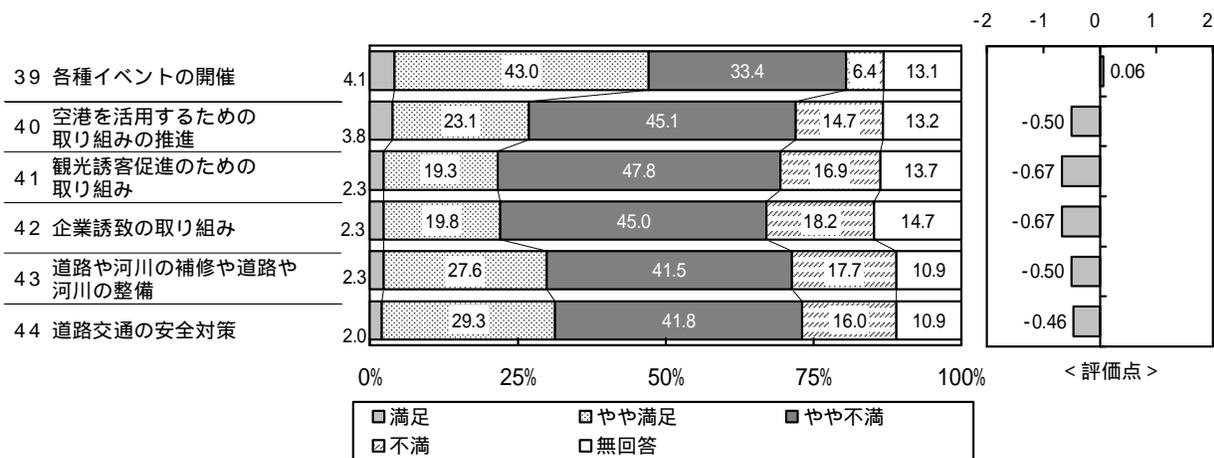
《生活環境》		満足度	重要度
30	街並みや周辺の景観・美観への取り組み	-0.18	0.33
31	生活環境対策などへの取り組み	-0.03	0.78
32	ゴミの収集回数や処理方法	0.32	0.98
33	上水道施設整備の取り組み	0.32	0.75
34	情報通信技術の環境整備の取り組み	-0.22	0.33
35	公害防止対策への取り組み	0.00	0.40
36	自然環境の保全への取り組み	0.02	0.34
37	公園・緑地の管理や整備の取り組み	-0.21	0.31
38	公共交通の充実	-0.75	0.49



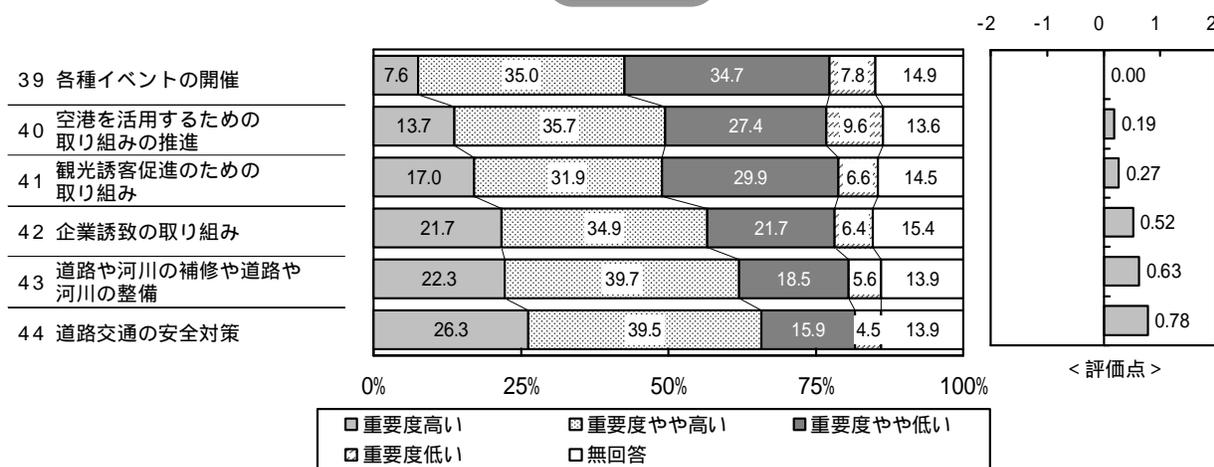
散布図をみると、この分野の取り組みも重要度がマイナスの取り組みとなる第3象限、第4象限に位置する項目はみられない。【安全安心社会】と同様、類似の結果となっている項目がみられる。特に『30 町並みや周辺の景観・美観への取り組み』『37 公園・緑地の管理や整備の取り組み』ほとんど差がない。また【安全安心社会】と比べると重要度は高くないが、その中で『32 ゴみの収集回数や処理方法』は高い位置に散布している。

【 まちの活性化 】

満足度



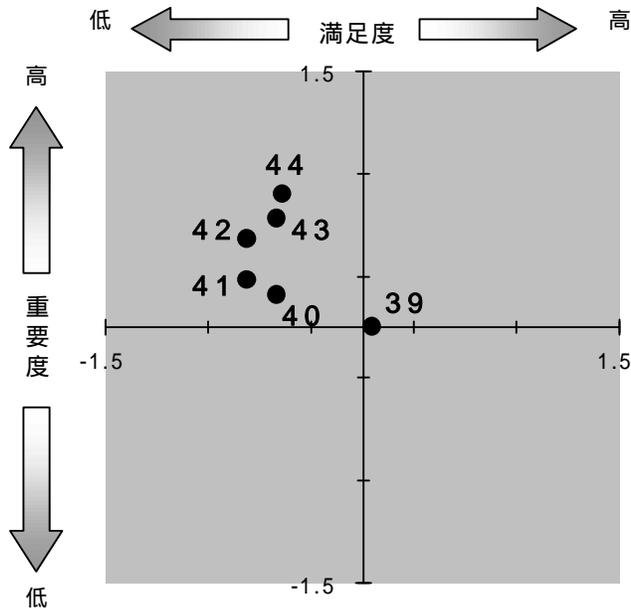
重要度



まちの活性化に関する取り組みで満足度が高いのは『39 各種イベントの開催』で、「満足」が43.0%と、半数近くを占め、この分野での評価点が唯一プラス値となっている。一方、『41 観光誘客促進のための取り組み』と『42 企業誘致の取り組み』では「大変不満」と「不満」を合わせた“不満”が6割以上を占めており、評価点は同点の - 0.67 点と著しく低くなっている。

重要度が最も高いのは『44 道路交通の安全対策』で、「重要度高い」がおよそ4人に1人の割合を占めている。評価点も最も高く、0.78 点となっている。評価点では、『43 道路や河川の補修や道路や河川の整備』が0.63点、『42 企業誘致の取り組み』が0.52点と続き、以上の3項目が0.5点を超えている。

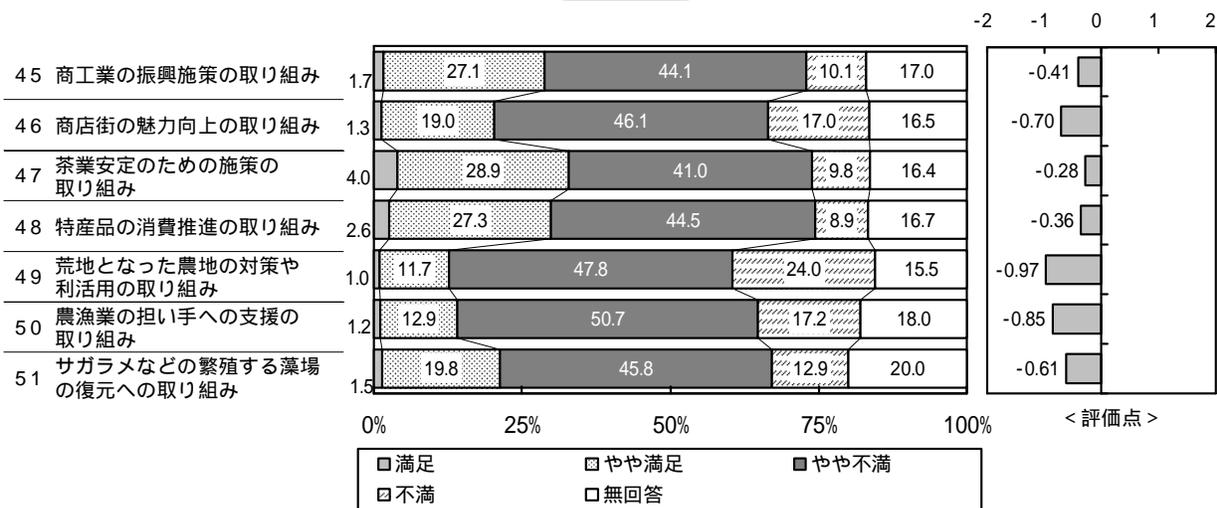
《まちの活性化》		満足度	重要度
39	各種イベントの開催	0.06	0.00
40	空港を活用するための取り組みの推進	-0.50	0.19
41	観光誘客促進のための取り組み	-0.67	0.27
42	企業誘致の取り組み	-0.67	0.52
43	道路や河川の補修や道路や河川の整備	-0.50	0.63
44	道路交通の安全対策	-0.46	0.78



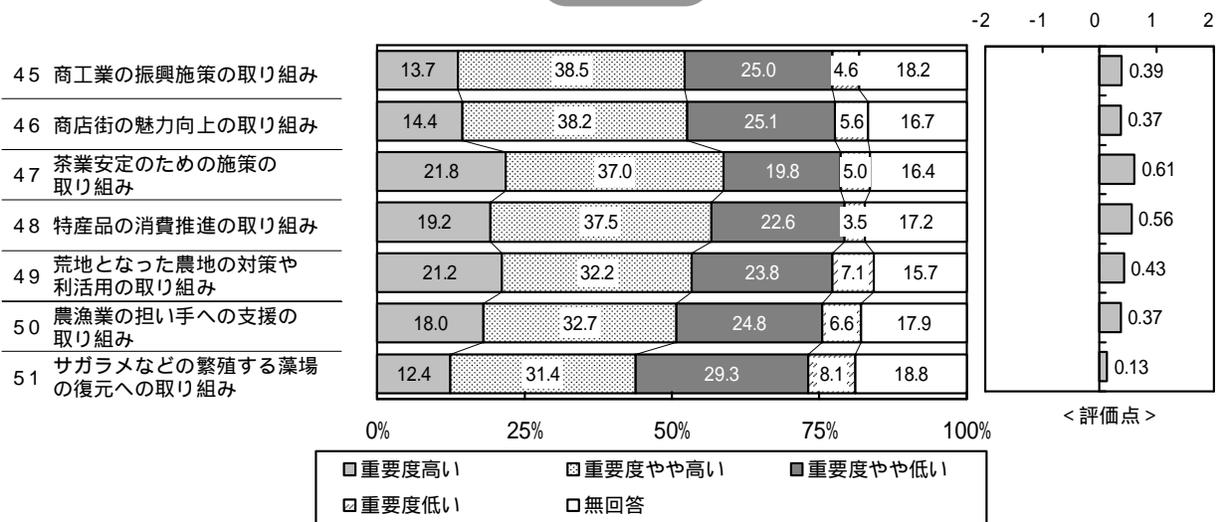
散布図をみると、『39 各種イベントの開催』を除いて、全て第2象限に固まって散布している。その中では『41 観光誘客促進のための取り組み』が、最も満足度が低いが、重要度も低く、期待感の薄い項目といえる。『39 各種イベントの開催』は、満足度、重要度のいずれも相反する意見がほぼ同率のため、原点に最も近い位置に散布している。

【 地場産業等の活性化 】

満足度



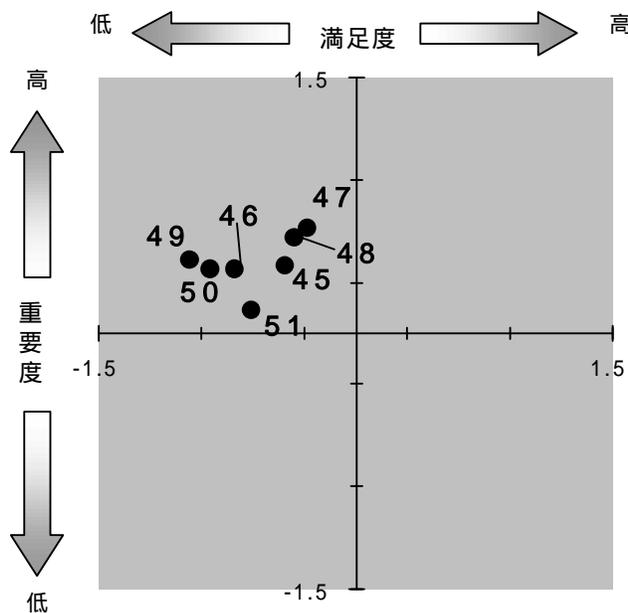
重要度



地場産業等の活性化に関しては、全ての取組みで「不満」が半数前後を占めており、評価点は全取組みでマイナス値となっている。特に「49 荒地となった農地の対策や利活用の取組み」では「大変不満」が4人に1人の割合を占め、評価点も -0.97 点と最も低くなっている。

一方、重要度に関して、全ての取組みで「重要度やや高い」が最も高い割合を占めており、評価点は全取組みでプラス値となっている。特に、『47 茶業安定のための施策の取組み』では、「重要度高い」が 21.8%、「重要度やや高い」が 37.0%で、評価点が 0.61 点と最も高くなっている。次いで『48 特産品消費推進の取組み』が 0.56 点と高く、この2項目が 0.5 点以上となっている。

《地場産業等の活性化》		満足度	重要度
45	商工業の振興施策の取り組み	-0.41	0.39
46	商店街の魅力向上の取り組み	-0.70	0.37
47	茶業安定のための施策の取り組み	-0.28	0.61
48	特産品の消費推進の取り組み	-0.36	0.56
49	荒地となった農地の対策や利活用の取り組み	-0.97	0.43
50	農漁業の担い手への支援の取り組み	-0.85	0.37
51	サガrameなどの繁殖する藻場の復元への取り組み	-0.61	0.13



散布図をみると、この分野の全取り組みは第2象限に位置しており、比較的まとまった状態で散布している。その中で、最も原点から離れているのは、『49 荒地となった農地の対策や利活用の取り組み』となっている。

問30 問29の51項目で、「不満」、及び「満足」の欄に 印をつけた項目の中で、最も不満、最も満足に感じている事項について、その理由をお教えてください

* 「不満」への自由意見が比較的多い 取り組みと代表的な理由（抜粋：ほぼ原文どおり）

【8 救急医療体制の整備、榛原総合病院の診療体制】

・救急病院の機能が達成できていない。今後、島田・焼津・静岡などの地域との体制になればますます地域の病院は老人にとって、通院・入院に大きな負担が生じてしまう。

【24 震災・火災・水害・浸水対策への取り組み】

・東北地方で大震災があったにも関わらず、あまり対策が行われていない。津波による被害や安全な場所などをもっと提示してもらいたい。

【38 交通の充実（バス交通など）】

・バスの経路、本数、時刻、バス停が限られているため、公共交通を利用するのが大変不便。車がないと移動できず、老人、運転ができない人は大変困る。

【49 耕作者がいないなど、荒地となった農地の対策や利活用の取り組み】

・荒地になると元に戻すのにすごく手がかかる。ゴミを捨てていく人が多くなる。家庭菜園を体験したい人を募る。

* 「満足」への自由意見が比較的多い 取り組みと代表的な理由（抜粋：ほぼ原文どおり）

【7 乳児医療費制度】

・子どもはすぐ体調崩すけど、助成のおかげでとても受診しやすく助かっています。

【17 学校や地域で子どもを守る取り組み（軒先運動や青色パトロールなど）】

・地域のお年寄りの方達が、雨の日も風の日も暑い日も寒い日も、下校する子ども達の安全を守っていてくれる姿には敬服しています。

【21 生涯学習など教養を高める機会の提供】

・はりはらや田沼など、すごく頑張ってやってくれていると思います。毎年チラシを見るだけでもうきうきしています。

【32 ゴミの収集回数や処理方法】

・ゴミの回収で特に困ったことがないので。細かいところまでわかりやすくしてくれてあるのでありがたいです。

市の取り組みに対する自由意見は、「満足」よりも「不満」の方が、かなり多くなっている。「不満」と回答している理由は、医療体制の整備をはじめ、公共交通機関の充実や農地対策など、多岐の取り組みに渡っている。また、東日本大震災を受けて、震災への取り組みに関する意見も多く見られる。

一方、「満足」と回答している理由は、乳幼児医療費制度や生涯学習の提供、ゴミの収集回数や処理方法などで多く挙げられている。

問31 あなたが今、市で取り組むべき、取り組んでほしいと思うことについて、ご意見をお書きください。

(抜粋：ほぼ原文どおり)

【市 政】

- ・力を入れなくてはいけないところがいっぱいあると思う。市民の声を聞き、しっかり検討してほしいと思います。

【財 政】

- ・財政難を解決すべく、町の収益はどうなっているのか、市民に公開してください。そして収益向上のために市民と一緒にがんばってほしいです。

【観 光】

- ・空港の活用の推進。空港周辺の観光誘客推進のための取り組み。

【福 祉】

- ・高齢者が多いので福祉サービス・健康相談などの取り組みの強化。

【防災・防犯】

- ・防災対策。以前にも増して、津波などに対する取り組みを強化してほしい。
- ・3/11 東日本大震災は人ごととは思われません。牧之原市民ももっと東海地震想定避難訓練をするべきだと思います。
- ・原発問題について、利害にとらわれず、将来の子ども達に禍根を残さないよう取り組んでほしい。

今、市が取り組むべき、取り組んで欲しい事項については、多岐にわたる分野で様々な意見が挙げられているが、東日本大震災を受けて、防災対策の強化を求める意見や浜岡原子力発電所への対応に関する意見などが多くなっている。

問32 暮らしの中で日ごろ喜びや怒りを感じたり、不満に思っていることや、市長や市職員への意見など、ご自由にお書きください。

(抜粋：ほぼ原文どおり)

【市 政】

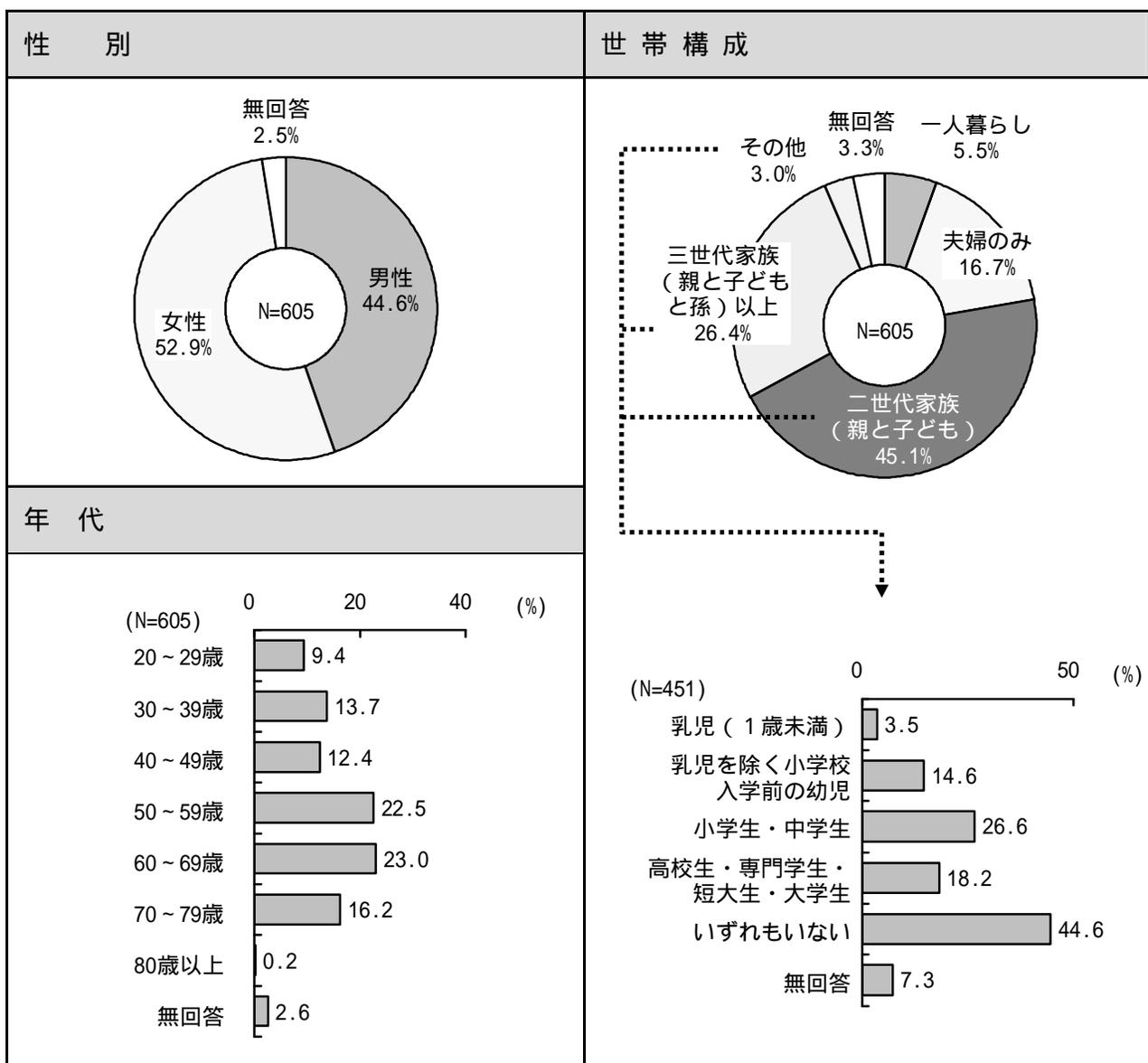
- ・市長さんが色々なところでお話し合いに来てくださるので、老人でも市政に関心を持てる。
- ・市長はメディアへのパフォーマンスばかりではなく、市民のためになる市政をしっかりとやってほしい。

【職 員】

- ・市民への待遇が良くなった印象を受けます。常に誇りと情熱を持って職務に専念してください。
(前年度踏襲のマンネリ化、問題意識の喪失に陥らない工夫を願います。)
- ・市役所に行って手続きする際、丁寧なのは良いが笑顔が足りない気がする。もっとにこやかに接するべきであると考えます。
- ・市職員(担当)と、各区長(町内会町)との連携を良く取って(話し合いの場を増やして)ほしい。

問 31 の意見とかなりの部分で重なっているが、暮らしの中で日ごろ喜びや怒りを感じたり、不満に思っていることについて、様々な意見が挙げられている。特に市長の市政運営に関する代表的な意見と市職員に対する代表的な意見を上記に記載してある。

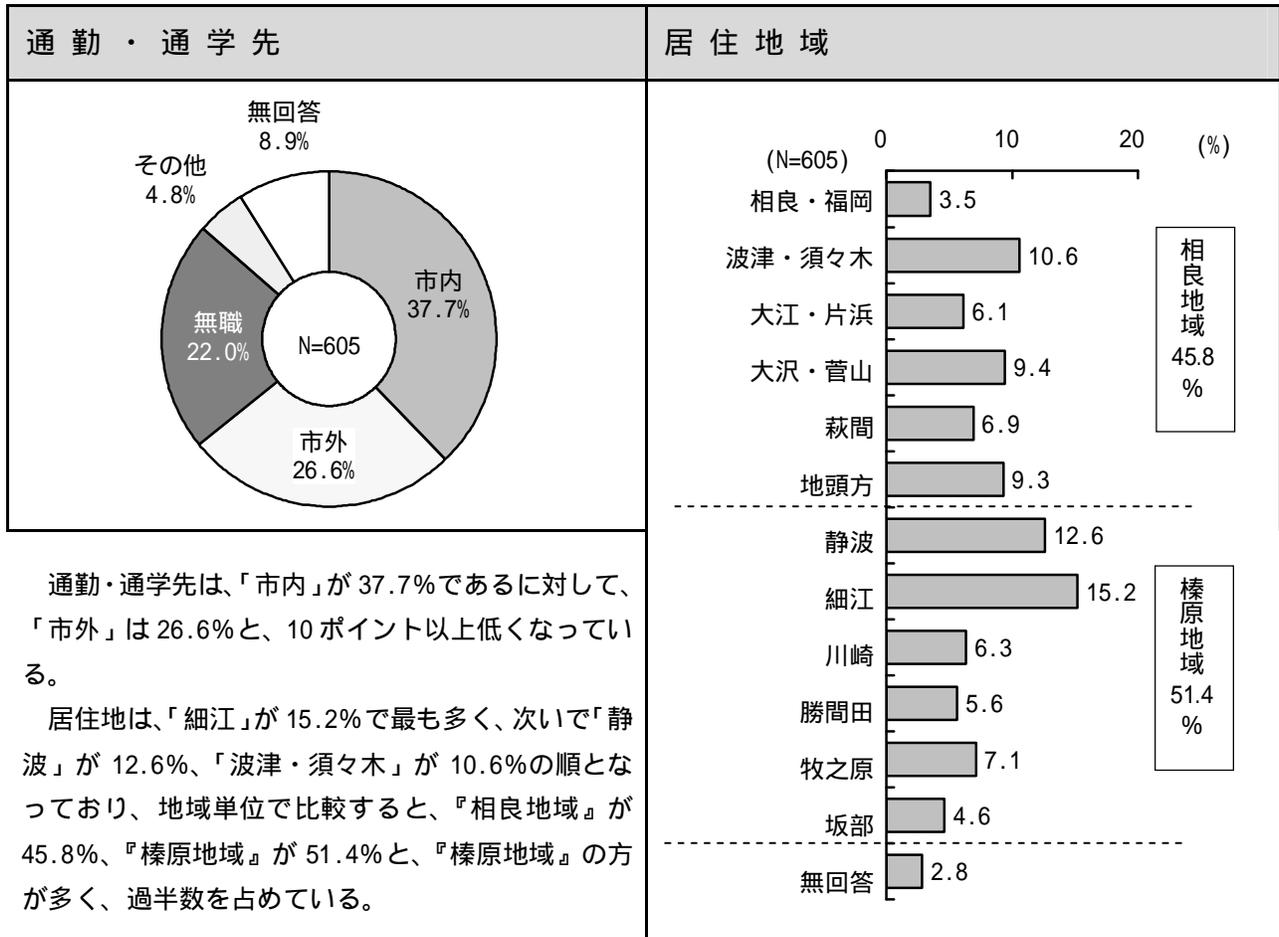
< 回答者の属性 >



性別は、「男性」が44.6%に対して、「女性」が52.9%と、女性の方が8.3ポイント高くなっている。

年代は、「60～69歳」が23.0%で最も多く、次いで「50～59歳」が22.5%、「70～79歳」が16.2%の順となっている。

世帯構成は、「二世世代家族(親と子ども)」が45.1%で最も高い割合を占め、次いで「三世代家族(親と子どもと孫)」が26.4%が高く、4人に1人の割合を占めている。「一人暮らし」と「夫婦のみ」を除く、他世帯との同居家族451人の、同居家族の状況については、「いずれもない」(乳児や小学生など、他の選択肢を示す)が44.6%と最も多くなっている。これに無回答を合わせて除いたおよそ半数の人の中では「小学生・中学生」のいる家庭が最も多く、26.6%となっている。



牧之原市の取り組みに あなたの声を！

牧之原市 市民意識調査

～ 調査ご協力のお願い ～

日ごろより市政推進のためにご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、牧之原市では、市政を総合的、計画的に進めていくための指針である「第1次牧之原市総合計画」に基づき、幸福実現都市を目指し、様々な取り組みを進めています。

今回の調査は、皆さんの意向を把握し、これからの事務事業に反映していくために実施するものです。

この調査は、市内にお住まいの20歳以上の方の中から無作為に選ばせていただいた1,300人の方を対象に行っており、今回、あなた様に回答をお願いすることとなりました。

お答えいただきました内容は、すべて統計的に処理し、他の目的には一切使用いたしませんので、お考えのままをご記入ください。

ご多忙のところ誠に恐縮ですが、牧之原市の発展のため、ご協力いただきますようお願い申し上げます。

なお、調査結果については、23年10月に公表を予定しています。

平成23年6月

牧之原市長 西原茂樹

ご記入にあたってのお願い

1. この調査はあて名のご本人がご記入ください。
ご本人が高齢等でご記入できない場合は、お手数ですが、ご家族が聞き取り等でご記入願います。
2. 回答は無記名でお願いします。
3. 回答は、設問ごとに(1つに) (3つ以内) などそれぞれ指定されていますので、お間違えのないようお気を付けてください。
例()
は番号を囲むように濃くつけてください。

調査票の返送と調査に関するお問合せ

調査票にご記入いただきましたら、市議会アンケートと一緒に、同封しました返信用封筒により、市役所政策協働部企画課までご返送ください。(切手は不要です。)

お手数をお掛けしますが、お近くの郵便ポストへ7月19日(火)までにご投函ください。

この調査や質問内容についてのお問い合わせは下記までお願いいたします。

牧之原市 政策協働部 企画課(担当:源間・松久) 電話0548-23-0040

< 牧之原市に居住することについてお聞きします >

問1 あなたは、今お住まいの場所に今後とも住み続けたいと思いますか？

1. 住み続けたい	2. 市内の他の場所へ移りたい
3. 市外へ移りたい	4. わからない

(問1で「1 住み続けたい」と答えた方にお聞きします)

▶問2 - 1 住み続けたい理由を、次の中から3つ以内で選んで 印をつけてください。

1. 生まれ故郷だから	2. 自然環境が豊かだから	
3. 通勤・通学などに交通面が便利だから	4. 知人や親族が住んでいるから	
5. 道路などの生活基盤が整備されているから	6. 子育て・教育環境に恵まれているから	
7. 公共施設や商店が整い生活に便利だから	8. 会社・学校の都合	9. 結婚のため
10. その他(具体的に:)		

(問1で「2 市内の他の場所へ移りたい」または「3 市外へ移りたい」と答えた方にお聞きします。)

▶問2 - 2 他の地域へ移りたい理由を、次の中から3つ以内で選んで 印をつけてください。

1. 故郷ではないから	2. 自然環境が悪化しているから
3. 通勤・通学などに交通面が不便だから	4. 知人や親族がいないから
5. 道路などの生活基盤が整備されていないから	6. 子育て・教育環境が悪いから
7. 公共施設や商店がなく生活に不便だから	8. 会社・学校の都合
9. 結婚のため	10. 人間関係やしきたり等が煩わしいから
11. その他(具体的に:)	

(問2-2で「3 通勤・通学などに交通面が不便だから」と答えた方にお聞きします。)

▶問3 どのように不便ですか？ 次の中から3つ以内で選んで 印をつけてください。

1. バスの本数が少ないから	2. バス停が近くにないから
3. 電車が通っていないから	4. 電車の駅が近くにないから
5. 主要道路がないから	6. 道路が整備されていないから
7. その他(具体的に:)	

(問 2-2 で「7 公共施設や商店がなく生活に不便だから」と答えた方にお聞きします。)

問4 どんな施設があれば良いとお考えですか？ 次の中から3つ以内で選んで 印をつけてください。

- | | | |
|-------------------------|--------------|-----------------|
| 1. 図書館 | 2. 病院・診療所 | 3. 老人ホーム |
| 4. 警察署 | 5. 公園・運動施設 | 6. 市民ホール |
| 7. 駅 | 8. スーパー・コンビニ | 9. 大型ショッピングセンター |
| 10. ファーストフード・ファミリーレストラン | 11. 映画館 | |
| 12. その他(具体的に: _____) | | |

問5 あなたは、牧之原市に愛着を感じていますか？あてはまるものに1つ 印をつけてください。
「愛着」・・・牧之原市への思いを持ち続けていたいという気持ちなど

- | | | |
|------------|---------|--------------|
| 1. 大いに感じる | 2. 感じる | 3. どちらともいえない |
| 4. あまり思わない | 5. 感じない | |

< 合併後のまちづくりについてお聞きします >

問6 あなたは牧之原市となって市政全般がどのように変化したと思いますか？あてはまるものに1つ 印をつけてください。

- | | | |
|---------------------|--------------|----------|
| 1. 大いに良くなった | 2. ある程度良くなった | 3. 変わらない |
| 4. やや悪くなった | 5. 非常に悪くなった | 6. わからない |
| 7. その他(具体的に: _____) | | |

(問6で「1 大いに良くなった」「2 ある程度良くなった」または「4 やや悪くなった」「5 非常に悪くなった」と答えた方にお聞きします。)

問7 「良くなったところ」または「悪くなったところ」について、ご自由にお書きください。

1 良くなったところ ((例) 人の交流が多くなった)

2 悪くなったところ ((例) まちの一体化が進んでいない)

< 市からの情報提供についてお聞きします >

問 8 あなたは、市の取り組みや行事などの情報が発信されていると思いますか？あてはまるものに1つ 印をつけてください。

- | | | |
|------------|-------------|--------------|
| 1. 大いに思う | 2. ある程度思う | 3. どちらともいえない |
| 4. あまり思わない | 5. まったく思わない | 6. わからない |

問 9 あなたは、市の取り組みや行事などの情報が役に立っていると思いますか？あてはまるものに1つ 印をつけてください。

- | | | |
|------------|-------------|--------------|
| 1. 大いに思う | 2. ある程度思う | 3. どちらともいえない |
| 4. あまり思わない | 5. まったく思わない | 6. わからない |

問 10 あなたは市の取り組みや行事などの情報を何によって知ることが多いですか？あてはまるもの全てに 印をつけてください。

- | | | |
|------------------|-------------------------------|-------------|
| 1. 広報まきのはら | 2. ホームページ | 3. 議会だより |
| 4. 教育委員会だより | 5. 新聞、テレビ、ラジオ | 6. 区、町内会の会合 |
| 7. 市民グループの会合 | 8. 議員の話 | 9. 市職員の話 |
| 10. 家族や知人、近所の人の話 | 11. 公民館や公共施設などに備えられている資料やお知らせ | |
| 12. 特にない | 13. その他(具体的に:) | |

< 牧之原市の協働の取り組みについてお聞きします >

協働とは、市民の皆さま、市長や市の職員、議会が、自らの果たすべき役割や責務を自覚して、自主性を相互に尊重しながら、協力したり補い合ったりすることです。

問 11 あなたは、協働の取り組みが大事だと思いますか？あてはまるものに1つ 印をつけてください。

- | | | |
|------------|-------------|--------------|
| 1. 大いに思う | 2. ある程度思う | 3. どちらともいえない |
| 4. あまり思わない | 5. まったく思わない | 6. わからない |

問 12 市の取り組みについて、協働の取り組みが進んでいると思いますか。

- | | | |
|-------------------|----------------|----------|
| 1. 進んでいると思う | 2. 以前と比べると思う | |
| 3. あまり進んでいるとは思わない | 4. 進んでいるとは思わない | 5. わからない |

(問 12 で「1 進んでいると思う」と「2 以前と比べ進んでいると思う」と答えた方にお聞きます。)

→ 問 13 協働の取り組みが進んでいると思う分野は次のうちのどの分野だと思いますか。あてはまるもの全てに 印をつけてください。

- | | | | |
|---------------|------------|------------|---------|
| 1. 環境への取り組み | 2. イベントの開催 | 3. 各種計画づくり | |
| 4. 防災対策への取り組み | 5. 健康づくり | 6. 子育て | 7. 情報発信 |
| 8. その他(具体的に: |) | | |

問 14 あなたは、あなたがお住いの地域で困っていることや不安を感じていることを自分たちで解決できていると思いますか?あてはまるものに1つ 印をつけてください。

- | | | |
|------------|-------------|--------------|
| 1. 大いに思う | 2. ある程度思う | 3. どちらともいえない |
| 4. あまり思わない | 5. まったく思わない | 6. わからない |

ご存じですか?

市議会 2 月定例会において「牧之原市自治基本条例」が可決、制定され、10 月 1 日から施行されます。この条例では、牧之原市のまちづくりに関する基本的な事項を定めており、市民の誰もが市政に参加できる場や情報への権利を保障しているだけでなく、市の職員や市民の皆さまと一緒にまちづくりに取り組んでいく目標がはっきりとうたわれています。

これからのまちづくりを考えると、今まで以上に協働の取り組みが必要です。特に、災害時には、協働・連携の取り組みなくして対応することは困難です。

こうした、人と人とのつながりを大切に、自らの意思と責任に基づいて互いに支えあう協働のまちづくりを進めることにより、一人ひとりの思いが生かされる牧之原市を目指していきます。

<毎日の暮らしについてお聞きします>

問 15 あなたは、心も体も健康で生活していると思いますか？あてはまるものに1つ 印をつけてください。

- | | | |
|------------|-------------|--------------|
| 1. 大いに思う | 2. ある程度思う | 3. どちらともいえない |
| 4. あまり思わない | 5. まったく思わない | 6. わからない |

問 16 あなたは、今現在、幸せだと思いますか？あてはまるものに1つ 印をつけてください。

- | | | |
|------------|-------------|--------------|
| 1. 大いに思う | 2. ある程度思う | 3. どちらともいえない |
| 4. あまり思わない | 5. まったく思わない | 6. わからない |

問 17 あなたにとって、幸せな生活のために必要なことはどんなことだと思いますか？次の中から5つ以内で選んで 印をつけてください。

- | | | |
|----------------------|-------------------|---------------------|
| 1. 健康であること | 2. 食生活が良好であること | 3. 住まいがあること |
| 4. 生活に余裕があること | 5. 家族との関係が良好なこと | 6. 災害がないこと |
| 7. 治安が保たれていること | 8. 食の安全が保たれていること | 9. 子どもの安全が保たれていること |
| 10. 生活環境が良好なこと | 11. 近所づきあいが良好なこと | 12. 地域活動・行事に参加できること |
| 13. 地域に憩いの場があること | 14. 頼れる人がいること | 15. 地域に愛着があること |
| 16. 人から頼りにされること | 17. 自分が活躍する場があること | 18. 社会に貢献していると感じること |
| 19. 余暇が充実していること | 20. 生きがいがあること | |
| 21. その他(具体的に: _____) | | |

<子育てについてお聞きします>

問 18 あなたは、牧之原市は、子どもを産み育てやすいところだと思いますか？あてはまるものに1つ 印をつけてください。

- | | | |
|------------|-------------|--------------|
| 1. 大いに思う | 2. ある程度思う | 3. どちらともいえない |
| 4. あまり思わない | 5. まったく思わない | 6. わからない |



(問 18 で「4 あまり思わない」、「5 まったく思わない」と答えた方にお聞きします。)
▶問 19 子どもを産み育てやすいと思わない理由をご自由にお書きください。

子どもを産みそだてやすいと思わない理由

<まちの活性化についてお聞きします>

問 20 あなたは、市内で産業間（農業や工業、商業など）の交流が行われていると思いますか？
あてはまるものに1つ 印をつけてください。

1.大いに思う	2.ある程度思う	3.どちらともいえない
4.あまり思わない	5.まったく思わない	6.わからない

問 21 あなたは、空港の就航先など市外との交流が行われていると思いますか？
あてはまるものに1つ 印をつけてください。

1.大いに思う	2.ある程度思う	3.どちらともいえない
4.あまり思わない	5.まったく思わない	6.わからない

<地場産業等の活性化についてお聞きします>

問 22 あなたが、ひとに自慢できる特産品（地場産品）は、何ですか？その特産品（地場産品）
を教えてください。

特産品（地場産品）名をお書きください

問 23 問 22 でお答えになった特産品（地場産品）をひとに紹介したことがありますか？あては
まるものに 印をつけてください。

1.ある	2.ない
------	------

<環境に配慮した暮らしについてお聞きします>

問 24 あなたは、資源を節約し有効利用するための行動として、節電、節水、リサイクルなどの活動を実践していますか？あてはまるものに1つ 印をつけてください。

- | | | |
|--------------|---------------|--------------|
| 1. 大いに実践している | 2. ある程度実践している | 3. どちらともいえない |
| 4. あまり実践してない | 5. まったく実践してない | 6. わからない |

(問 24 で「1 大いに実践している」「2 ある程度実践している」と答えた方にお聞きします。)

▶ 問 25 実践していることについて、ご自由にお書きください。

実践していることについてお書きください ((例) 太陽光パネルの設置)

問 26 あなたは、自然環境を守るための行動として、緑化、自然保護、環境美化などの活動を実践していますか？あてはまるものに1つ 印をつけてください。

- | | | |
|--------------|---------------|--------------|
| 1. 大いに実践している | 2. ある程度実践している | 3. どちらともいえない |
| 4. あまり実践してない | 5. まったく実践してない | 6. わからない |

<原子力発電についてお聞きします>

牧之原市は、東海地震が想定されている地域であり、隣接する御前崎市に中部電力の浜岡原子力発電所があります。現在、浜岡原子力発電所の各原子炉は、国の要請により、停止している状況です。

問 27 あなたは、浜岡原子力発電所の今後についてどう思いますか？あてはまるものに1つ 印をつけてください。

- | | |
|---------------------------------|----------|
| 1. 浜岡原子力発電所の安全が確認できれば、稼働したほうがよい | |
| 2. 浜岡原子力発電所は、停止しておいたほうがよい | |
| 3. どちらともいえない | 4. わからない |
| 5. その他(具体的に: _____) | |

< 牧之原市の行政サービスについてお聞きします >

問 28 市の財政状況が大変厳しい中、行政サービスなどについてどう考えますか？
次の 1～6 のうち該当する項目に 〇 を 1 つ付けてください。

1. 行政サービスの低下が生じてもやむを得ない
2. 行政サービスの低下を招くことのないよう、市民生活に直接関係のない取り組みの経費を削減
3. 全体的なサービス低下とならないよう、一部のサービスは向上させるなど、メリハリをつけた取り組みが必要
4. 行政サービスの低下を招くことのないよう、借入をするなど財源の確保に取り組むことが必要
5. わからない
6. その他(具体的に: _____)

問 29 あなたは、市の取り組みについて満足していますか？ また、その取り組みが重要であると考えますか？ 該当する欄に 〇 をお付けください。

取り組みによっては、あなたに直接関係のない取り組みも含まれることと思いますが、ご家族や知人の状況、あるいは、あなたの思いや考えなどの中で、いずれかの欄に 〇 をつけてください。

(満足度・重要度について、 はそれぞれ1つずつ)

評価項目	満足度				重要度			
	満足	←→		不満	高い	←→		低い
	満足	やや満足	やや不満	不満	高い	やや高い	やや低い	低い
〔記入例〕 行政改革の取り組み	1	2		4	1		3	4
【自治体体質の強化】								
1 市の情報や知りたい取り組みなどについて、 広報紙などによる十分な情報発信	1	2	3	4	1	2	3	4
2 行政と一緒に、課題解決やイベントなどの 事業への取り組み(市では協働を進めています。)	1	2	3	4	1	2	3	4
3 自治会の住民自治活動への支援 (財源と人)	1	2	3	4	1	2	3	4
4 地区公民館などの活動拠点の施設整備	1	2	3	4	1	2	3	4
5 旧町間の格差を取り除く、市の一体感の醸成を 図る取り組み	1	2	3	4	1	2	3	4
6 行政改革の取り組み(効果的、効率的な取り組み)	1	2	3	4	1	2	3	4

評価項目	満足度				重要度			
	満足	やや満足	やや不満	不満	高い	やや高い	やや低い	低い
【健康福祉】								
7 乳幼児医療費制度 (現在、未就学児まで医療費助成を行っています。 基本的には1回の受診は個人負担が500円)	1	2	3	4	1	2	3	4
8 救急医療体制の整備、榛原総合病院の診療体制 (平成22年3月から指定管理者制度が導入されています。)	1	2	3	4	1	2	3	4
9 高齢者への福祉サービスの取り組み (介護予防や高齢者の自主的な活動への支援など)	1	2	3	4	1	2	3	4
10 障がい者への福祉サービスの取り組み (生活支援の取り組みなど)	1	2	3	4	1	2	3	4
11 福祉施設などの整備(介護の必要な方や障がいのある方が利用する施設などの整備)	1	2	3	4	1	2	3	4
12 健康づくりサービスの推進 (介護予防、健診、スポーツ支援)	1	2	3	4	1	2	3	4
13 健康相談などの日常的な保健活動	1	2	3	4	1	2	3	4
14 公共スポーツ施設の整備(グラウンド、体育館、プール、テニスコートなど)	1	2	3	4	1	2	3	4
15 子育て支援の取り組み (放課後児童クラブや無料学習塾などの取り組み、子育て支援センターや児童館の施設整備など)	1	2	3	4	1	2	3	4
【生涯学習】								
16 図書館の機能充実や図書館整備に関する取り組み	1	2	3	4	1	2	3	4
17 学校や地域で子どもを守る取り組み (軒先運動や青色パトロールなど)	1	2	3	4	1	2	3	4
18 家庭や地域での子どもたちへの教育力向上への取り組み	1	2	3	4	1	2	3	4
19 文化や歴史の活用などの取り組み	1	2	3	4	1	2	3	4
20 音楽や演劇などの接する機会の提供	1	2	3	4	1	2	3	4
21 生涯学習など教養を高める機会の提供 趣味などのサークル活動への参加機会の提供 (はりほら塾や田沼塾などの取り組み)	1	2	3	4	1	2	3	4

評価項目	満足度				重要度			
	満足	やや満足	やや不満	不満	高い	やや高い	やや低い	低い
【安全安心社会】								
22 自主防災組織の強化のための取り組み (防災訓練や防災資機材整備の補助など防災体制整備への取り組みなど)	1	2	3	4	1	2	3	4
23 家具等の転倒防止などの防災対策への取り組み	1	2	3	4	1	2	3	4
24 震災・火災・水害・浸水対策への取り組み	1	2	3	4	1	2	3	4
25 消防体制の整備(消防の広域化)への取り組み	1	2	3	4	1	2	3	4
26 夜道、盗難などの犯罪防止に対する取り組み	1	2	3	4	1	2	3	4
27 悩みごと相談など各種相談窓口の充実	1	2	3	4	1	2	3	4
28 幼稚園・保育園の整備(耐震化への施設整備)	1	2	3	4	1	2	3	4
29 小・中学校施設の整備(耐震化への施設整備)	1	2	3	4	1	2	3	4
【生活環境】								
30 街並みや周辺の景観・美観への取り組み	1	2	3	4	1	2	3	4
31 生活環境対策などへの取り組み (ゴミ減量化の啓発、風や太陽光などの活用、資源回収への支援など)	1	2	3	4	1	2	3	4
32 ゴミの収集回数や処理方法	1	2	3	4	1	2	3	4
33 上水道施設整備の取り組み	1	2	3	4	1	2	3	4
34 情報通信技術(I T)の環境整備の取り組み	1	2	3	4	1	2	3	4
35 公害防止対策への取り組み (工場や事業所に対する取り組み)	1	2	3	4	1	2	3	4
36 自然環境の保全への取り組み (活動団体への支援など)	1	2	3	4	1	2	3	4
37 公園・緑地の管理や整備の取り組み	1	2	3	4	1	2	3	4
38 公共交通の充実(バス交通など) (生活交通の利便性向上(通勤・通学など)) (日常の買い物の利便性の向上の取り組み)	1	2	3	4	1	2	3	4

評価項目	満足度				重要度			
	満足	やや満足	やや不満	不満	高い	やや高い	やや低い	低い
【まちの活性化】								
39 各種イベントの開催	1	2	3	4	1	2	3	4
40 空港を活用するための取り組みの推進 (情報発信や交流の推進)	1	2	3	4	1	2	3	4
41 観光誘客促進のための取り組み	1	2	3	4	1	2	3	4
42 企業誘致の取り組み	1	2	3	4	1	2	3	4
43 道路や河川の補修や道路や河川の整備	1	2	3	4	1	2	3	4
44 道路交通の安全対策(歩道などの整備)	1	2	3	4	1	2	3	4
【地場産業の活性化】								
45 商工業の振興施策の取り組み	1	2	3	4	1	2	3	4
46 商店街の魅力向上の取り組み	1	2	3	4	1	2	3	4
47 茶業安定のための施策の取り組み	1	2	3	4	1	2	3	4
48 特産品の消費推進の取り組み	1	2	3	4	1	2	3	4
49 耕作者がいないなど、荒地となった農地の対策 や利活用の取り組み	1	2	3	4	1	2	3	4
50 農漁業の担い手への支援の取り組み	1	2	3	4	1	2	3	4
51 サガラメ(海草の一種)などの繁殖する藻場の 復元への取り組み	1	2	3	4	1	2	3	4

問 30 問 29 の 51 項目で、「不満」、及び「満足」の欄に 印をつけた項目の中で、最も不満、最も満足に感じている事項について、その理由をお教えてください。

「不満」の中で最も不満と感じる項目についてお書きください	
番号	理由

「満足」の中で最も満足とを感じる項目についてお書きください	
番 号	理 由

問 31 あなたが今、市で取り組むべき、取り組んでほしいと思うことについて、ご意見をお書きください。

問 32 暮らしの中で日ごろ喜びや怒りを感じたり、不満に思っていることや、市長や市職員への意見など、ご自由にお書きください。

設問に対するお問い合わせは、牧之原市 政策協働部 企画課 電話0548-23-0040

裏面の属性に関する設問へのご回答も忘れずをお願いします。

<最後に、あなたご自身のことについてお聞きします>

それぞれの項目ごとにあてはまる番号を選んでください。

1 あなたの性別は？

1. 男性 2. 女性

2 あなたの年齢は？

1. 20～29歳 2. 30～39歳 3. 40～49歳 4. 50～59歳
5. 60～69歳 6. 70～79歳 7. 80歳以上

3 あなたを含む同居世帯の構成は？（ はひとつ）

1. 一人暮らし 2. 夫婦のみ 3. 二世帯家族（親と子ども）
4. 三世帯家族（親と子どもと孫）以上 5. その他（ ）

（3.～5.に を付けた方にお聞きします。）

▶ 4 同居している家族の中に、次のような方はいますか？（あてはまるものすべてに ）

1. 乳児（1歳未満） 2. 乳児を除く小学校入学前の幼児
3. 小学生・中学生 4. 高校生・専門学生・短大生・大学生
5. いずれもない

5 あなたの通勤・通学先はどちらですか？（ はひとつ）

1. 市内 2. 市外（ 市・町 ） 3. 無職 4. その他（ ）

6 現在、あなたがお住まいの地域はどちらですか？

1. 相良・福岡 2. 波津・須々木 3. 大江・片浜 4. 大沢・菅山
5. 萩 間 6. 地頭方 7. 静 波 8. 細 江
9. 川 崎 10. 勝間田 11. 牧之原 12. 坂 部

ご 協 力 あり が と う ご ざ い ま し た。

お手数ですが、この調査票と市議会アンケートと一緒に同封の返信用封筒にお入れいただき、お近くの郵便ポストに7月19日（火）までにご投函ください。

平成 2 3 年度
牧之原市市民意識調査
報告書

発行 平成 23 年 9 月
発行者 牧之原市
企画・編集 政策協働部 企画課
〒421-0495
静岡県牧之原市静波 447 番地 1
TEL : 0548-23-0040 FAX : 0548-23-0059
E-Mail seisaku@city.makinohara.shizuoka.jp
<http://www.city.makinohara.shizuoka.jp/>